

設 計 書

道路メンテナンス事業	課 長		課 長 補 佐		課 長 補 佐		係 長		審 査 者		設 計 者	
年 月 日	令和 8 年 7 月 日						工 事 概 要	浜田橋 橋長 L=57.9m 排水・添加物施設工 1式 当て板補修工 1式 ジャッキ仮受けブラケット設置工 1式 支承取替え工 1式 塗替え塗装工 1式 表面含浸工 1式 仮設工 1式 雑工 1式				
工 事 番 号	第 号											
一河一川名 路 線 名	市道 波留大曲線 (浜田橋)											
施 行 位 置	阿久根市 波留 地内											
工 事 名	令和7年度 道路メンテナンス事業 浜田橋修繕工事(2工区)											
工 期	令和9年3月15日まで	施 行 方 法		直 営 ・ 請 負								
支 出 科 目	年 度 8	会 計		款		項	目	節				
	区 分		金 額				摘 要					
	設 計 額		円									
其 の 他	本橋梁は1973年に架設され、供用年数は53年になる。老朽化に伴い、支承部の腐食や鋼材部の防食機能の劣化など橋梁の損傷が著しく、危険な状況にある。そこで、橋梁詳細修繕計画に基づき、本橋梁の機能回復を図るべく補修を実施するものである。											

費 用	金 額	備 考
事 業 費	円	
工 事 費	円	
本 工 事 費	円	工事価格 円 消費税 相当額 円
附 帯 工 事 費		
測 量 及 び 試 験 費		
用 地 費 及 び 補 償 費		
換 地 諸 費 又 は 権 利 交 換 諸 費		
事 務 費		
事 務 雑 費		
工 事 雑 費		

設計概要

[illegible]

工 事 設 計 書		
設計書総括情報		
事 務 所 名	阿久根市	
設 計 書 名	実施設計書	
事 業 名	道路メンテナンス事業	
積算総括情報		
諸 経 費 体 系	A 公共	
適用単価区分	1 実施単価	
単価適用地区	31 北薩③	
単 価 適 用 日	0 令和 8年 7月 1日	
積算条件／諸経費情報	【 当 世 代 】	【 前 世 代 】
前払率 (%)	4 0 %	
工種	1 2 橋梁保全	
施工地域	0 3 一般影響有り(2)現道4工種	
現場環境改善費	0 2 計上有り (市街地以外)	
消費税税率	0 4 消費税税率：1 0 %	
契約保証	0 1 金銭的保証を要す	

本 工 事 費 内 訳 表

頁0-0003

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
＊＊本工事費＊＊						X1000
橋梁修繕工 レベル 1						Y1ZZ6
排水・添加物施設工 レベル 2						Y2691
排水・添加物施設取付金具取替工 レベル 3						Y011U0B00
取付金具取替工（手間のみ）			式			V0001 0
排水管取付金具 SS400	1		箇所			施工内訳0-0001号表 F0001 0
当て板補修工 レベル 2	2		組			Y2691
部材撤去工 レベル 3						Y011U0B00
補強部材撤去工 ボルトによる補強部材 平均質量200kg以下 G≤20 橋梁架設工事の積算 P4-68	3		部材			V0002 0 施工内訳0-0002号表

本 工 事 費 内 訳 表

頁0-0004

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
部材取替え工 レベル 3					Y011U0B00
		式			
新設鋼材重量 (SM490A) 切断・加工・ジंक含む					F0002 0
	308	kg			
ボルト・ナット TCB S10T M22×75					F0003 0
	15	本			
ボルト・ナット TCB S10T M22×65					F0004 0
	107	本			
ボルト・ナット HTB F10T M22×70					F0005 0
	24	本			
芯出し調整工 鋼材面用 10m2/日					V0003 0
橋梁架設工事の積算 P4-67	4.1	m ²			施工内訳0-0003号表
極小規模補修工事ガス切断切削仕上げ工 条件区分が1つ 3.765m 6mm≦t≦10mm 桁外面					V0004 0
橋梁架設工事の積算 P4-45	4	m			施工内訳0-0004号表
極小規模鋼桁孔明工 条件区分が1つ 95本 SM490 t≦30 水平及び下向き					V0005 0
橋梁架設工事の積算 P4-68	95	本			施工内訳0-0005号表
補強部材取付工 ボルトによる補強部材 平均質量200kg以下 G≦20					V0006 0
橋梁架設工事の積算 P4-68	7	部材			施工内訳0-0006号表

本 工 事 費 内 訳 表

頁0-0005

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
極小規模高力ボルト本締工					V0007 0
橋梁架設工事の積算 P4-71	146	本			施工内訳0-0007号表
ピンテール仕上げ工 250本未満					V0008 0
橋梁架設工事の積算 P4-70	146	本			施工内訳0-0008号表
金属パテ塗布工 A=0.22m2					V0009 0
	1	式			施工内訳0-0009号表
ジャッキ仮受けブラケット設置工 レベル 2					Y2265
下部工ブラケット撤去 600kgを超え2000kg以下 現道上への部材荷場をする場合 橋梁架設工事の積算 P4-38	4	基			施工内訳0-0010号表
アンカーボルトガス切断・補修工 25mmを超え40mm以下					V0011 0
橋梁架設工事の積算 P4-39	32	本			施工内訳0-0011号表
支承取替え工 レベル 2					Y2Z27
支承取替（鋼橋） 支承形式IV 下部工ブラケット取付有り	4	基			SQZ358 0
					施工内訳0-0012号表
ゴム支承 50×270×320 固定用SGメッキ ソールプレート・アンカーボルト・セットボルト含む					F0007 0
	2	基			

本 工 事 費 内 訳 表

頁0-0006

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
ゴム支承 67×270×320 可動用SGメッキ ソールプレート・アンカーボルト・セットボルト含む	2	基				F0008 0
コンクリート削孔（電動式コアボーリングマシン） アンカー材径 43mmを超え54mm以下 削孔深 500mm以下	4	孔				SQ361 0 施工内訳0-0013号表
コンクリート削孔（電動式コアボーリングマシン） アンカー材径 54mmを超え67mm以下 削孔深 500mmを超え1000mm以下	4	孔				SQ361 0 施工内訳0-0014号表
アンカー 適用アンカー材径40mmを超え55mm以下 削孔方向：下方向 アンカー材・注入材（材料費）含まず	8	本				SQZ364 0 施工内訳0-0015号表
ポリマーセメントモルタル 無収縮	0.011	m ³				T0815 0
塗替え塗装工 レベル2						Y2Z34
桁下塗替え塗装工 レベル3			式			Y011U0B00
塗膜剥離剤塗布・塗膜除去 2回想定	128	m ²				V0012 0 施工内訳0-0016号表
廃材の回収・積込	128	m ²				V0013 0 施工内訳0-0017号表

本 工 事 費 内 訳 表

頁0-0007

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
塗装塗装工 錆転換型防食塗装 2種ケレン～サビバリヤー	64	m ²			V0014 0 施工内訳0-0018号表
R面取り加工 R=2mm以上	80	m			V0015 0 施工内訳0-0020号表
表面含浸工 レベル 2					Y2064
下地処理工 サンダーケレン	23	m ²			V0016 0 施工内訳0-0022号表
含浸材塗布 シラン系	23	m ²			V0017 0 施工内訳0-0023号表
仮設工 レベル 2					Y2ZA1
吊足場 桁高h<1.5 (タイプA1) シート張防護 撤去 管理期間 10月～2月 (5ヶ月)	231	m ²			V0018 0 施工内訳0-0024号表
片側朝顔防護足場 (タイプE) シートのみ防護 片側施工 撤去 管理期間 10月～2月 (5ヶ月)	195	m ²			V0019 0 施工内訳0-0025号表
湿式塗膜剥離剤工用養生シート					V0020 0
橋梁架設工事の積算 P4-160	44	m ²			施工内訳0-0026号表

本 工 事 費 内 訳 表

頁0-0008

費目・工種・施工名称など		数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	吊りチェーン盛り替え工 タイプA3、A4以外					V0021 0
	橋梁架設工事の積算 P4-12	44	m ²			施工内訳0-0027号表
雑工	レベル 2					Y2154
	現場発生品及び支給品運搬 トラック(クレーン付)2t級、吊能力2.9t DID無し 6.0km超8.5km以下					SQZ207 0
		1.80	t			施工内訳0-0028号表
	共通仮設費、現場管理費、一般管理費対象外					#0046
	スクラップ ヘビーH1					F9001 0
		1.80	t			
直接工事費						
技術管理費						Z0006
			式			
当て板補修工	レベル 2					Y2691
	近接調査計測工					V0023 0
	橋梁架設工事の積算 P4-45	4.1	m ²			施工内訳0-0029号表

本 工 事 費 内 訳 表

頁0-0009

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
支取替え工 レベル 2						Y2Z27
極小規模鉄筋探查工 条件区分が1つ 2.8m2 下向き						V0024 0
橋梁架設工事の積算 P4-68	3	m ²				施工内訳0-0030号表
塗替え塗装工 レベル 2						Y2Z70
塗膜剥離試験 水系剥離剤使用 3種類						V0025 0
現場環境改善費	1	橋				施工内訳0-0031号表
共通仮設費 (率分)			式			Z0010
** 共通仮設費計 **			式			
** 純工事費 **						
現場管理費			式			

本 工 事 費 内 訳 表

頁0-0010

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
＊＊現場管理費計＊＊						
＊＊工事原価＊＊						
一般管理費						
契約保証費			式			
＊＊一般管理費等計＊＊			式			
＊＊工事価格＊＊						
消費税相当額			式			
＊＊請負工事費＊＊						
工事価格計						

本 工 事 費 内 訳 表

頁0-0011

費目・工種・施工名称など		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
消費税相当額計							
				式			
請負工事費計							

取付金具取替工（手間のみ）

V0001

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0001号表

2 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
普通作業員	0.5	人			R0200 1
諸雑費	5	%			#01
*** 合 計 ***	2	箇所			
*** 単位当り計 ***	1	箇所			

補強部材撤去工
ボルトによる補強部材

V0002
平均質量200kg以下 G≤20

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0002号表
橋梁架設工事の積算 P4-68

16 部材 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋りょう世話役	1	人			R2400 1
橋りょう特殊工	3	人			R2200 1
普通作業員	1	人			R0200 1
諸雑費	22	%			#01
*** 合 計 ***	16	部材			
*** 単位当り計 ***	1	部材			

芯出し調整工
鋼材面用 10m2/日

V0003

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0003号表

橋梁架設工事の積算 P4-67

10

m² 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋りょう世話役	1	人			R2400 1
橋りょう特殊工	4	人			R2200 1
普通作業員	6	人			R0200 1
諸雑費	7	%			#01
*** 合 計 ***	10	m ²			
*** 単位当り計 ***	1	m ²			

極小規模補修工事ガス切断切削仕上げ工
条件区分が1つ 3.765m

V0004
6mm≦t≦10mm 桁外面

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0004号表
橋梁架設工事の積算 P4-45

3.765 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋りょう世話役	0.5	人			R2400 1
橋りょう特殊工	1.35	人			R2200 1
諸雑費	33	%			#01
*** 合 計 ***	3.765	m			
*** 単位当り計 ***	1	m			

極小規模鋼桁孔明工
条件区分が1つ 95本

V0005
SM490 t≦30 水平及び下向き

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0005号表
橋梁架設工事の積算 P4-68

95 本 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋りょう世話役	1	人			R2400 1
橋りょう特殊工	3	人			R2200 1
普通作業員	1	人			R0200 1
諸雑費	25	%			#01
*** 合 計 ***	95	本			
*** 単位当り計 ***	1	本			

補強部材取付工
ボルトによる補強部材

V0006
平均質量200kg以下 G≤20

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0006号表
橋梁架設工事の積算 P4-68

16 部材 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋りょう世話役	1	人			R2400 1
橋りょう特殊工	3	人			R2200 1
普通作業員	1	人			R0200 1
諸雑費	22	%			#01
*** 合 計 ***	16	部材			
*** 単位当り計 ***	1	部材			

極小規模高力ボルト本締工

V0007

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0007号表

頁0-0018

橋梁架設工事の積算 P4-71

146

本 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋りょう世話役	1	人			R2400 1
橋りょう特殊工	3	人			R2200 1
普通作業員	1	人			R0200 1
諸雑費	17	%			#01
*** 合 計 ***	146	本			
*** 単位当り計 ***	1	本			

ピンテール仕上げ工
250本未満

V0008

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0008号表

橋梁架設工事の積算 P4-70

250

本 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋りょう特殊工	2	人			R2200 1
諸雑費	41	%			#01
*** 合 計 ***	250	本			
*** 単位当り計 ***	1	本			

金属パテ塗布工
A=0.22m2

V0009

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0009号表

頁0-0020

1 式 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.53	人			R2500 1
特殊作業員	1.06	人			R0100 1
普通作業員	0.53	人			R0200 1
金属パテ デブコン相当 1.81kg/セット	2	セット			F0006
諸雑費	6	%			#01
*** 単位当り計 ***	1	式			

下部工ブラケット撤去
600kgを超え2000kg以下

V0010
現道上への部材荷場をする場合

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0010号表
橋梁架設工事の積算 P4-38

2.07 基 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋りょう世話役	1	人			R2400 1
橋りょう特殊工	4	人			R2200 1
普通作業員	2	人			R0200 1
諸雑費	32	%			#01
*** 合 計 ***	2.07	基			
*** 単位当り計 ***	1	基			

アンカーボルトガス切断・補修工
25mmを超え40mm以下

V0011

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0011号表

橋梁架設工事の積算 P4-39

19

本 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋りょう世話役	1	人			R2400 1
橋りょう特殊工	3	人			R2200 1
普通作業員	1	人			R0200 1
諸雑費	17	%			#01
*** 合 計 ***	19	本			
*** 単位当り計 ***	1	本			

支取替（鋼橋）
 形式IV
 機械構成比：

SQZ358
 下部工ブラケット取付有り
 材料構成比：

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0012号表

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
橋りょう特殊工			橋りょう特殊工		R2200
特殊作業員			特殊作業員		R0100
橋りょう世話役			橋りょう世話役		R2400
普通作業員			普通作業員		R0200
その他(労務)			その他(労務)		ER009

支取替（鋼橋）
 支形式IV
 機械構成比：

SQZ358
 下部工ﾌﾟﾗｯﾄ取付有り
 労務構成比：

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0012号表

市場単価構成比：
 標準単価：
 1
 基 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
積算単価			積算単価		EP001
*** 単位当り計 ***					
A=4 D=1 IV IV-3-⑫-11			C=2 有り		

施 工 内 訳 表

頁0-0025

コンクリート削孔（電動式コアボーリングマシン）

SQ361

施工内訳0-0013号表

アンカー材径 43mmを超え54mm以下

削孔深 500mm以下

1 孔 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.091	人			R2500 1
特殊作業員	0.091	人			R0100 1
ダイヤモンドビット（コンクリート削孔用） 外径 64.7mm	0.082	個			T0120 1
＊＊ 代表機労材規格 ＊＊	-100	%			#01 この行までは参考表示であり積算には不使用
《 施工パッケージ積算単価 》	1.00	孔			
＊＊＊ 単位当り計 ＊＊＊	1	孔			
A=5 アンカー材径 43mmを超え54mm以下 D=1 全ての費用			B=1 削孔深 500mm以下 E=1 IV-3-⑬-3		

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.111	人			R2500 1
特殊作業員	0.111	人			R0100 1
ダイヤモンドビット（コンクリート削孔用） 外径 77.4mm	0.100	個			T0121 1
＊ ＊ 代表機労材規格 ＊ ＊	-100	%			#01 この行までは参考表示であり積算には不使用
《 施工パッケージ 積算単価 》	1.00	孔			
＊ ＊ ＊ 単位当り計 ＊ ＊ ＊	1	孔			
A=6 D=1 アンカー材径 54mmを超え67mm以下 全ての費用			B=2 E=1 削孔深 500mmを超え1000mm以下 IV-3-⑬-3		

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
特殊作業員			特殊作業員		R0100
土木一般世話役			土木一般世話役		R2500
普通作業員			普通作業員		R0200
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
*** 単位当り計 ***					
A=3 C=1 40mmを超え55mm以下 IV-3-㊶-7			B=2 下方向		

塗膜剥離剤塗布・塗膜除去
2回想定

V0012

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0016号表

1 m² 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
塗膜剥離剤塗布・除去 鉄桁構造・箱桁構造 時間制約無・昼間	1	m ²			F1001
塗膜剥離剤 材リバー泥パック橋梁用タイプⅡ	1.07	kg			F0009
諸雑費	1	式			#10
*** 単位当り計 ***	1	m ²			

廃材の回収・積込

V0013

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0017号表

頁0-0030

1 m² 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
廃材の回収・積込	1	m ²			F1002
諸雑費	1	式			#10
*** 単位当り計 ***	1	m ²			

塗装塗装工
錆転換型防食塗装

V0014
2種ケレン～サビバリヤー

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0018号表

1 m² 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
塗替 素地調整 [材工共] 2種ケレン 時間的制約 無し 昼間単価	1	m ²			TB831
脱脂洗浄～下塗り工 サビバリヤー	1	m ²			V1001 施工内訳0-0019号表
塗替 中塗り塗装 [材工共] 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料 濃彩 はけ・ローラー (140g/m ² ×1層)	1	m ²			TC041 時間的制約 無し 昼間単価
塗替 上塗り塗装 [材工共] 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料 濃彩 はけ・ローラー (120g/m ² ×1層)	1	m ²			TC131 時間的制約 無し 昼間単価
*** 単位当り計 ***	1	m ²			

脱脂洗浄～下塗り工
サビバリヤー

V1001

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0019号表

300 m² 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋りょう世話役	6.39	人			R2400 1
橋りょう塗装工	7.67	人			R2300 1
橋りょう塗装工	11.5	人			R2300 1
サビバリヤー脱脂洗浄剤 15kg/缶 0.05kg/m2	15	kg			F0010
サビバリヤー下塗材 15kg/缶 0.15kg/m2	45	kg			F0011
諸雑費	5	%			#01
*** 合 計 ***	300	m ²			
*** 単位当り計 ***	1	m ²			

R面取り加工
R=2mm以上

V0015

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0020号表

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋りょう塗装工	0.04	人			R2300 1
発動発電機運転費（賃料） ディーゼルエンジン駆動 8 kVA	0.0057	日			SA061 1 施工内訳0-0021号表
諸雑費	5	%			#01
*** 単位当り計 ***	1	m			

発動発電機運転費（賃料）
ディーゼルエンジン駆動 8kVA

SA061

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0021号表

頁0-0034

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
発動発電機賃料 ディーゼルエンジン駆動, 8 kVA	1. 00	供用日			T0362
軽油	10. 500	L			T0002
諸雑費	1	式			#10
*** 単位当り計 ***	1	日			
A=4 ディーゼルエンジン駆動 8 kVA D=10. 5 燃料消費数量			C=1 賃料供用日数		

下地処理工
サンダーケレン

V0016

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0022号表

100 m² 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1.9	人			R2500 1
特殊作業員	7.7	人			R0100 1
諸雑費	2	%			#01
*** 合 計 ***	100	m ²			
*** 単位当り計 ***	1	m ²			

含浸材塗布
シラン系

V0017

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0023号表

50 m² 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1	人			R2500 1
普通作業員	2.5	人			R0200 1
表面含浸材 シラン系表面含浸材 マジカルリペラー	10.5	kg			F0012
諸雑費	10	%			#01
*** 合 計 ***	50	m ²			
*** 単位当り計 ***	1	m ²			

吊足場 桁高h<1.5（タイプA1）
シート張防護 撤去

管理期間 V0018
10月～2月（5ヶ月）

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0024号表

1 m² 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋りょう特殊工	0.1	人			R2200 1
橋りょう特殊工	0.005	人			R2200 1
橋梁用資材 足場材損料（吊足場）	5	m ² ・月			F0013
橋梁用資材 防護材損料（吊足場）	5	m ² ・月			F0014
諸雑費	1	式			#10
*** 単位当り計 ***	1	m ²			

片側朝顔防護足場（タイプE）
シートのみ防護 片側施工 撤去

管理期間 V0019
10月～2月（5ヶ月）

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0025号表

1 m² 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋りょう特殊工	0.11	人			R2200 1
橋梁用資材 足場材損料（朝顔）	5	m ² ・月			F0015
諸雑費	1	式			#10
*** 単位当り計 ***	1	m ²			

湿式塗膜剥離剤工用養生シート

V0020

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0026号表

頁0-0039

橋梁架設工事の積算 P4-160 1 m² 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋りょう特殊工	0.021	人			R2200
橋梁用資材 養生シート損料	1	m ²			F0016
諸雑費	1	式			#10
*** 単位当り計 ***	1	m ²			

吊りチェーン盛り替え工
タイプA3、A4以外

V0021

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0027号表

橋梁架設工事の積算 P4-12

200

m² 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋りょう世話役	1	人			R2400 1
橋りょう特殊工	3	人			R2200 1
普通作業員	1	人			R0200 1
諸雑費	20	%			#01
*** 合 計 ***	200	m ²			
*** 単位当り計 ***	1	m ²			

現場発生品及び支給品運搬
トラック(クレーン付)2t級、吊能力2.9t
機械構成比：

SQZ207
DID無し 6.0km超8.5km以下
労務構成比：

施工内訳表

施工内訳0-0028号表

材料構成比： 市場単価構成比： 標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
トラック [クレーン装置付] 2 t 級 2 . 9 t 吊			トラック [クレーン装置付] 2 t 積 2 . 9 t		M1205P
運転手 (特殊)			運転手 (特殊)		R1400
特殊作業員			特殊作業員		R0100
軽油			軽油 パトロール給油		T0002
積算単価			積算単価		EP001

現場発生品及び支給品運搬
トラック(クレーン付)2t級、吊能力2.9t
機械構成比：

SQZ207
DID無し 6.0km超8.5km以下
労務構成比：
材料構成比：

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0028号表

1
t 当り
標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
*** 単位当り計 ***					
A=1 C=8 トラック(クレーン付)2t級、吊能力2.9t 6.0km超8.5km以下			B=1 D=1 無し I-2-③-3		

近接調査計測工

V0023

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0029号表

頁0-0043

橋梁架設工事の積算 P4-45 5 m² 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
技師（A）	1	人			RA625 1
技師（C）	1	人			RA635 1
橋りょう特殊工	2	人			R2200 1
諸雑費	5	%			#01
*** 合 計 ***	5	m ²			
*** 単位当り計 ***	1	m ²			

極小規模鉄筋探索工
条件区分が1つ 2.8m2 下向き

V0024

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0030号表

橋梁架設工事の積算 P4-68

2.8 m² 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
技師（A）	0.5	人			RA625 1
技師（B）	1	人			RA630 1
技師（C）	1	人			RA635 1
諸雑費	5	%			#01
*** 合 計 ***	2.8	m ²			
*** 単位当り計 ***	1	m ²			

塗膜剥離試験
水系剥離剤使用 3種類

V0025

施 工 内 訳 表

施工内訳0-0031号表

1 橋 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
橋りょう世話役	1	人			R2400 1
橋りょう塗装工	2	人			R2300 1
剥離剤 水系剥離剤	3	kg			F0033
諸雑費	20	%			#01
*** 単位当り計 ***	1	橋			

入力データ一覧表

頁0-0046

コード	名 称 ・ 規 格 な ど	数 量／ 単 位	単 価 金 額	条 件 名 称 条 件 名 称
X1000	＊＊本工事費＊＊			
Y1ZZ6	橋梁修繕工 レベル 1			
Y2691	排水・添加物施設工 レベル 2			
Y011U0B00	排水・添加物施設取付金具取替工 レベル 3	式		
V0001	取付金具取替工（手間のみ）	1 箇所		
F0001	排水管取付金具 SS400	2 組		
Y2691	当て板補修工 レベル 2			
Y011U0B00	部材撤去工 レベル 3	式		
V0002	補強部材撤去工 ボルトによる補強部材	3 部材		
Y011U0B00	部材取替え工 レベル 3	式		
F0002	新設鋼材重量（SM490A） 切断・加工・ジंक含む	308 kg		
F0003	ボルト・ナット TCB S10T M22×75	15 本		
F0004	ボルト・ナット TCB S10T M22×65	107 本		
F0005	ボルト・ナット HTB F10T M22×70	24 本		
V0003	芯出し調整工 鋼材面用 10m2/日	4.1 m ²		
V0004	極小規模補修工事ガス切断切削仕上げ工 条件区分が 1 つ 3.765m	4 m		
V0005	極小規模鋼桁孔明工 条件区分が 1 つ 95本	95 本		
V0006	補強部材取付工 ボルトによる補強部材	7 部材		

入力データ一覧表

頁0-0047

コード	名 称 ・ 規 格 な ど	数 量／ 単 位	単 価 金 額	条 件 名 称 件 名 称 値 称
V0007	極小規模高力ボルト本締工	146 本		
V0008	ピンテール仕上げ工 250本未満	146 本		
V0009	金属パテ塗布工 A=0.22m ²	1 式		
Y2265	ジャッキ仮受けブラケット設置工 レベル 2			
V0010	下部工ブラケット撤去 600kgを超え2000kg以下	4 基		
V0011	アンカーボルトガス切断・補修工 25mmを超え40mm以下	32 本		
Y2Z27	支承取替え工 レベル 2			
SQZ358	支承取替（鋼橋） 支承形式IV	4 基		A=4, C=2, D=1 A=IV, C=有り, D=IV-3-⑫-11
F0007	ゴム支承 50×270×320 固定用SGメッキ	2 基		
F0008	ゴム支承 67×270×320 可動用SGメッキ	2 基		
SQ361	コンクリート削孔（電動式コアボーリングマシン） アンカー材径 43mmを超え54mm以下	4 孔		A=5, B=1, D=1, E=1 A=アンカー材径 43mmを超え54mm以下, B=削孔深 500mm以下, D=全ての費用, E=IV-3-⑬-3
SQ361	コンクリート削孔（電動式コアボーリングマシン） アンカー材径 54mmを超え67mm以下	4 孔		A=6, B=2, D=1, E=1 A=アンカー材径 54mmを超え67mm以下, B=削孔深 500mmを超え1000mm以下, D=全ての費用, E=IV-3-⑬-3
SQZ364	アンカー 適用アンカー材径40mmを超え55mm以下	8 本		A=3, B=2, C=1 A=40mmを超え55mm以下, B=下方向, C=IV-3-⑬-7
T0815	ポリマーセメントモルタル 無収縮	0.011 m ³		
Y2Z34	塗替え塗装工 レベル 2			
Y011U0B00	桁下塗替え塗装工 レベル 3			
		式		

入力データ一覧表

頁0-0048

コード	名 称 ・ 規 格 な ど	数 量／ 単 位	単 価 金 額	条 件 名 称 条 件 名 称
V0012	塗膜剥離剤塗布・塗膜除去 2回想定	128 m ²		
V0013	廃材の回収・積込	128 m ²		
V0014	塗装塗装工 錆転換型防食塗装	64 m ²		
V0015	R面取り加工 R=2mm以上	80 m		
Y2064	表面含浸工 レベル2			
V0016	下地処理工 サンダーケレン	23 m ²		
V0017	含浸材塗布 シラン系	23 m ²		
Y2ZA1	仮設工 レベル2			
V0018	吊足場 桁高h<1.5 (タイプA1) シート張防護 撤去	231 m ²		
V0019	片側朝顔防護足場 (タイプE) シートのみ防護 片側施工 撤去	195 m ²		
V0020	湿式塗膜剥離剤工用養生シート	44 m ²		
V0021	吊りチェーン盛り替え工 タイプA3、A4以外	44 m ²		
Y2154	雑工 レベル2			
SQZ207	現場発生品及び支給品運搬 トラック(クレーン付)2t級、吊能力2.9t	1.80 t		A=1, B=1, C=8, D=1 A=トラック(クレーン付)2t級、吊能力2.9t, B=無し, C=6.0km超8.5km以下, D= I -2-③-3
#0046	共通仮設費、現場管理費、一般管理費対象外			
F9001	スクラップ ヘビーH1	1.80 t		
G0000	**直接工事費**			

入力データ一覧表

頁0-0049

コード	名 称 ・ 規 格 な ど	数 量／ 単 位	単 価 金 額	条 件 名 称 条 件 名 称
Z0006	技術管理費	式		
Y2691	当て板補修工 レベル 2			
V0023	近接調査計測工	4.1 m ²		
Y2Z27	支承取替え工 レベル 2			
V0024	極小規模鉄筋探査工 条件区分が1つ 2.8m2 下向き	3 m ²		
Y2270	塗替え塗装工 レベル 2			
V0025	塗膜剥離試験 水系剥離剤使用 3 種類	1 橋		
Z0010	現場環境改善費	式		
Z0050	共通仮設費（率分）	式		
G1000	＊ ＊ 共通仮設費計 ＊ ＊			
G2000	＊ ＊ 純工事費 ＊ ＊			
Z0020	現場管理費	式		
G2900	＊ ＊ 現場管理費計 ＊ ＊			
G4000	＊ ＊ 工事原価 ＊ ＊			
Z0030	一般管理費	式		
Z0031	契約保証費	式		
G4100	＊ ＊ 一般管理費等計 ＊ ＊			
G4800	＊ ＊ 工事価格 ＊ ＊			

入力データ一覧表

頁0-0050

コード	名 称 ・ 規 格 な ど	数 量／ 単 位	単 価 金 額	条 件 名 称 条 件 名 称
Z0038	消費税相当額	式		
G5000	＊＊請負工事費＊＊			
G6000	工事価格計			
Z0039	消費税相当額計	式		
G4900	請負工事費計			

登録単価一覧表

頁0-0051

コード	名称・規格1・規格2	単位	単 価 (0. 4. 8)	単 価 (1. 5. 9)	単 価 (2. 6)	単 価 (3. 7)	特殊集計 集計区分
F0001	排水管取付金具 SS400	組	17,800				
F0002	新設鋼材重量 (SM490A) 切断・加工・ジंक含む	kg	2,150				
F0003	ボルト・ナット TCB S10T M22×75	本	490				
F0004	ボルト・ナット TCB S10T M22×65	本	430				
F0005	ボルト・ナット HTB F10T M22×70	本	495				
F0006	金属パテ デブコン相当 1.81kg/セット	セット	49,500				
F0007	ゴム支承 50×270×320 固定用SGメッキ ソールプレート・アンカーボルト・セットボルト含む	基	448,000				
F0008	ゴム支承 67×270×320 可動用SGメッキ ソールプレート・アンカーボルト・セットボルト含む	基	521,000				
F0009	塗膜剥離剤 ネリバー泥パック橋梁用タイプⅡ	kg	2,060				
F0010	サビバリヤー脱脂洗浄剤 15kg/缶 0.05kg/m2	kg	3,740				
F0011	サビバリヤー下塗材 15kg/缶 0.15kg/m2	kg	14,800				
F0012	表面含浸材 シラン系表面含浸材 マジカルリペラー	kg	6,580				

登録単価一覧表

頁0-0052

コード	名称・規格1・規格2	単位	単価 (0. 4. 8)	単価 (1. 5. 9)	単価 (2. 6)	単価 (3. 7)	特殊集計 集計区分
F0013	橋梁用資材 足場材損料（吊足場）	m ² ・月	425				
F0014	橋梁用資材 防護材損料（吊足場）	m ² ・月	79				
F0015	橋梁用資材 足場材損料（朝顔）	m ² ・月	403				
F0016	橋梁用資材 養生シート損料	m ²	739				
F0033	剥離剤 水系剥離剤	kg	2, 600				
F1001	塗膜剥離剤塗布・除去 鉄桁構造・箱桁構造 時間制約無・昼間	m ²	4, 940				
F1002	廃材の回収・積込	m ²	2, 300				
F9001	スクラップ ヘビーH1	t	-44, 500				

機 労 材 集 計 表

頁0-0053

項番	単価 コード	集計 区分	単 価 値	数量累計	単 位	単 価 名 称	集 計 区 分 名 称
1	M1205P	191		0.1440	供用日	トラック [クレーン装置付]	運搬・荷役機械等
2	R0100	202		15.5870	人	特殊作業員	労務単価
3	R0200	202		20.9439	人	普通作業員	労務単価
4	R1400	202		0.1080	人	運転手 (特殊)	労務単価
5	R2200	202		98.6284	人	橋りょう特殊工	労務単価
6	R2300	202		9.2896	人	橋りょう塗装工	労務単価
7	R2400	202		18.1660	人	橋りょう世話役	労務単価
8	R2500	202		2.3950	人	土木一般世話役	労務単価
9	RA625	388		1.3557	人	技師 (A)	設計業務基準日額 ※外業
10	RA630	388		1.0714	人	技師 (B)	設計業務基準日額 ※外業
11	RA635	388		1.8914	人	技師 (C)	設計業務基準日額 ※外業
12	T0002	221		6.3180	L	軽油	3-1 燃料類
13	T0120	262		0.3280	個	ダイヤモンドビット (コンクリート削孔用)	9-4 ビット・ロッド
14	T0121	262		0.4000	個	ダイヤモンドビット (コンクリート削孔用)	9-4 ビット・ロッド
15	T0362	382		0.4560	日	発動発電機賃料	建設機械賃料
16	T0815	274		0.0110	m3	ポリマーセメントモルタル	11-1 諸材料
17	TB831	404		64.0000	m ²	塗替 素地調整 [材工共]	土木工事標準単価 (5) 橋梁塗装工
18	TC041	404		64.0000	m ²	塗替 中塗り塗装 [材工共]	土木工事標準単価 (5) 橋梁塗装工
19	TC131	404		64.0000	m ²	塗替 上塗り塗装 [材工共]	土木工事標準単価 (5) 橋梁塗装工

数量及び延長調書

令和7年度 道路メンテナンス事業 浜田橋修繕工事(2工区)

費 目	工 種	備 考	管理 数値	積算 数量	単位	備 考
排水・添架物施設工						
排水・添加物施設取付金具 取替え工						
	取付金具取替工 (手間のみ)		1.0	1	箇所	図面及び 数量計算書より
	排水管取付金具	PL-65xt4.5x700 1組/3.2kg	2.0	2	組	〃
当て板補修工						
部材撤去工						
	補強部材撤去工	ボルトによる補強部材	3.0	3	部材	図面及び 数量計算書より
部材取替え工						
	新設鋼材重量 (SM490A)	切断・加工・ジंक含む	308.0	308	kg	図面及び 数量計算書より
	ボルト・ナット	TCB M22×75	15.0	15	本	〃
	ボルト・ナット	TCB M22×65	107.0	107	本	〃
	ボルト・ナット	HTB M22×70	24.0	24	本	〃
	芯出し調整工		4.087	4.1	m2	〃
	ガス切断切削 仕上げ工		3.765	4	m	〃
	極小規模鋼桁 孔明工		95.0	95	本	〃
	補強部材取付工	G≦20	7.0	7	部材	〃
	極小規模高力 ボルト本締工		146.0	146	本	〃
	ピンテール 仕上げ工	250本未満	146.0	146	本	〃
	金属パテ塗布工	A=0.22m2	1.0	1.0	式	〃
ジャッキ仮受けブラケット設置工						
	下部工 ブラケット撤去	600kgを超え2000kg以下	4.0	4	基	図面及び 数量計算書より
	アンカーボルト ガス切断・補修工	25mmを超え40mm以下	32.0	32	本	〃
支承取替え工						
	支承取替(鋼橋)	支承形式IV 下部工ブラケット取付有り	4.0	4	基	図面及び 数量計算書より
	ゴム支承	50×270×320 固定用 GSメッキ ソールプレート・アンカーボルト・セットボルト含む	2.0	2	基	〃
	ゴム支承	67×270×320 可動用 GSメッキ ソールプレート・アンカーボルト・セットボルト含む	2.0	2	基	〃
	コンクリート削孔	アンカー材径 43mmを超え54mm以下 削孔深 500mm以下	4.0	4	孔	〃
	コンクリート削孔	アンカー材径 55mmを超え67mm以下 削孔深 500mmを超え1000mm以下	4.0	4	孔	〃
	アンカー	適用アンカー材径 40mmを超え55mm以下 削孔方向 下方向	8.0	8	本	〃
	ポリマーセメント モルタル		0.011	0.011	m3	
塗替え塗装工						
桁下塗替え塗装工						
	塗膜剥離剤塗布 ・塗膜除去	塗膜剥離剤2回想定	128.430	128	m2	図面及び 数量計算書より
	廃材の 回収・積込	塗膜剥離剤2回(1.0kg/m2) 想定	128.430	128	m2	〃

	塗膜塗装	錆転換型防食塗装 2種ケレン～サビバリヤー	64.215	64	m2	〃
	角部面取	R面取り加工4角 R=2mm以上	79.520	80	m	〃
表面含浸工						
	下地処理工	サンダーケレン	23.151	23	m2	図面及び 数量計算書より
	含浸材塗布	シラン系	23.151	23	m2	〃
仮設工						
	吊足場工	桁高h≤1.5(タイプA1) シート張防護 撤去 管理期間 5ヶ月	231.4	231	m2	図面及び 数量計算書より
	片側朝顔防護 足場	タイプE シートのみ防護 片側施工 撤去 管理期間 5ヶ月	194.6	195	m2	〃
	湿式塗膜剥離剤 工用養生シート工		43.7	44	m2	〃
	吊りチェーン 盛り替え工	タイプEA3、A4以外	43.7	44	m2	〃
雑 工						
	現場発生品運搬	トラック(クレーン付)2t級、吊能力2.9t 運搬距離L=6.1km	1.795	1.80	t	数量計算書より
	スクラップ	ヘビーH1	1.795	1.80	t	〃
共通仮設費						
技術管理費						
	近接調査計測工		4.087	4.1	m2	数量計算書より
	極小規模 鉄筋探査工		2.8	3	m2	〃
	塗膜剥離試験	水系剥離剤使用 3種類		1	式	

1. 数量総括表

項 目		仕 様	単 位	数 量	備 考
排水・ 架物 施設	排水施設取付金具 取替え工	PL-65x4.5x700	組	2	W=3.2kg/組
			kg	6.4	ボルト・ナット含む
当 て 板 補 修 工	部材撤去工				
	部材撤去材料		kg	60	
	部材取替え工				
	鋼材工場製作工	製作加工	kg	308	鋼材・ジャッキアップ補強材
		ボルト・ナット TCB M22(S10T)	本	122	ピンテール仕上げ
		" HTB M22(F10T)	本	24	
	近接調査計測工		m ²	4.087	
	芯出し調整工		m ²	4.087	
	小規模補修工事ガス切断切削仕上工		m	3.765	
	鋼桁孔明工	φ26.5孔	孔	95	
	部材取付工		部材	7	
	高力ボルト本締工		本	146	
	金属パテ (デブコン相当)	t=5mmで仮計上	m ²	0.22	
		金属パテ使用量	kg	2.5	
	工場塗装工	素地調整(ブラスト処理)	m ²	5.93	
		プライマー(無機ジンクリッチプライマー)	m ²	5.93	
ブ ラ ケ ッ ト 取 付 撤 去 工	下部工ブラケット取付	既存の鋼製ブラケットを使用	組	0	600kg超え2000kg以下
	下部工ブラケット撤去	既存の鋼製ブラケットを使用	組	4	600kg超え2000kg以下
	アンカーボルト切断		本	32	
支 承 取 替 え 工	支承撤去工				
	撤去基数	鋼製支承	基	4	
	沓座コンクリートはつり		m ³	0.232	
	産廃処理	無筋コンクリート殻	m ³	0.232	3工区にて処分
	支承設置工				
	支承取替工	ゴム支承 1471kN(150t)以下	基	4	
	ジャッキ	1000KN用	個	2	
	ゴム支 (ソールプレート、アンカーボルト 、セットボルト含む)	270mm×320mm×50mm	基	2	
		270mm×320mm×67mm	基	2	
	補強格子鉄筋	D10 (SD345)	kg	41.37	
	沓座モルタル	無収縮モルタル	m ³	0.114	
	支承アンカーボルト削孔	削孔形状 φ80×460	孔	4	
		削孔形状 φ85×510	孔	4	
	アンカー孔充填材	無収縮モルタル	m ³	0.011	
	鉄筋探査工	下向き	m ²	2.8	
	孔明工	M16セットボルト	孔	16	
塗 替 え 塗 装 工	桁下塗替え塗装工 (錆転換型防食塗装-サビバリヤー)				
	塗膜剥離剤塗布・塗膜除去	塗膜剥離剤2回想定	m ²	128.430	
	廃材の回収・積込	2回想定	kg	128.430	
	素地調整	素地調整2種	m ²	64.215	
	塗装面積	錆転換型防食塗装	m ²	64.215	
	廃材運搬・処分	W=1.0kg/m ² /回あたり	kg	128.430	3工区にて処分
	角部面取	R面取り加工 4角	m	79.520	
※ 塗膜剥離剤の選定・除去回数については、着工前の試験施工により最終決定すること。 それに伴い数量精査を行うこと。また、R7-3工区に結果を共有すること					

表面含浸工	表面含浸工(シラン系吸水防止型)				
	下部工				
	下地処理	サンダーケレン	m2	23.151	
	塗布面積	標準使用量 0.21kg/m ²	m2	23.151	
足場工	吊り足場工	主体・板張・シート張	m ²	231.44	撤去・損料
	朝顔	片側朝顔	m ²	194.62	撤去・損料
	吊り足場工	剥離剤工用養生シート	m ²	43.736	1回
	吊りチェーン盛り替え工		m ²	43.736	1回
スクラップ		H1	t	1.795	

5. 排水・添架物施設工

5.1 金具取替え工

(1) 排水施設取付金具

$$N = 2 \qquad \qquad \qquad = 2 \quad \text{組}$$

$$\text{質量 } W = 3.2 \text{ kg/組}$$

2- PL-65xt4.5x700

4- BN M12x40 (SUS304)

$$W = 3.2 \times 2 \qquad \qquad \qquad = 6.4 \text{ kg}$$

~~(2) 添架物支持金具~~

$$N = 2 \qquad \qquad \qquad = 2 \quad \text{組}$$

$$\text{質量 } W = 0.9 \text{ kg/組}$$

~~1- PL-50xt4.5x522~~~~2- BN M12x40 (SUS304)~~

$$W = 0.9 \times 2 \qquad \qquad \qquad = 1.8 \text{ kg}$$

6. 当て板補修工

6.1 部材撤去工

(1) 部材撤去材料

員数	部材名	材種	断面	延長 (m)	単位質量 (kg)	単品質量 (kg)	質量	材質	要素
1	WEB	PL	100x 9	0. 675	7. 065	4. 768	5	SM490A	
1	LFLG	PL	207x12	0. 675	19. 499	13. 161	13	SM490A	
2	VSTIFF	PL	96x11	0. 100	8. 289	0. 828	2	SS400	
撤去鋼材							20	kg	
全 3 ヶ所				3 × 撤去鋼材			60	kg	
合計							60	kg	

(2) 部材撤去質量

W = 60

= 60 kg

6.2 部材取替え工

(1) 部材取替え材料

員数	部材名	材種	断面	延長 (m)	単位質量 (kg)	単品質量 (kg)	質量	材質	ネット	要素
1	WEB	PL	100x 9	0.675	7.065	4.768	5	SM490A		大型
1	L-FLG	PL	238x12	0.675	22.419	15.132	15	SM490A		大型
2	VSTIF	PL	96x11	0.100	8.289	0.828	2	SM400A	90	小型
2	SPL	PL	160x 9	0.180	11.304	2.034	4	SM490A		小型
2	SPL	PL	160x 9	0.610	11.304	6.895	14	SM490A		小型
2	SPL	PL	100x 9	0.305	7.065	2.154	4	SM490A		小型
1	SPL	PL	230x 9	0.305	16.249	4.955	5	SM490A		小型
4	SPL	PL	80x 9	0.445	5.652	2.515	10	SS400		小型
1	FILL	PL	80x 9	0.205	5.652	1.158	1	SS400		小型
20	SPL	TCB	M22x65			0.508	10	S10T		購入
8	SPL	HTB	M22x70			0.555	4	F10T		購入
5	SPL	TCB	M22x65			0.508	3	S10T		購入
5	SPL	TCB	M22x75			0.538	3	S10T		購入
主桁鋼材							80	kg		
全 3 ヶ所 3×主桁鋼材							240	kg		
合計							240	kg		

(2) ジャッキアップ補強材

員数	部材名	材種	断面	延長 (m)	単位質量 (kg)	単品質量 (kg)	質量	材質	ネット	要素
2		PL	120x 9	0.800	8.478	6.782	14	SM400A		小型
2		PL	100x14	0.800	10.990	8.792	18	SM400A		小型
8	SPL	TCB	M22x65			0.508	4	S10T		購入
ジャッキアップ補強材							36	kg		
全 4 ヶ所 4×ジャッキアップ補強材							144	kg		
合計							144	kg		

6.3 部材質量集計表

(1) 鋼材

(単位:kg)

材種	材質	質量	主桁鋼材	ジャッキアップ 補強材	合計
PL	SM490A	12	45	－	45
		9	96	－	96
	SM490A集計		141	－	141
	SM400A	14	－	72	72
		11	6	－	6
		9	－	56	56
	SM400A集計		6	128	134
	SS400	9	33	－	33
	SS400集計		33	－	33
	PL集計		180	128	308
加工質量集計		180	128	308	
TCB	S10T	M22	48	16	64
	S10T集計		48	16	64
TCB集計			48	16	64
HTB	F10T	M22	12	－	12
	F10T集計		12	－	12
HTB集計			12	－	12
部品質量集計			60	16	76
合計			240	144	384

(2) ボルト

(単位:本)

材種	材質	断面	主桁鋼材	ジャッキアップ 補強材	合計
TCB	S10T	M22x75	15	－	15
	S10T	M22x65	75	32	107
	S10T集計		90	32	122
TCB集計			90	32	122
HTB	F10T	M22x70	24	－	24
	F10T集計		24	－	24
HTB集計			24	－	24
合計			114	32	146

(3) 鋼材工場製作工

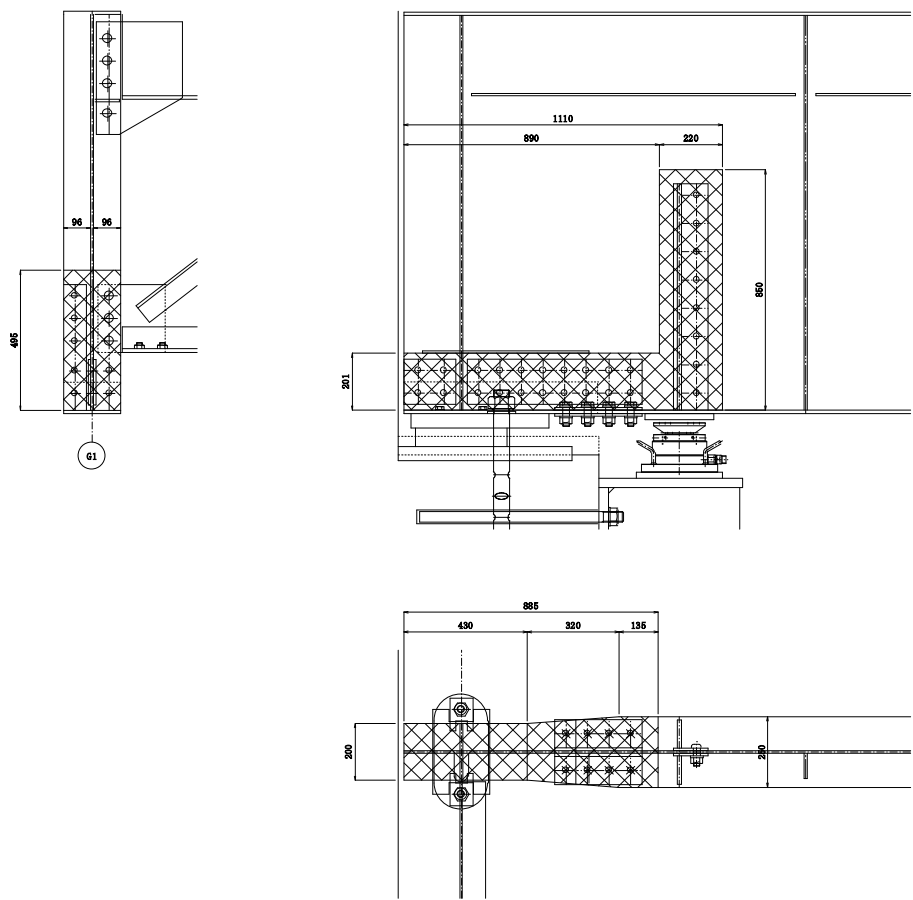
鋼材質量

ボルト本数 TCB M22 (S10T)

ボルト本数 HTB M22 (F10T)

= 308 kg
= 122 本
= 24 本

(4) 近接調査計測工



A1	=	0.201	×	0.890	×	2	×	3		=	1.073	m ²				
A2	=	0.220	×	0.850	×	2	×	3		=	1.122	m ²				
A3	=	0.200	×	0.430	×	2	×	4		=	0.688	m ²				
A4	=	(0.200	+	0.250	)	×	0.5	×	0.320	×	2	×	3	=	0.432	m ²
A5	=	0.250	×	0.135	×	2	×	3		=	0.202	m ²				
A6	=	0.096	×	0.495	×	4	×	3		=	0.570	m ²				
											合計 A	=	4.087	m ²		

(5) 芯出し調整工

※ 近接調査計測工と同じ

(6) 小規模補修工事ガス切断切削仕上工

WEB	=	(	0.675	+	0.100	)	×	3	=	2.325	m		
LELG	=	0.238	×	3	=	0.714	m						
補剛材	=	0.096	×	2	×	3	=	0.576	m				
GUSS	=	0.025	×	2	×	3	=	0.150	m				
										合計 L	=	3.765	m

(7) 鋼桁孔明工

$$N = \frac{(12 + 4 + 5) \times 3}{\text{当て板補修}} + \frac{8 \times 4}{\text{ジャッキアップ補強材}} = 95 \text{ 孔}$$

(8) 部材取付工

$$N = \frac{3}{\text{当て板補修}} + \frac{4}{\text{ジャッキアップ補強材}} = 7 \text{ 部材}$$

(9) 高力ボルト本締工

$$\begin{aligned} n1 &= (20 + 8 + 5 + 5) \times 3 \quad (\text{当て板補修}) = 114 \text{ 本} \\ n2 &= 8 \times 4 \quad (\text{ジャッキアップ補強材}) = 32 \text{ 本} \\ \text{合計 } n &= 146 \text{ 本} \end{aligned}$$

(10) 金属パテ デブコン相当

t=5mmで仮計上

$$A = \left\{ (0.238 + 0.250) \times \frac{1}{2} \times 0.155 \times 2 \right\} \times 3 = 0.22 \text{ m}^2$$

金属パテ使用量 単位質量 1900 g/m3 ロス率 = 20 %

$$W = 0.22 \times 0.005 \times 1900 \times 1.20 = 2.50 \text{ kg}$$

(11) 工場塗装 素地調整及びプライマー 面数 員数

WEB	A1	=	0.100	×	0.675	×	2	×	1	=	0.13	m ²
FLG	A2	=	0.238	×	0.675	×	2	×	1	×	90	%
VSTIFF	A3	=	0.096	×	0.100	×	2	×	2	=	0.03	m ²
SPL	A4	=	0.160	×	0.180	×	2	×	2	=	0.11	m ²
SPL	A5	=	0.160	×	0.610	×	2	×	2	=	0.39	m ²
SPL	A6	=	0.100	×	0.305	×	2	×	2	=	0.12	m ²
SPL	A7	=	0.230	×	0.305	×	2	×	1	=	0.14	m ²
SPL	A8	=	0.080	×	0.445	×	2	×	4	=	0.28	m ²
FILL	A9	=	0.080	×	0.205	×	2	×	1	=	0.03	m ²

$$\text{小計 } A = 1.51 \text{ m}^2$$

$$\text{① 3ヶ所 } A = 4.53 \text{ m}^2$$

$$\text{WEB } A1 = 0.120 \times 0.800 \times 2 \times 1 = 0.19 \text{ m}^2$$

$$\text{FLG } A2 = 0.100 \times 0.800 \times 2 \times 1 = 0.16 \text{ m}^2$$

$$\text{小計 } A = 0.35 \text{ m}^2$$

$$\text{② 4ヶ所 } A = 1.40 \text{ m}^2$$

$$\text{①+②} = 5.93 \text{ m}^2$$

(12) 紫外線硬化型FRPシート

貼り付け面積

$$S1 = 0.200 \times 0.200 \times 0 \text{ 面} = 0.00 \text{ m}^2$$

$$S2 = 0.200 \times 0.200 \times 0 \text{ 面} = 0.00 \text{ m}^2$$

$$\text{合計 } A = 0.00 \text{ m}^2$$

6.3 ジャッキ仮受けブラケット設置工

(1) 下部エブラケット取付

$N = 0$ = 0 組

※鋼製ブラケットは設置済みである。

(2) 下部エブラケット撤去

$N = 4$ ※842kg/基 = 4 組

※鋼製ブラケットは撤去後、R7-3工区へ2組引き渡すこと

(3) アンカーボルト

※アンカーボルトは8箇所設置済み

員数	部材名	材種	延長 (m)	単位質量 (kg)	単品質量 (kg)	材質
① アンカーボルト (M36ネジ切 L=80)						
1	Anc Bolt	D38	0.670	8.95	5.996	SD345
1	Nut	M36用		0.397	0.397	SS400
1	Washer	M36用		0.104	0.104	SS400
アンカーボルト1組当り					6.497 kg	
全 56 組					アンカーボルト質量 363.832 kg	
② アンカーボルト (M36ネジ切 L=80)						
1	Anc Bolt	D38	0.690	8.95	6.175	SD345
1	Nut	M36用		0.397	0.397	SS400
1	Washer	M36用		0.104	0.104	SS400
アンカーボルト1組当り					6.676 kg	
全 8 組					アンカーボルト質量 53.408 kg	

(4) アンカーボルト削孔 $\phi 48 \times 580$

$N = 8 \times 8$ = 64 孔

$L = 64 \times 0.580$ = 37.12 m

(5) アンカ=エ D38×570

$N = 8 \times 8$ = 64 本

(6) エポキシ樹脂注入 $\phi 48 \times 580$

$N = 8 \times 8$ = 64 ヶ所

$W = (1/4 \times \pi \times 0.048^2 \times 0.580 + 1/4 \times \pi \times 0.038^2 \times 0.570) \times 64 \times 1200 \times 1.2$ = 37.149 kg

(7) ~~エポキシ樹脂パテ材~~ t=5mm

N = 2 × 4

A = 0.650 × 1.060 × 8

= 8 ヶ所

= 5.512 ㎡

(8) ~~鉄筋探査工 (横向き)~~

N = 2 × 4

V = 0.650 × 1.060 × 8

= 8 ヶ所

= 5.512 ㎡

(9) アンカーボルト切断 (ガス切断)

N = 8 × 4

= 32 本

7. 塗替え塗装工

7.1 桁下工塗替え塗装工

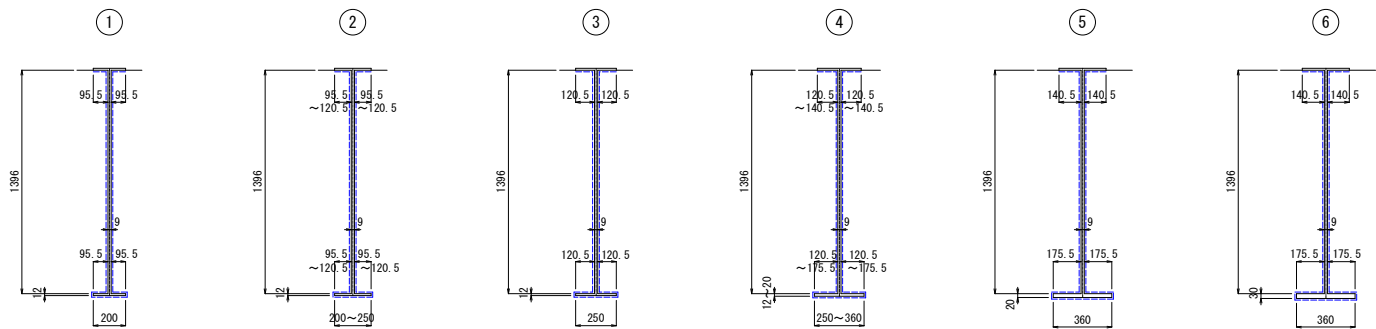
塗装仕様 (Rc-Ⅰ 塗装系)

※塗替え塗装工詳細図参照の事。

(1) 塗装面積 (A1-P1径間・P1-A2径間共通)

1) 主桁

【主構】 N = 1 本



主構 (1本当たり)

	周長(m)	延長(m)	備 考
①	3.398	0.860	0.430x2
②	3.473	0.640	0.320x2
③	3.548	4.150	2.075x2
④	3.686	1.100	0.550x2
⑤	3.824	3.190	1.595x2
⑥	3.844	0.000	
合計		9.940	

リブプレート (1本当たり)

リブプレート	枚 数	面積(m ²)	備 考
PL-90xt11x1396	4	0.251	
PL-90x t9x1396	7	0.251	
PL-90x t9x 349	0	0.063	
PL-90x t9x 835	0	0.150	
PL-90x t9x1180	6	0.212	
PL-90x t9x1190	2	0.214	
PL-90x t9x1340	0	0.241	

主構面積

$$\begin{aligned} A1 = & 3.398 \times 0.860 + 3.473 \times 0.640 + 3.548 \times 4.150 \\ & + 3.686 \times 1.100 + 3.824 \times 3.190 + 3.844 \times 0.000 \\ & = 36.122 \text{ m}^2 \end{aligned}$$

リブプレート面積

$$\begin{aligned} A2 = & 0.251 \times 4 + 0.251 \times 7 + 0.063 \times 0 \\ & + 0.150 \times 0 + 0.212 \times 6 + 0.214 \times 2 \\ & + 0.241 \times 0 \\ & = 4.461 \text{ m}^2 \end{aligned}$$

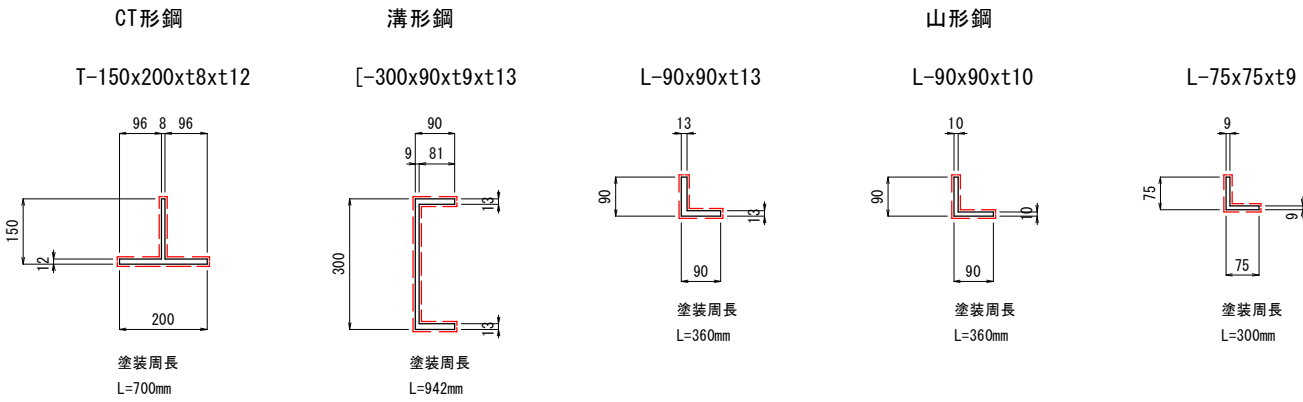
主桁合計 (1本当たり)

$$A = 36.122 + 4.461 = 40.583 \text{ m}^2$$

$$\Sigma A = 40.583 \times 1 \text{ 本} = 40.583 \text{ m}^2$$

2) 横桁
【横構・対傾構】

各部材詳細図



材料表(各部材) (1径間当り)

部 材		延長 (m)	周長 (m)	面積 (m ²)	枚 数	備 考
CT形鋼	T-150x200xt8xt12	4.760	0.700	3.332	4	
溝形鋼	[-300x 90xt9xt13	2.090	0.942	1.968	2	
山形鋼	L- 90x 90xt13	2.090	0.360	0.752	2	
	L- 90x 90xt10	2.090	0.360	0.752	0	
	L- 75x 75xt 9	1.170	0.300	0.351	4	
		1.270	0.300	0.381	0	
平 鋼	PL-100x t6	2.100	-	0.210	2	
		0.950	-	0.095	4	

各部材面積

A1 =

3.332

×

4

+

1.968

×

2

+

0.752

×

2

+

0.752

×

0

+

0.351

×

4

+

0.381

×

0

+

0.210

×

2

+

0.095

×

4

-

0.038

×

4

=

20.820

m²

b部控除

結合プレート (1径間当り)

※塗替え塗装工詳細図(その2)の各部詳細図参照の事。

								両面	
a部.	N =	4	ヶ所	A =	0.123	m ² × 2	=	0.246	m ²
b部.	N =	0	ヶ所	A =	0.229	m ² × 2	=	0.458	m ²
c部.	N =	2	ヶ所	A =	0.051	m ²	=	—	
d部.	N =	4	ヶ所	A =	0.106	m ² × 2	=	0.212	m ²
e部.	N =	4	ヶ所	A =	0.058	m ² × 2	=	0.116	m ²
f部.	N =	2	ヶ所	A =	0.090	m ² × 2	=	0.180	m ²
g部.	N =	0	ヶ所	A =	0.058	m ² × 2	=	0.116	m ²
h部.	N =	0	ヶ所	A =	0.049	m ² × 2	=	0.098	m ²
i部.	N =	0	ヶ所	A =	0.074	m ² × 2	=	0.148	m ²

接合部控除

a部.	A2 = (	0.246	−	0.014	−	0.031	) × 4	=	0.804	m ²
b部.	A3 = (	0.458	−	0.038	×	2	− 0.016) × 0	=	0.000	m ²
c部.	A4 =	0.051	×	2				=	0.102	m ²
d部.	A5 = (	0.212	−	0.034	×	2	− 0.058) × 4	=	0.344	m ²
e部.	A6 = (	0.116	−	0.021	×	2	− 0.013 × 2			
		− 0.007	) × 4					=	0.164	m ²
f部.	A7 = (	0.180	−	0.050	×	2	− 0.008 × 2)			
		×	2					=	0.128	m ²
g部.	A8 = (	0.116	−	0.021	×	2	− 0.013 × 2			
		− 0.007	) × 0					=	0.000	m ²
h部.	A9 = (	0.098	−	0.021	×	2	− 0.014) × 0	=	0.000	m ²
i部.	A10 = (	0.148	−	0.007	×	2	− 0.027 × 2)			
		×	0					=	0.000	m ²

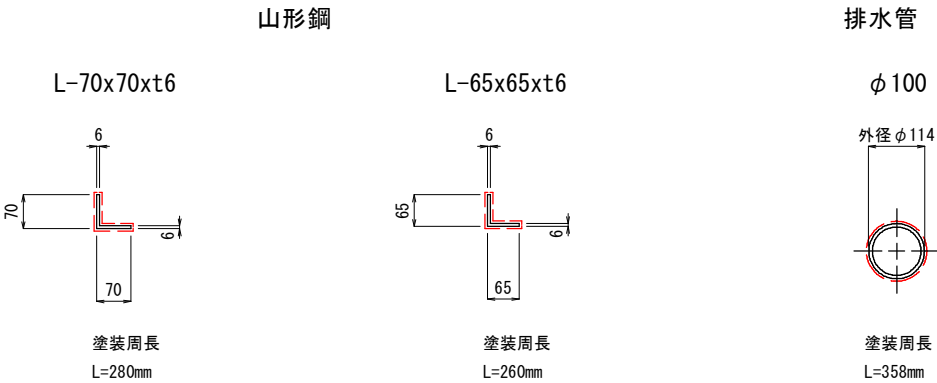
接合控除後面積 A = 1.542 m²

横桁合計 (1径間当り)

$$\Sigma A = 20.820 + 1.542 = 22.362 \text{ m}^2$$

3) 排水装置・添架物

各部材詳細図



排水装置・添架物材料表 (1径間当り)

部 材		周長(m)	延長(m)	面積(m ²)	枚 数	備 考
山形鋼	L- 70x 70xt6	0. 280	0. 300	0. 084	0	添架物
		0. 280	0. 390	0. 109	0	添架物
		0. 280	0. 410	0. 114	0	添架物
	L- 65x 65xt6	0. 260	0. 520	0. 135	0	添架物
排水管	φ 100	0. 358	1. 525	0. 545	2	排水装置
取付金具	PL-65xt4. 5x700	0. 065	0. 700	0. 045	4	排水装置
支持金具	PL-50xt4. 5x522	0. 050	0. 522	0. 026	0	添架物

排水装置・添架物面積

A1 = 0.084 × 0 + 0.109 × 0 + 0.114 × 0
+ 0.135 × 0 + 0.545 × 2 + 0.045 × 4
+ 0.026 × 0 = 1.270 m²

接合部控除

※塗替え塗装工詳細図(その3)の各部詳細図参照の事。

A部. A2 = 0.004 × 2 × 0 = 0.000 m²
B部. A3 = 0.002 × 2 × 0 = 0.000 m²

接合控除面積 A = 0.000 m²

排水施設・添架物合計 (1径間当り)

Σ A = 1.270 - 0.000 = 1.270 m²

4) 塗装面積集計

R7-2工区	
部 材	1径間当り塗布面積
	(m ²)
主桁	40.583
横桁	22.362
排水装置・添架物	1.270
合計	64.215

(2) 塗装仕様

工程	塗料名	膜厚	使用量
素地調整工	塗膜剥離剤 + 2種ケレン	-	-
脱脂・洗浄工	サビバリヤー 脱脂洗浄剤	-	50g/m2
下塗り	サビバリヤー 下塗り剤	70 μm	150g/m2
中塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂 塗料用中塗り	30 μm	140g/m2
上塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂 塗料上塗り	25 μm	120g/m2

注) 1. 塗装作業は、「日本道路協会鋼道路橋防食便覧」に従って行うこと。
2. 施工時は再度塗装面積の確認を行い、数量を最終決定すること。
3. 製品・仕様については、材料確認のうえ施工を実施すること。
(参考仕様：(株)エコクリーン 錆転換型防食塗装錆バリヤーを示す)
4. 本橋は塗膜成分にPCB・鉛が含まれているため、塗膜剥離剤を使用する。
また、湿潤式塗膜除去による2回塗りを想定とする。
5. 塗膜剥離剤選定・除去回数については着工前に試験施工を実施して決定すること。
それに伴い、数量精査も実施すること。

(3) 塗膜剥離剤塗布・塗膜除去 (2回想定)

A = 64.215 × 2 回 = 128.430 m²
〔塗膜剥離剤 材料〕 ※塗膜剥離剤標準使用量 W=1.0kg/m2
W = 64.215 × 1.0 kg/m2 × 2 回 = 128.430 kg

(4) 廃材の回収・積込 (2回想定)

W = 64.215 × 1.0 kg/m2 × 2 回 = 128.430 kg

(5) 廃材運搬・処分

W = 64.215 × 1.0 kg/m2 × 2 回 = 128.430 kg
※R7-3工区にて処分費を計上する

(6) 角部面取 (R面取り加工 4 角)

$$L = 9.940 \text{ m} \times 4.0 \text{ 面} \times 2 \text{ 本} = 79.520 \text{ m}$$

8. 表面含浸工（シラン系吸水防止型）

※表面含浸工詳細図参照

8.1 上部工(地覆・床版) (A1=P1径間・P1=A2径間共通)

(1) 塗布面積

地覆部

断面周長

$$L = 0.150 + 0.410 + 0.360 = 0.920 \text{ m}$$

防護柵支柱控除

$$A = 1/4 \times \pi \times 0.1143^2 = 0.010 \text{ m}^2$$

$$N = 15 \text{ (片側当り)} = 15 \text{ ヶ所}$$

添架物支持金具控除

$$A = 0.060 \times 0.400 = 0.024 \text{ m}^2$$

$$N = 16.5 = 16.5 \text{ ヶ所}$$

地覆部塗布面積

$$\begin{aligned} A1 &= (0.920 \times 28.930 + 0.010 \times 15) \times 2 \\ &= 0.024 \times 16.5 = 52.535 \text{ m}^2 \end{aligned}$$

排水管控除

$$A = 1/4 \times \pi \times 0.114^2 = 0.010 \text{ m}^2$$

$$N = 4 = 4 \text{ ヶ所}$$

床版部

主構控除 (1桁当り)

$$\begin{aligned} A &= \{ 0.200 \times 3.180 + 1/2 \times (0.200 + 0.250) \times 0.200 \\ &\quad + 0.250 \times 3.760 + 1/2 \times (0.250 + 0.300) \times 0.300 \} \\ &\quad \times 2 + 0.300 \times 14.050 = 7.622 \text{ m}^2 \end{aligned}$$

床版部塗布面積

$$\begin{aligned} A &= 1.060 \times 2 \times (28.930 + 0.280 \times 2) \\ &\quad + 2.300 \times (0.000 + 0.920 + 0.000 + 0.900) \\ &\quad + (2.300 + 2.100) \times 26.550 \\ &\quad + 1/2 \times (26.150 + 26.550 + 1.700 + 2.100) \times 2 \\ &\quad \times 0.200 + 1.700 \times 26.150 \\ &= 7.622 \times 2 + 0.010 \times 4 = 110.111 \text{ m}^2 \end{aligned}$$

(2) 上部工塗布面積 (標準使用量 0.21kg/m²)

$$A = 52.535 + 110.111 = 162.646 \text{ m}^2$$

(3) 下地処理 (塗布面積と同値)

$$A = 162.646 = 162.646 \text{ m}^2$$

8.2 下部工

【A1橋台】

(1) 塗布面積

沓座モルタル控除

$$A = 0.555 \times 1.000 = 0.555 \text{ m}^2$$

$$N = 2 = 2 \text{ ヶ所}$$

添架物開口部控除

$$A = 1/4 \times \pi \times 0.170^2 = 0.022 \text{ m}^2$$

躯体部側面 (図面上のCAD算出により面積)

$$A1 = 0.796 + 0.567 + 0.600 + 0.250 = 2.213 \text{ m}^2$$

パラペット背面・躯体正面

$$A2 = 0.400 \times 0.350 \times 2 + 1.088 \times 5.100$$

$$+ 1/2 \times (5.100 + 4.400) \times 0.400$$

$$+ 1.000 \times 4.400 = 0.022 = 12.106 \text{ m}^2$$

橋座部

$$A3 = 0.700 \times 4.400 = 0.555 \times 2$$

$$+ 0.050 \times 0.700 \times 4 = 2.110 \text{ m}^2$$

A1橋台塗布面積

$$A = 2.213 + 12.106 + 2.110 = 16.429 \text{ m}^2$$

【A2橋台】

(1) 塗布面積

沓座モルタル控除

$$A = 0.605 \times 1.000 = 0.605 \text{ m}^2$$

$$N = 2 = 2 \text{ ヶ所}$$

添架物開口部控除

$$A = 1/4 \times \pi \times 0.170^2 = 0.022 \text{ m}^2$$

躯体部側面 (図面上のCAD算出により面積)

$$A1 = 0.798 + 0.403 + 0.691 + 0.250 = 2.142 \text{ m}^2$$

パラペット背面・躯体正面

$$A2 = 0.400 \times 0.350 \times 2 + 1.088 \times 5.100$$

$$+ 1/2 \times (5.100 + 4.400) \times 0.400$$

$$+ 1.000 \times 4.400 = 0.022 = 12.106 \text{ m}^2$$

橋座部

$$A3 = 0.700 \times 4.400 = 0.605 \times 2$$

$$+ 0.067 \times 0.700 \times 4 = 2.057 \text{ m}^2$$

A2橋台塗布面積

$$A = 2.142 + 12.106 + 2.057 = 16.305 \text{ m}^2$$

【P1橋脚】

沓座モルタル控除

$$A = 0.590 \times 1.000 \pm 0.540 \times 1.000 = 0.540 \text{ m}^2$$

$$N = 2 = 2 \text{ ヶ所}$$

橋座部ハンチ周長

$$L = \{ 1/2 \times (1.579 + 1.418) + 1.200 \} \times 2 = 5.397 \text{ m}$$

上部周長

$$L = (2.600 + 2.199) \times 2 = 9.598 \text{ m}$$

下部周長

$$L = (2.600 + 1.885) \times 2 = 8.970 \text{ m}$$

躯体部

$$A1 = 9.598 \times 0.950 \div 2 = 0.017 \times 1.000 \times 2$$

$$+ 1/2 \times (9.598 + 8.970) \times 0.141 \div 2$$

$$\pm 8.970 \times 3.720 = 5.213 \text{ m}^2$$

橋座部

$$A2 = 5.397 \times 0.071 \div 2 + \frac{\text{図面上のCAD算出により面積}}{(1.387 + 0.288)}$$

$$+ 1.300 \times 0.600 - 0.540 \times 2$$

$$+ (0.050 + 0.067) \times (0.700 + 0.632) \times 2$$

$$\pm 0.017 \times 1.000 \times 2 = 1.633 \text{ m}^2$$

P1橋脚塗布面積

$$A = 5.213 + 1.633 = 6.846 \text{ m}^2$$

(2) 下部工塗布面積 (標準使用量 0.21kg/m²)

$$A = 16.429 + 16.305 + 6.846 = 39.580 \text{ m}^2$$

(3) 下地処理 (塗布面積と同値)

$$A = 39.580 = 39.580 \text{ m}^2$$

8.3 表面含浸工集計表

		面積 (m ²)	塗布面積 (m ²)	下地処理 (m ²)
上部工	A1-P1径間	0.000	0.000	0.000
	P1-A2径間	0.000		
下部工	A1橋台	0.000	23.151	23.151
	A2橋台	16.305		
	P1橋脚	6.846		
合計			23.151	23.151

11. 支承取替工

11.1 支承撤去工

(1) 撤去基数 (鋼製支承)

$$N = 4 = 4 \text{ 基}$$

(2) 沓座コンクリートはつり

$$\begin{aligned} & \text{A1橋台} \quad t = 50 \text{ mm} \\ W &= \left(0.700 \times 1.000 \times 0.050 + \frac{\text{沓座モルタル部}}{0.555 \times 1.000 \times 0.020} \right) \\ & \quad \times 2 = 0.092 \text{ m}^3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & \text{A2橋台} \quad t = 67 \text{ mm} \\ W &= \left(0.700 \times 1.000 \times 0.067 + \frac{\text{沓座モルタル部}}{0.605 \times 1.000 \times 0.020} \right) \\ & \quad \times 2 = 0.118 \text{ m}^3 \end{aligned}$$

P1橋脚

$$\begin{aligned} & \text{A1側} \quad t = 50 \text{ mm} \\ & \text{A2側} \quad t = 67 \text{ mm} \\ & \text{面積} \quad A = 1.387 \text{ m}^2/\text{ヶ所} \quad \text{※ 表面含浸工詳細図の支承箱抜き面積参照。} \\ W &= \left\{ \frac{1}{2} \times (0.050 + 0.067) \times 1.387 \right. \\ & \quad \left. + 1.000 \times (0.590 + 0.540) \times 0.020 \right\} \times 2 = 0.114 \text{ m}^3 \end{aligned}$$

コンクリートはつり合計

$$\Sigma W = 0.092 + 0.118 + 0.114 = 0.232 \text{ m}^3$$

~~(3) 産廃処理 (無筋コンクリート)~~

$$V = 0.232 = 0.232 \text{ m}^3$$

$$W = 0.232 \times 2.35 \text{ t/m}^3 = 0.545 \text{ t}$$

※R7-3工区にて処分費を計上する

11.2 支承設置工

(1) 支承取替工

$$N = 4 = 4 \text{ 基}$$

(2) ジャッキ (1000KN用)

$$N = 2 = 2 \text{ 基}$$

(3) 固定側 (A1橋台・P1橋脚A2側)

a) 支承本体

$$N = 2 = 2 \text{ 基}$$

部番	名 称	材質	単位	数量	質量 (kg)	備 考
①	ゴム支承	図示	枚	1	12.9	Ge=1.0N/mm ²
②	ソールプレート	SM490A	本	1	122.7	
③	アンカーボルト	S35CN	本	2	23.5	ナット・ワッシャー含む
④	セットボルト	----	本	4	-	
W:					159.1	

$$W = 159.1 \times 2 \text{ ヲ所} = 318.2 \text{ kg}$$

b) 補強格子鉄筋 (SD345)

$$W = \left(0.900 \times 10 + 0.450 \times 19 \right) \times 0.560 \text{ kg} \times 2 = 19.65 \text{ kg}$$

c) 沓座モルタル (無収縮モルタル)

$$V = 1.000 \times (0.555 + 0.540) \times 0.050 \times 2 = 0.054 \text{ m}^3$$

d) 支承アンカーボルト削孔 (削孔形状 $\phi 80 \times 460$)

$$N = 2 \times 2 = 4 \text{ 孔}$$

e) アンカー孔充填材 (無収縮モルタル)

$$W = \left(\frac{1}{4} \times \pi \times 0.080^2 \times 0.460 - \frac{1}{4} \times \pi \times 0.050^2 \times 0.450 \right) \times 4 = 0.005 \text{ m}^3$$

f) 鉄筋探査工 (下向き)

$$A = 1.000 \times 0.700 \times 2 = 1.400 \text{ m}^2$$

g) 孔明工 (M16セットボルト)

$$N = 4 \times 2 = 8 \text{ 孔}$$

(4) 可動側 (A2橋台・P1橋脚A1側)

a) 支承本体

$$N = 2 \qquad \qquad \qquad = 2 \text{ 基}$$

部番	名 称	材質	単位	数量	質量 (kg)	備 考
①	ゴム支承	図示	枚	1	16.2	Ge=1.0N/mm2
②	ソールプレート	SM490A	本	1	138.5	
③	アンカーボルト	S35CN	本	2	31.1	ナット・ワッシャー含む
④	セットボルト	----	本	4	-	
W:					185.8	

$$W = 185.8 \times 2 \text{ ヶ所} \qquad \qquad \qquad = 371.6 \text{ kg}$$

b) 補強格子鉄筋 (SD345)

$$W = (0.900 \times 11 + 0.500 \times 19) \times 0.560 \text{ kg} \times 2 \qquad \qquad \qquad = 21.72 \text{ kg}$$

c) 沓座モルタル (無収縮モルタル)

$$V = 1.000 \times (0.605 + 0.500) \times 0.050 \times 2 \qquad \qquad \qquad = 0.060 \text{ m}^3$$

d) 支承アンカーボルト削孔 (削孔形状 $\phi 85 \times 510$)

$$N = 2 \times 2 \qquad \qquad \qquad = 4 \text{ 孔}$$

e) アンカー孔充填材 (無収縮モルタル)

$$W = (1/4 \times \pi \times 0.085^2 \times 0.510 - 1/4 \times \pi \times 0.055^2 \times 0.500) \times 4 \qquad \qquad \qquad = 0.006 \text{ m}^3$$

f) 鉄筋探查工 (下向き)

$$A = 1.000 \times 0.700 \times 2 \qquad \qquad \qquad = 1.400 \text{ m}^2$$

g) 孔明工 (M16セットボルト)

$$N = 4 \times 2 \qquad \qquad \qquad = 8 \text{ 孔}$$

13. 仮設工

13.1 吊り足場工（床面シート張・両側朝顔・板張・シート張防護工）

(1) 吊り足場面積（床面シート張・板張・シート張防護工）

$$A = 26.3 \times 4.4 \times 2 = 231.440 \text{ m}^2$$

足場必要面積

$$A = W \times L$$

W : 全幅員（地覆外縁間距離）

L : 橋座前面間距離

(2) 吊り足場面積（片側朝顔）

$$A = (1.05 + 0.8) \times 26.3 \times 4 = 194.620 \text{ m}^2$$

足場必要面積

$$A = B \times L$$

B : 足場必要幅（外桁と地覆外縁間距離+0.8m）

L : 地覆補修延長

※足場設置済み

(3) 吊り足場面積（剥離剤工用養生シート）

$$A = 9.94 \times 4.4 = 43.736 \text{ m}^2$$

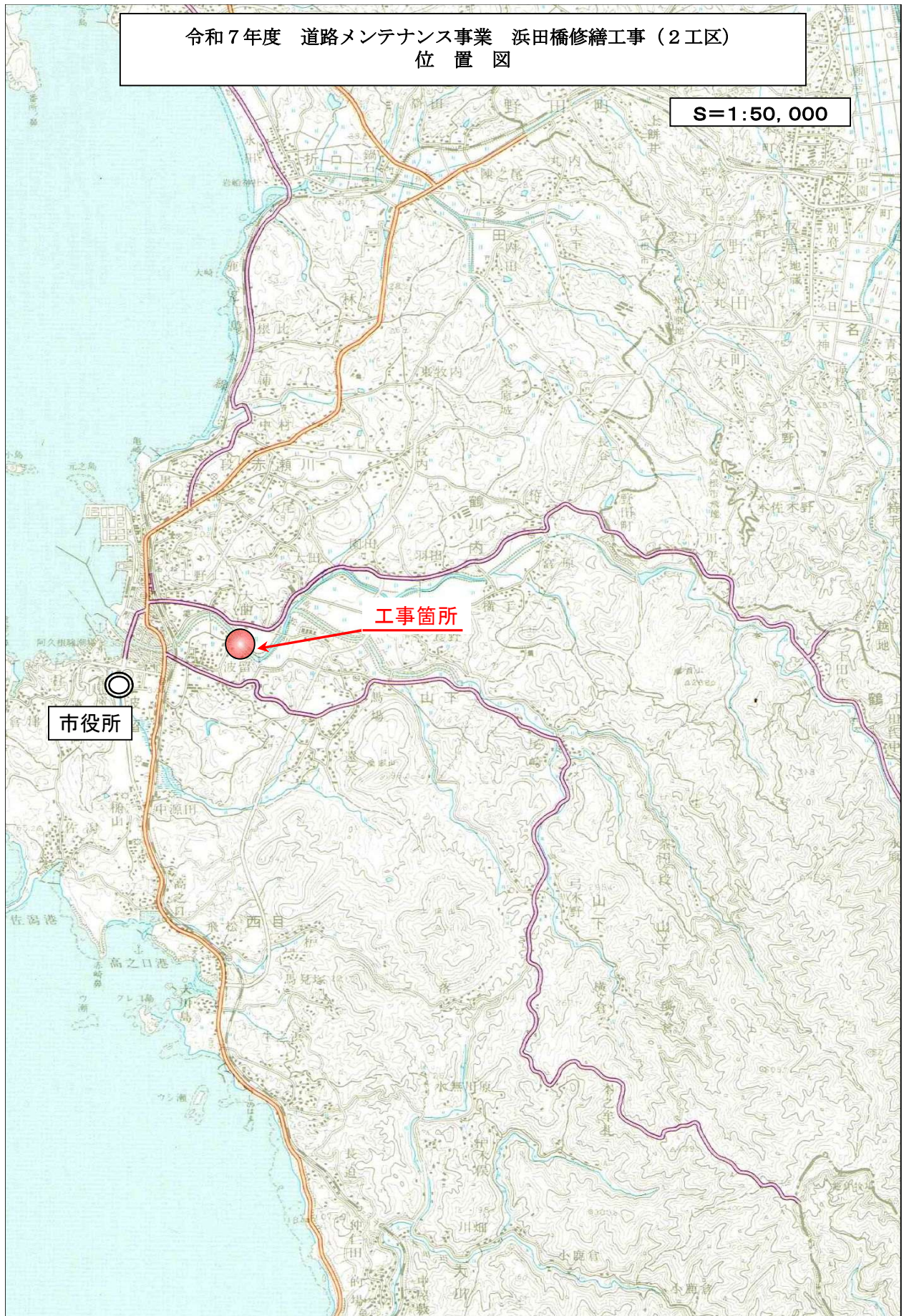
(4) 吊りチェーン盛り替え工

$$A = 9.94 \times 4.4 = 43.736 \text{ m}^2$$

$$= 1.795 \text{ t}$$

令和7年度 道路メンテナンス事業 浜田橋修繕工事（2工区）
位置図

S=1:50,000



特 記 仕 様 書

(総則)

第1条 この特記仕様書は、次の工事に適用する。

- (1) 工 事 名：令和7年度道路メンテナンス事業 浜田橋修繕工事（2工区）
- (2) 工事場所：阿久根市 波留 地内
- (3) 工 期：令和9年3月15日まで

第2条 この工事は、契約図書及び図面によるほか、この特記仕様書並びに下記仕様書等その他諸法を遵守し施工しなければならない。

なお、本特記仕様書及び共通仕様書、要項、指針、示方書（最新版）に記載されていない事項で疑義が生じた場合は、別紙「工事打合簿」により監督職員（以下「甲」とする。）と協議し、かつその指示に従うこと。

- (1) 土木工事共通仕様書
- (2) 土木工事施工管理基準
- (3) 土木請負工事必携
- (4) 道路事業の手引き（鹿児島県土木部制定）
- (5) 建設副産物摘要処理推進要綱
- (6) 土木工事安全施工技術指針
- (7) その他関係要項、指針及び示方書等

第3条 この工事の契約数量は、設計図書のとおりとする。

なお、この数量に変更を生じた場合は、甲乙協議の上、契約変更の対象とする。ただし、出来形等に係る設計値は図面及び構造物調書のとおりとする。

第4条 契約の保証は、当初設計金額が500万円を超える場合、金銭的補償を要す。

(前払金)

第5条 保証事業会社の保証がなされている請負金額500万円以上のものについては、請負金額の10分の4以内で前払金を請求することができる。

なお、当初設計において前記の前払金を受けるものとして一般管理費の率を計上してあるが、前払金を受けない場合でも、一般管理費の率は変更の対象としない。

(工事カルテ作成・登録)

第6条 請負者は、受注時又は変更時において工事請負代金額が500万円以上の工事について、実績情報システム（CORINS）に基づき、受注・変更及び完成

時に工事实績情報として「通知書」を作成し監督職員の確認を受けた上、受注時は契約後 10 日以内（土、日、祝日等が重なる場合はその前日まで）に、登録内容の変更時は変更があった日から 10 日以内（土、日、祝日等が重なる場合はその前日まで）に、完成時は工事完成後 10 日以内（土、日、祝日等が重なる場合はその前日まで）に（財）日本建設情報総合センターに登録しなければならない。

変更登録時は、工期、技術者に変更が生じた場合に行うものとし、工事請負代金のみ変更の場合は、原則として登録を必要としない。ただし、工事請負代金 2500 万円を超えて変更する場合には変更時登録を行うものとする。

登録完了後は、（財）日本建設情報総合センター発行の「登録内容確認書」を、直ちに監督職員に提出しなければならない。なお、変更時と完成時の間が 10 日間に満たない場合は、変更時の提出を省略できるものとする。

（技術者）

第 7 条 請負者は、測量・調査・施工管理及び検査のために専属して経験のある技術者を常に配置し、監督職員の指示に応じなければならない。

（監理技術者）

第 8 条 本工事で監理技術者を通知する場合は「監理技術者講習修了証」の写しを提出するものとする。対象者は平成 16 年 3 月 1 日以降に監理技術者資格者証を新規交付された者又は更新交付された者とする。なお、平成 16 年 2 月 29 日以前に監理技術者証を交付された者は対象外とする。

（監理技術者等の選任を要しない期間）

第 9 条 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、打合せ記録簿により明確となっていることを条件に、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員との打合せにおいて定めること。

2 工事完成後、検査が終了し、事務手続及び後片付け等のみが残っている期間については、主任技術者又は監理技術者への専任を要しない。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、請負者に通知した日（「工事目的物引受書」等における日付）とする。

（配置技術者等の途中交代）

第 10 条 配置技術者の途中交代が認められる場合としては、主任技術者又は監理技術者の死亡、傷病又は退職等、真にやむを得ない場合のほか、下記に該当する場合である。

- ・ 請負者の責によらない理由により工事中止又は工事内容の大幅な変更が発生し、工期が延長された場合。

- 2 前1項の場合にあっても、請負者と発注者が協議し、工事の継続性、品質確保等に支障がないと認められる場合のみ途中交代が可能となる。

(現場代理人の工事現場への常駐を要しない場合)

第11条 現場代理人は現場に常駐し、その運営及び取締りを行うこととされているが、以下のいずれかの要件を満たす場合に、工事請負契約書第10条第3項の「工事現場における運営、取締り及び権限の行使に支障がない」ものとして取扱うこととする。ただし、いずれの場合にも連絡が常にとれる体制を確保する必要や現場保全の義務(現場の巡回等)があるため、現場代理人を設置しておくことは必要である。

- (1) 契約締結後、現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間。
- (2) 工事請負契約書第20条により工事が一時中止されている期間。
- (3) 橋梁、ポンプ、ゲート又はエレベーター等の工場製作を含む工事であって、工場製作のみが行われている期間。また、同一工場内でほかの同種工事に係る製作と一元的な管理体制のもとで製作を行うことが可能である場合は、同一の現場代理人が、これらの製作を一括して運営及び取締りを行うことができるものとする。
- (4) 前3号に掲げる期間のほか、請負者から工事完成の通知があり、完成検査、事務手続及び後片付け等のみが残っているなど、工事現場において作業等が行われていない期間。

2 発注者への報告

前1項の要件を満たす場合は、現場代理人の工事現場における常駐を不要とし、外の工事と兼務することを可能とするが、「工事打合せ簿」等により、工事現場において作業等が行われていない期間を明確にしておくこと。

(現場代理人の兼任)

第12条 現場代理人は、請負契約の的確な履行を確保するため、工事現場の運営、取締りのほか、工事の施工及び契約関係事務に関する一切の事項(請負代金の変更、契約の解除等を除く。)を処理する受注者の代理人であるが、次の(1)から(5)のすべてを満たし、工事現場における運営、取締り及び権限の行使に支障がないと発注者が認めた場合、工事現場の兼任を認めるものとする。

また、主たる工種が区画線工事の場合、次の(1)、(2)及び(6)の全てを満たし、工事現場における運営、取締り及び権限の行使に支障がないと発注者が認めた場合は工事現場の兼任を認めるものとする。

なお、専任の主任(監理)技術者と現場代理人を兼務する場合において、専任の技術者配置の特例により他の現場と兼任が認められた工事については、(2)、(4)、(5)の要件を満たすものとし、兼任できる工事は2件までとする。

- (1) 兼任できる工事は3件までとし、それぞれの工事の請負金額が4,500万円※未満であること。ただし、設計変更により、工事の請負金額が4,500万円※以上となり、各々の工事における主任（監理）技術者と現場代理人が異なる場合においては、受発注者協議の上、兼任することが出来る。
- (2) 発注者又は監督員と常に携帯電話等で連絡をとれること。
- (3) 兼任する工事の相互の移動は、概ね1時間以内であること。
- (4) 発注者又は監督員が求めた場合には工事現場に速やかに向かう等の対応を行うこと。
- (5) 兼任する現場代理人は、必ず担当工事現場のいずれかに常駐するとともに、1日1回以上、担当工事現場を巡回し、現場管理等に当たること。
- (6) 兼任する現場代理人は、必ず担当する工事現場のいずれに常駐するとともに、それぞれの現場稼働日は重複しないこと。

※ 建築一式工事は、9,000万円

2 手続き

現場代理人の兼任を行う場合には、「兼任（変更）申請書」（別紙1）を提出し、発注者の承認を得たのち、必要に応じ、「現場代理人等選任（変更）通知書」により、発注者に通知すること。

なお、それぞれの工事において、発注者に現場代理人の兼任の承認を得ること。

3 受注者に対する措置請求

安全管理の不徹底や現場体制の不備に起因する事故等が発生した場合、建設工事請負契約書第12条に基づき、受注者に対して、必要な措置をとるべきことを請求するものとする。

（施工体制台帳の作成等）

第13条 本工事の請負者は、建設工事の一部を下請に付する場合は、施工体制台帳及び添付書類を作成し、工事現場に備え置くとともに、その写しを監督職員に遅滞なく（遅くとも下請け工事の着手前までに）提出すること。また、施工体制台帳の記載事項又は添付書類に変更があったときは、その都度、当該変更があった年月日を付記して、変更に関する事項について作成し提出すること。

（施工体系図の作成等）

第14条 本工事の請負者は、工事を施工するために、建設工事の一部又は以下の(1)から(4)の業務を下請に付する場合は、施工体系図を作成し、工事の期間中、工事現場の工事関係者が見やすい場所及び公衆の見やすい場所に掲示するとともに、その写しを監督職員に遅滞なく（遅くとも下請工事または業務の着手前までに）提出すること。また、施工体系図の記載事項に変更があったときは、その都度変更に関する事項について作成し提出すること。

- (1) 伐採及び測量・調査等の工事現場で作業を行う業務

- (2) 土砂やコンクリート殻等の運搬のみを行う業務
- (3) 工事現場の警備（交通誘導を含む）を行う業務
- (4) その他監督職員が記載を指示した業務等

（工事の施工）

第 15 条 工事着手にあたっては、地元区長及び近隣住民への周知を徹底すること。

- 2 着工前測量を実施し、その結果を報告するとともに設計図書と相違があった場合は監督員と協議すること。

（国土調査の基準点等測量標識等の保全）

第 16 条 施工区域内に国土調査の基準点等測量標識等がある場合は、その取扱いについて監督員に指示を仰ぐとともに、施工前に設置者と協議すること。

（管内（県内）建設業者の優先使用）

第 17 条 請負業者は、工事の一部を下請に付する場合は、北薩地域振興局管内に主たる営業所を有するものを使用するよう努めることとする。

- 2 請負業者は、前項で定めた建設業者を活用しない場合は、施工計画書等の提出と併せて「下請工事における管内建設業者等付活用状況報告書」を監督職員に提出すること。
- 3 請負業者は、工事完成時及び監督員から指示された場合、「下請業者使用実績報告書」を監督員に提出すること。

（県産資材の優先使用）

第 18 条 工事に使用する資材については、県内で産出、生産又は製造されたもの（以下「県産資材」という。）の優先使用に努めることとし、さらに、県産資材以外の資材等についても、県内に本店を置く資材業者等から調達するよう努めることとする。

- 2 請負業者「材料使用承認願」において、全ての資材について県産資材使用の湯無を記載するとともに、以下に記載する「指定主要資材」の中で県産資材を使用しない場合は、「県産資材等不使用状況報告書」を監督員に提出し、承諾を得なければならない。

指定主要資材 （ 7 品 目 ）	生コン（レディミクストコンクリート） コンクリート二次製品 石材類 アスファルト合材 木材 樹木 野芝
---------------------	--

- 3 前項で定めた不使用状況報告書において、第 1 項で定めた資材業者から調達しない場合は、その理由を記載すること。
- 4 請負業者は、工事完成時及び監督員から指示された場合、「建設資材使用実績報告書」を監督員に提出すること。

(現場発生品)

第 19 条 下記現場発生品については、監督職員に確認の上、搬入場所へ搬入又はスクラップを行うものとする。

資材名	規格	数量	搬入場所
鉄	ヘビーH1	1.80t	阿久根市折口地内 (株)小松商店

(支給品)

第 20 条 下記現場支給品については、監督職員に確認の上、保管場所から搬入場所へ搬入を行うものとする。

資材名	規格	数量	保管場所
安全衛生保護具		一式	阿久根市役所

(特定建設資材の分別解体等・再資源化等)

第 21 条 本工事は建設リサイクル法に規定されている特定建設資材及び特定建設資材廃棄物が含まれているので、適正な措置を講ずること。なお、本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、以下の積算条件を設定しているが、工事請負契約書「解体工事に要する費用等」に定める事項は契約締結時に発注者と請負者の間で確認されるものであるため、発注者が積算条件明示した以下の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。ただし、工事発注後に明らかになった事情により、予定した条件により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

(1) 分別解体等の方法 (参考)

工程ごとの作業内容・解体方法	工程	作業内容	分別解体等の方法 (※)
	仮設	仮設工事 □有 □無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	土工	土工事 □有 □無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	基礎	基礎工事 □有 □無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	本体構造	本体構造の工事 ■有 □無	□手作業 ■手作業・機械作業の併用
	本体付属品	本体付属品の工事 □有 □無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	その他	その他の工事 □有 □無	□手作業 □手作業・機械作業の併用

※ 「分別解体等の方法」の欄については、該当がない場合は記載の必要はない。

(2) 再資源化等をする施設の名称及び所在地

特定建設資材廃棄物の種類	施設の名称	所在地	運搬距離
無筋コンクリート			
鉄筋コンクリート			
アスファルト			

※ 上記(2)については積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、請負者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、請負者の責によるものではない事項についてはこの限りではない。

—(建設副産物の処理)—

第22条 建設工事の施工により発生する指定副産物（コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊、建設発生木材、汚泥（建設発生土は除く。）等。）のうち、処分の指定のない無筋コンクリート殻については、30 cm以下に小割し、盛土区間等で使用すること。その他については再資源化施設へ搬出すること。また、運搬に先立っては受入条件等を確認し、発注者に報告するものとする。なお、積算に際しては、前条第1項第2号に示す条件により積算している。

2 受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥または建設混合廃棄物等を工事現場から搬出する場合には、法令等に基づき、再生資源利用促進計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に写しを提出しなければならない。また、受注者は、法令等に基づき、再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。

3 処分状況等の記録（再生資源利用促進実施書及びマニフェスト（E票）の写し及び産業廃棄物管理票（マニフェスト）総括表）を完成書類に添付すること。なお、工事完了時点で最終処分が完了せず、E票が処分業者から返送されていない場合は、A票、B2票及びD票のうち直近に返送されたものの写しを添付すること。ただし、この場合においても、最終処分が完了し、E票が処分業者から返送され次第、直ちに同票の写しを提出すること。

4 工事発注後にやむを得ない事情により上記の指定により難しい場合は、監督職員と協議の上、その指示によること。

5 再生資材の利用

— 受注者は下記の資材の使用に際し、再生資材を利用すること。 —

資材名	規格	備考
再生加熱アスファルト混合物	再生密粒	
再生砕石	R C = 30	
再生砕石	R C = 40	

— なお、使用に際し、「プラント再生舗装技術指針」等を遵守すること。 —

- ~~6 受注者は、コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材アスファルト混合物等を工事現場に搬入する場合には、法令等に基づき、再生資源利用計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に写しを提出しなければならない。また、受注者は、法令等に基づき、再生資源利用計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。さらに、利用状況等の記録を完成書類に含めて提出すること。~~
- ~~7 工事発注後にやむを得ない事情により上記の指定により難しい場合は、監督職員と協議の上、その指示によること。~~

(産業廃棄物税)

第 23 条 本工事により発生する建設廃棄物のうち、焼却施設及び最終処分場に搬入する産業廃棄物には、産業廃棄物税が課税されるので適正に処理すること。

~~―(特別管理産業廃棄物の処理)―~~

第24条 特別管理産業廃棄物の処理（指定処分）

- ~~1) 本工事の施工により発生する特別管理産業廃棄物は、下記により搬出すること。~~
- ~~(1) 運 搬 距 離 : L=161km~~
- ~~(2) 運 搬 場 所 : 三池精練(株) (福岡県大牟田市)―~~
- ~~2) 処分状況の記録を完成書類に含めて提出すること。~~
- ~~3) 工事発注後にやむを得ない事情により上記の指定により難しい場合は、監督職員と協議の上、その指示によること。~~

(過積載等の防止)

第 25 条 ダンプトラック等による過積載等の防止について以下のことを遵守すること。

- (1) 工事用資機材等の積載超過のないようにすること。
- (2) 過積載を行っている資材納入業者から資材を購入しないこと。
- (3) 資材等の過積載を防止するため、資材の購入等に当たっては、資材納入業者等の利益を不当に害することがないようにすること。
- (4) さし枠の装着又は物品積載装置の不正改造をしたダンプカーが工事現場に出入りすることがないようにすること。
- (4) 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」(以下「法」という。)の目的に鑑み、法第 12 条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進すること。
- (6) 下請契約の相手方又は資材納入業者を選定するにあたっては、交通安全に関する配慮に欠けるもの又は業務に関しダンプトラック等によって悪質かつ重大な事故を発生させたものを排除すること。
- (7) 第 1 号から第 6 号のことにつき、下請契約における請負者を指導すること。

—(交通誘導員)—

第 26 条 本工事で配置する交通誘導員は、交通誘導警備業務に係る 1、2 級検定合格警備員、又は交通誘導に関して専門的な知識及び技能を有する警備員等を配置すること。ただし、鹿児島県公安委員会が道路における危険を防止するため、交通誘導警備業務検定合格警備員の配置が必要と定めた路線において、交通誘導警備業務に従事する場合の交通誘導員は、交通誘導警備業務を行う場所ごとに 1 名以上は 1 級検定合格警備員又は 2 級検定合格警備員を配置すること。なお、同一規制箇所では、交通誘導警備業務に従事する者全員を同一警備会社の警備員とすること。また、請負者は上記のことを示す資料を監督職員に現地着手前に提出すること。

資格	資格条件
交通誘導警備業務に係る 1 級検定合格警備員 2 級検定合格警備員	改正警備業法（H17.11.21 施工）における検定合格者
交通誘導に関し専門的な知識及び技術を有する警備員等	警備業法における基本教育及び業務別教育（警備法第二条第一項第二号の警備業務）を現に受けている者

(工事の施工)

第 27 条 本工事の施工にあたっての施工条件は図面や数量表を基にし、施工計画書の作成及び工事施工時において十分留意するものとする。なお、明示されている施工条件に変更が生じた場合は、契約変更の対象とする。また、工事実施期間中に派生した施工条件についても、甲乙協議の上契約変更の対象とする。

—(標準の機械経費（損料）が排出ガス対策型第 3 次基準値の建設機械の工種)—

第 28 条 機械掘削におけるバックホウの機械経費（損料）の積算に関しては、第 3 次基準値により算出している。なお、受注者が第 2 次基準値以下の建設機械を使用し施工する場合は、使用する建設機械の機械経費（損料）に設計変更する。

—(床掘及び切土)—

第 29 条 切土の法勾配は、設計図書に示した法勾配で仕上げるものとする。

2 監督職員の承認を受けず切りすぎた土量の増については変更契約の対象としない。

—(盛土及び埋戻)—

第 30 条 盛土は常に型下がりの横断形を保ち、土羽工を先行してはならない。

2 盛土施工中は常に雨水等による土砂流出を起こさないよう排水処理を考慮し施工すること。

3 埋戻前に漏水等ある場合は、必ず排水した後に埋戻をしなければならない。

~~—(コンクリート工)—~~

~~第 31 条 コンクリートの品質は下記のとおりとする。~~

種別	基準強度	スランプ	最大粒径	使用箇所
高炉セメント B 種	18N/mm ²	8±2.5 cm	40 mm	

~~第 32 条 レディミクストコンクリートの工場は原則として J I S マーク表示許可工場を選定する。~~

~~第 33 条 現場までの運搬時間、コンクリートの製造能力、運搬車数、工場の製造設備及び品質管理状態を考慮して選定し監督職員に報告すること。~~

~~第 34 条 レディミクストコンクリートを使用するときは使用に先立ち試験練りを行いその結果を報告しなければならない。なお第 31 条に示すもの以外のものを使用する場合は監督職員の承諾を得ること。~~

~~第 35 条 コンクリート構造物については打設計画を作成し 1 日毎の打設計画管理を行うこと。~~

~~—(セメントモルタル、コンクリート吹付工)—~~

~~第 36 条 請負者は、セメントモルタル等の吹付けにあたっては、吹付け厚さが均等になるよう施工しなければならない。~~

~~2 請負者は、吹付面が岩盤の場合には、ごみ、泥土及び浮石等の吹付材の付着に害となるものは除去しなければならない。吹付面が給水性の場合は、事前に給水させなければならない。また、吹付面が主砂の場合は、吹付厚により主砂が散乱しないように打ち固めなければならない。~~

~~3 請負者は、吹付の施工に影響を及ぼす湧水が発生した場合、又はその恐れのある場合には施工方法について事前に監督職員と協議しなければならない。~~

~~4 請負者は、補強用金網の設置にあたっては、設計図書に示す仕上がり面からの間隔を確保し、かつ吹付等により移動しないように法面に固定しなければならない。また、金網の継手の重ね巾は 10 cm 以上重ねなければならない。~~

~~5 請負者は、吹付けにあたっては法面に直角に吹付けるものとし、法面の上部から順次下部へ吹付け、はね返り材料の上に吹付けてはならない。~~

~~6 請負者は、1 日の作業の終了時及び休憩時には、吹付けの端部が次第に薄くなるように施工し、これに打継ぐ場合は、この部分のごみ、泥土等吹付材の付着に害となるものを除去し、清掃し、かつ湿らせてから吹付けなければならない。~~

- ~~7 請負者は、吹付仕上げ面及び吹付端部の施工に際しては、速度を遅くして仕上げなければならない。表面仕上げを行う場合には、吹付けた面とコンクリート又はセメントモルタル等が付着するように仕上げなければならない。~~
- ~~8 請負者は、吹付けに際しては、外の構造物を汚さないように、また、はね返り材料は速やかに取除いて不良箇所が生じないように施工しなければならない。~~
- ~~9 請負者は、吹付けを2層以上に分けて行う場合には、層間にはく離が生じないように施工しなければならない。~~
- ~~10 請負者は、吹付玉の伸縮目地、水抜き孔を設計図書によるほか監督職員の指示により施工しなければならない。~~
- ~~11 請負者は、法肩の吹付けにあたっては、地山に巻き込んで施工しなければならない。~~
- ~~12 請負者は、2 m²に1か所程度の割合で水抜きパイプ（VP50）を取付けなければならない。~~
- ~~13 コンクリート吹付玉の吹付モルタルの配合、モルタル吹付玉等の吹付モルタルの配合は以下のとおりとする。~~

	W/C	C:S:G	C:S

~~（舗装工）~~

~~第37条 表層工~~

~~混合物敷均し後の締固めは振動ローラ又はタンパーで転圧しなければならない。~~

~~第38条 上層路盤工~~

~~材料まき出し後の締固めは車道部を振動ローラ又はタンパーで転圧しなければならない。~~

~~第39条 その他~~

~~舗装工は「アスファルト舗装工事共通仕様書」によるものとする。管理基準は「土木工事施工管理基準のアスファルト舗装（簡易舗装）」による。~~

~~（排水工）~~

~~第40条 排水工の基礎工は切込砕石（再生材40mm以下）の再生材を使用してタンパーにて十分転圧すること。~~

~~（環境保全型ブロック積）~~

~~第41条 環境保全型ブロック積の施工にあたっては、多自然型川づくりを念頭に現況を改変することなく良好な瀬淵環境を保全し、又は創出すること。~~

- ~~2 土工により河床を真っ平らに仕上げない。また、埋戻等により水際部を固めない。~~
- ~~3 水際には発生材により寄せ石及び寄せ土を行い、水生生物の住处づくりと植生回復を図ること。~~
- ~~4 周辺環境と調和したブロックを選定し、明度、彩度を抑えテクスチャーを持たせること。~~

(支障物件)

第 42 条 着工前測量により嵩上げ切下げ等が必要なマンホール等があった際は、調査を行い速やかに監督職員へ報告すること。

(工事縮減期間)

第 43 条 下記の期間（予定）は、「鹿児島県域の路上工事縮減に関する行動計画」により、緊急対応等やむを得ない工事及び一時的な通行規制解除が困難な工事を除き、原則として路上工事（既に供用中の道路上で行われる、道路管理者及び占有企業者が行う通行規制を伴う工事）を中止することとする。工事中止期間については、予定であるため、詳細な日程が決まり次第請負者に通知するものとする。

中止する行事等	中止開始（予定）	中止終了（予定）
ゴールデンウィーク	令和 8 年 4 月 29 日（水）	令和 8 年 5 月 6 日（水）
お盆	令和 8 年 8 月 8 日（土）	令和 8 年 8 月 16 日（日）
年末年始	令和 8 年 12 月 29 日（火）	令和 9 年 1 月 3 日（日）

(安全管理)

第 44 条 工事施設の安全を確保するため「土木工事安全施工技術指針」（全日本建設技術協会発行）によること。

第 45 条 労働安全衛生法、同法施行令及び同法施行規則を遵守すること。また、労働安全衛生規則「第二編第一二章土石流による危険の防止」の規定を遵守し施工計画書に明記すること。

第 46 条 道路法、道路交通法及び同法施工規則等を遵守し安全対策に努めること。

第 47 条 交通管理については道路標識板、バリケード、工事灯及び交通整理人の設置によって交通に与える影響を最小限にするよう作業計画、交通事故の絶無を期さなければならない。

2 看板は原則として、信号機の下に 1 か所、信号機より 30m 程度手前に 1 か所設置することとし、現場の状況等十分留意のうえ交通安全上必要な措置は講じること。

(書類提出)

第 48 条 下記に示すものは必ず現場代理人か現場監督員が持参のうえ提出するものとし、監督職員の承認を得ること。

(1) 工事契約 30 日以内

ア 請負工事契約約款第 4 条による横線式の工程表

イ 工事施工計画書

工事施工計画書については鹿児島県土木部制定「土木工事共通仕様書」「土木工事施工管理基準」に準じて作成し、必ず工事概要、工事内容、工事工程、現場組織、主要機械計画、主要材料、施工方法、測量計画管理、品質管理、出来高管理、写真管理、安全管理、仮設計画及び実施工程表を分かりやすく書きまとめるものとする。

(2) 生コンクリート打設前

生コンクリート使用承認及び配合報告書を提出する。

(3) アスファルト舗設前

アスファルト舗設前においては「基準密度承認願」にて承認を得ること。ただし、同時にマーシャル試験における「配合の承認」「使用骨材の承認」「瀝青材等の品質証明書」等を提出すること。

(4) 特記仕様書に指定していない二次製品の使用前

積ブロック、トラフ等特記仕様書に指定のない場合は必ず使用前に「材料使用の承認」と併せて「配合報告書」「品質証明書」を提出して承認を得ること。

(5) 工事の出来高報告書（工事月報）

毎月末日現在の出来高を作成して毎月 5 日までに提出すること。

(6) 完成検査前

ア 完成届

イ 提出書類

提出書類については写真整理、出来高管理及び品質管理を「土木工事施工管理基準」に従って順序良く製本しインデックス等を取付けること。特に写真整理については「土木工事施工管理基準」の写真管理基準によって撮影製本するものとする。

ウ 電子納品

本工事は、電子納品対象工事とする。電子納品とは、「調査、設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子成果品として納品すること」をいう。ここでいう電子成果品とは、「阿久根市電子納品ガイドライン（令和 4 年 1 月）」（以下「ガイドライン」という。）に定める基準に基づいて作成した電子データを指す。

【阿久根市ウェブサイト】

ホーム > 市政情報 > 施策・計画 > 土木・建築・交通 > 電子納品

ガイドラインに基づき作成した電子成果品は、電子媒体で正本・副本各1部の計2部提出する。電子納品レベル及び成果品の電子化の範囲については、事前協議を行い決定する。

(7) 検査後

検査写真には検査時における写真の代表的なものを添付する。また、併せて検査における破壊確認の写真、補修完了の写真を対比して添付すること。

(安全管理活動の実施状況報告)

第49条 安全管理活動については、実施状況等を毎月工事月報と併せて5日までに報告すること。

- (1) 現場に則した安全・訓練等について、工事着手後、原則として作業員全員の参加により月当たり半日以上の時間を割当て実施。
- (2) 災害防止（工事安全）協議会等を設置し、月当たり1回以上活動。
- (3) 店社パトロールを月当たり1回以上実施。
- (4) 安全巡視、TBM、KY等の実施。
- (5) 各種安全パトロールで指摘を受けた事項についての改善措置。

(熱中症対策に資する現場管理費の補正)

第50条 本工事は、熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行対象工事である。

2 試行にあたっては、「熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行について」に基づき行うものとする。

3 「熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行について」は、阿久根市ホームページから取得できる。

(暴力団関係者による不当介入を受けた場合の措置)

第51条 鹿児島県が発注する建設工事等（以下「県工事等」という。）において、暴力団関係者による不当要求又は工事妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、その旨を遅滞なく発注者及び警察に通報すること。県工事等において、暴力団関係者による不当介入を受けたことにより工程に遅れが生じる等の被害が生じた場合は、発注者と協議を行うこと。

(工事等の施工にあたって要する物品等の調達)

第52条 資材、機械の購入や借入れ等をする場合は、可能な限り阿久根市内業者を優先して活用すること。

- 2 建設現場内における飲食のほか、現場事務所内で必要とされる事務用品等の購入は可能な限り市内業者から購入すること。

(仮設工)

第 53 条 本工事における仮設工は、吊足場を仮設物として設置してある。吊足場については、工期開始日から令和 8 年 9 月末までの間に足場の管理を引受け、2 工区及び 3 工区の施工が完了したのち撤去すること。

~~—(工事等における遠隔臨場試行の推進にかかる運用)—~~

~~第 54 条 本工事は、遠隔臨場の試行対象とする。~~

~~遠隔臨場の試行は、「鹿児島県の公共工事等における遠隔臨場試行要領」により、受発注者いずれの発議でも打合せ簿による協議のうえ適用できる。~~

~~遠隔臨場は、受発注者の働き方改革に寄与するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止にもつながることから試行を推進しており、現場立会のほか、日頃の工事打合せについても、積極的な遠隔臨場の取り組みに努めること。~~

~~なお、遠隔臨場の取り組みを行った場合は、必要となる費用を以下の(1)から(4)により設計変更で計上することとする。~~

~~(1) 遠隔臨場に必要な費用は、共通仮設費の技術管理費に積上げ計上することとし、全ての諸経費の対象としない。~~

~~(2) 遠隔臨場に要する機器等はリースを基本とし、遠隔臨場を行う工事で機器を利用した期間の賃料を計上できる。~~

~~(3) 遠隔臨場に要する機器を購入した場合や手持ちの機器とした場合は、国税庁ホームページの耐用年数表に基づき損料を計上する。~~

~~※ 耐用年数例~~

~~タブレット、カメラ、アプリケーションソフト等：5 年~~

~~Wi-Fi ルータ等通信機類：10 年~~

~~—(4) 情報共有システム（ASP 方式）のオプションとしてプロバイダが提供している遠隔臨場機能を利用する場合は、遠隔臨場機能（オプション契約分）を利用した期間の遠隔臨場機能利用料金を計上する。~~

(「週休 2 日」施行工事)

第 55 条 本工事は週休 2 日試行工事の対象工事であり、受注者が希望する場合は、阿久根市「週休 2 日試行工事」実施要領（令和 7 年 8 月 1 日）（以下、「要領」という。）に基づき取り組むこととする。

(工期)

第 56 条 本工事の工期は令和 9 年 3 月 15 日までとする。

2 本工事は、令和 7 年度繰越予算を含むため、不測の事態が生じた際は速やかに監督員に報告すること。

(工事現場の現場環境改善)

第 57 条 工事現場の現場環境改善は、周辺住民の生活環境への配慮及び一般住民への建設事業の広報活動、現場労働者の作業環境の改善を行うために実施するものである。受注者はこの趣旨を理解し、発注者と協力しつつ地域との連携を図り、適正に工事を実施すること。

2 現場環境改善については、別表－１の内容のうち、原則として各計上費目（仮設備関係、営繕関係、安全関係及び地域連携）ごとに１内容ずつ（いずれか１費目のみ２内容）の合計５つの内容を基本として実施すること。

3 現場環境改善においては、木製資材の積極的な使用に努めること。

4 現場環境改善の具体的な実施内容及び実施時期について、施工計画書へ記載し提出すること。

5 工事完了時には、現場環境改善の実施写真を提出すること。

6 工期設定に関しては、現場環境改善の準備に必要な期間を考慮すること。

〔別表－１〕

計上費目	実施する内容（率計上分）
仮設備 関係	１．用水・電力等の供給設備，２．緑化・花壇，３．ライトアップ施設 ４．見学路及び椅子の設置，５．昇降設備の充実，６．環境負荷の低減
営繕関係	１．現場事務所の快適化（女性更衣室の設置を含む） ２．労働宿舍の快適化，３．デザインボックス（交通誘導警備員待機室） ４．現場休憩所の快適化，５．健康関連設備及び厚生施設の充実等
安全関係	１．工事標識・照明等安全施設のイメージアップ（電光式標識等） ２．盗難防止対策（警報機等）
地域連携	１．完成予想図，２．工法説明図，３．工事工程表 ４．デザイン工事看板（各工事ＰＲ看板含む） ５．見学会等の開催（イベント等の実施含む） ６．見学所（インフォメーションセンター）の設置及び管理運営 ７．パンフレット・工法説明ビデオ ８．地域対策費等（地域行事等の経費を含む），９．社会貢献

〔別表－２〕

現場環境改善実施内容に関する名称	損耗率
緑化・花壇，完成予想図，工法説明図，工事工程表 パンフレット・工法説明ビデオ	100%（箇所）
デザイン工事看板	10%（／月）
ライトアップ施設	8%（／月）
電光式標識	4%（／月）
備品類	2%（／月）

（注） 1 上表は工事場所，工事時期及び使用条件を考慮して割増しすることができる。

2 類似品は，上表損耗率を準用できる。

3 一工事において，損耗率が１００％を超える場合は，上限値は１００％とする。

4 設置月数は，工程から求めるものとし，０．５ヶ月単位（２捨３入）とする。

ただし，１５日未満は０．５ヶ月とする。

(快適トイレの設置)

第 58 条 本工事は、阿久根市の建設現場における「快適トイレ」設置の試行対象工事である。受注者は積極的に快適トイレの試行に取り組むこと。快適トイレを設置する場合は、『阿久根市の建設現場における「快適トイレ」設置の試行要領』に基づき行うものとする。

なお、試行要領は阿久根市ホームページから取得できる。

(ヤンバルトサカヤスデのまん延防止)

第 59 条 ヤンバルトサカヤスデのまん延を防止するため、当該現場での土壌や植物等の搬出入にあたっては、別添「ヤンバルトサカヤスデのまん延防止対策について」を参考に、十分注意を払うとともに、ヤンバルトサカヤスデの生息が確認された場合は、まん延防止対策を講ずる必要があるため、生息状況等の調査を行い、監督職員に報告すること。

【別添】

ヤンバルトサカヤスデのまん延防止対策について

1 土・樹木等の措置

- (1) 発生地区からの搬出を極力抑えることを原則とする。
- (2) 廃棄樹木等については、一般廃棄物及び産業廃棄物の取扱いが可能な焼却施設で焼却処理する。

一般廃棄物：市町村の所管する焼却施設、業の許可を有している民間の焼却施設

産業廃棄物：業の許可を有している民間の焼却施設（産業廃棄物税が発生します。）

2 工事区域周辺部の措置

周辺部への拡散を防止するため、周辺部に薬剤散布等の措置を行う。

3 やむを得ず、土及び樹木等を発生地区から搬出する場合の措置

- (1) 薬剤処理・燻蒸処理後に搬出する。
- (2) 薬剤処理の困難な農作物等の搬出の場合は、付着土壌の除去及び目視除去後搬出する。

4 発生地区に搬入した建設機材や農・林業耕作機械の措置

付着土壌の除去及び薬剤処理後搬出する。

5 未発生地区での措置

発生地区からの土及び樹木等の搬入や農・林業耕作機械の移動等があった場合は、上記1～3の措置が講じられているかを確認する。

※ 奄美群島以外でヤンバルトサカヤスデの発生が確認されている地区

H11：南九州市（旧穎娃町、旧知覧町）

H14：指宿市（旧山川町）、屋久島町（旧屋久町）

H15：鹿児島市（旧吉田町）、日置市（旧吹上町）、枕崎市

H16：鹿児島市

H17：指宿市

H22：出水市、南さつま市

H25：霧島市、阿久根市

H26：鹿屋市、姶良市

H29：長島町

R 3：西之表市、中種子町、錦江町

R 4：肝付町、薩摩川内市、いちき串木野市、南大隅町

R 6：大崎町

R 7：志布志市

材料使用承認願	
工 事 名	請 負 業 者 名
工 期	現 場 代 理 人
路 線 (河 川	総 括 監 督 員
工 事 箇 所 名	監 督 員

[illegible]

(別紙報告書)

安全・訓練等の実施状況報告書

工 事 名			請 負 者 名	
契 約 工 期	令和 年 月 日～令和 年 月 日(日間)			
実 施 日	所要時間	参加人数	実 施 内 容 等	

(注) 実施状況写真は別添のとおり。

工 事 打 合 簿

発 議 者	発注者 請負者	発 議 年 月 日	令和 年 月 日
発 議 事 項	指示 協議 通知 承諾 提出 報告 ☐ 届出 ☐ その他（ ）		
工 事 名		請 負 者 名	
(内 容)			
添付図 葉, その他添付図書			
処 理 ・ 回 答	発注者	上記について 指示 承諾 協議 通知 受理 します。 変更契約の対象となるので、別途変更指示書にて通知します。 緊急を要するものであるため、工事打合簿により指示します。 併せて、変更契約の対象となるので、別途変更指示書にて通知します。 その他（ ）	令和 年 月 日
	請負者	上記について 了解 協議 提出 報告 届出 します。 その他（ ）	

総 括 監督員	監 督 員

現 場 代理人	主 技 術 任 者

令和 年 月 日

請負者
商号又は名称
代表者の氏名

下記工事について、現場代理人を兼任したいので（変更）申請します。
 なお、両工事の施工に当たっては、関係法令等を遵守し、安全管理及び工程管理に留意します。

①兼任する工事 (県土木部工事)	主 任 技 術 者		
	現 場 代 理 人		
	工 事 名		
	工 事 場 所		
	工 期		
	請負金額(税込み)		
	現場代理人不在の間の緊急連絡先	氏 名	
	連絡先		
②兼任する他の工事	主 任 技 術 者		
	現 場 代 理 人		
	工 事 名		
	工 事 場 所		
	工 期		
	請負金額(税込み)		
	発 注 機 関 名		
	監 督 員 氏 名		
	発注機関の連絡先		
③兼任する他の工事	主 任 技 術 者		
	現 場 代 理 人		
	工 事 名		
	工 事 場 所		
	工 期		
	請負金額(税込み)		
	発 注 機 関 名		
	監 督 員 氏 名		
	発注機関の連絡先		
工事現場の相互の 距離・移動時間	①-②	km	ㄥ
	①-③	km	ㄥ
	②-③	km	ㄥ

○添付書類：兼任する他の工事の当初契約書（写し）（※契約前の工事については後日提出）
○兼任する他の工事について、兼任の承認を受けていることがわかる書類の写しを後日提出すること

現場環境改善 実施（変更）計画書

工事名：令和〇〇年度〇〇〇〇〇〇工事（〇〇工区）

①率計上分

項目	現場環境改善費 を含んだ額 A	共通仮設費 計上額 B	差額 C	損耗率 D	数量 N	月数 M	金額
記入例							
購入品	A 100,000	B 60,000	A-B 40,000	D 50%	N 1	M 1	C+D+N×M 20,000
リース品	A 200,000	B 120,000	A-B 80,000	- -	N 1	M 1	C+N×M 80,000
小計							100,000
仮設備関係			0				0
小計							0
営繕関係			0				0
小計							0
安全関係			0				0
小計							0
地域連携			0				0
小計							0
合計							0

②積上げ計上分

項目							金額
その他 積上げ費用							
小計							0

③積上げ計上分（熱中症対策・防寒対策）

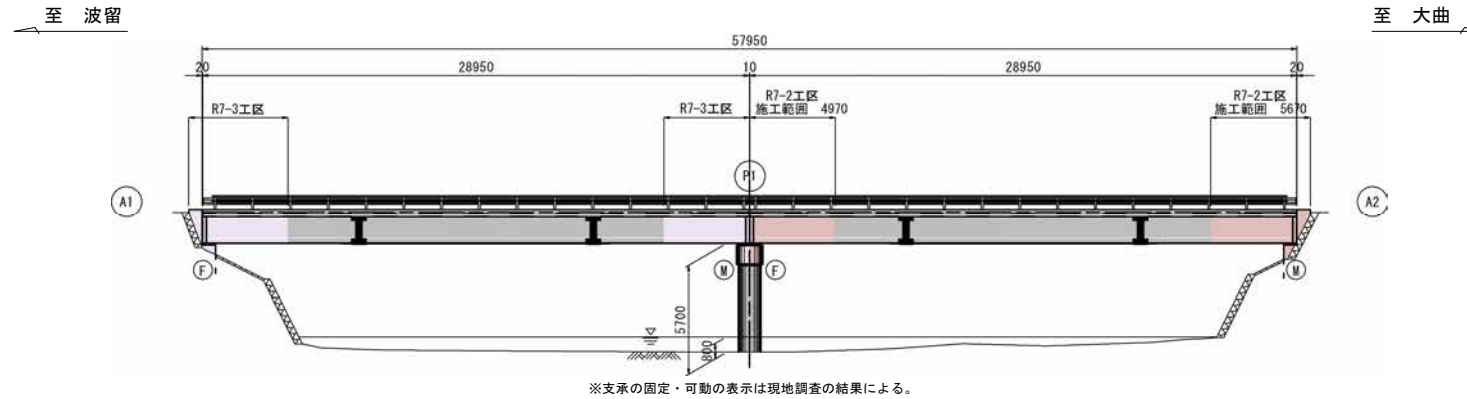
項目							金額
熱中症対策・防寒対策に関する費用							
小計							0
上限額 （現場環境改善費（率分）の50％）							
計上額							0

注：③積上げ計上（熱中症対策）を実施する場合は、別途発注者と協議すること。

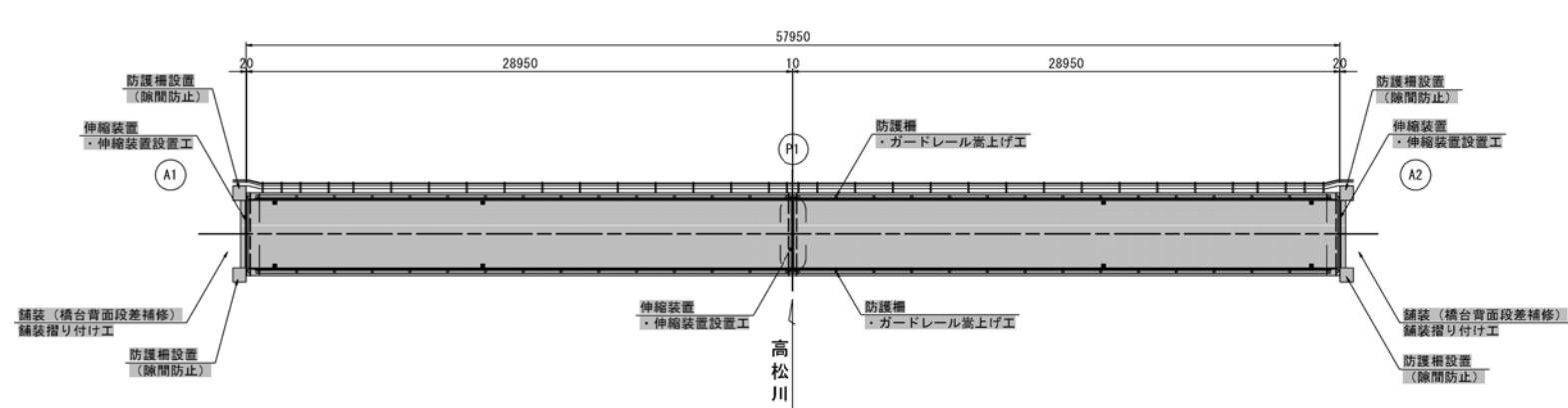
合計	0
----	---

浜田橋 補修計画一般図

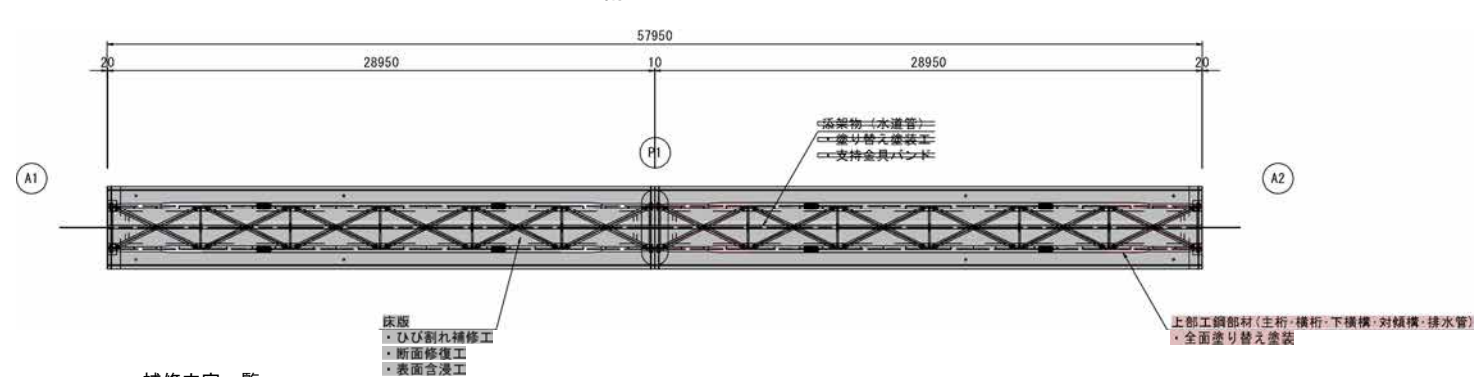
側面図 S=1:200



橋面圖 S=1:200



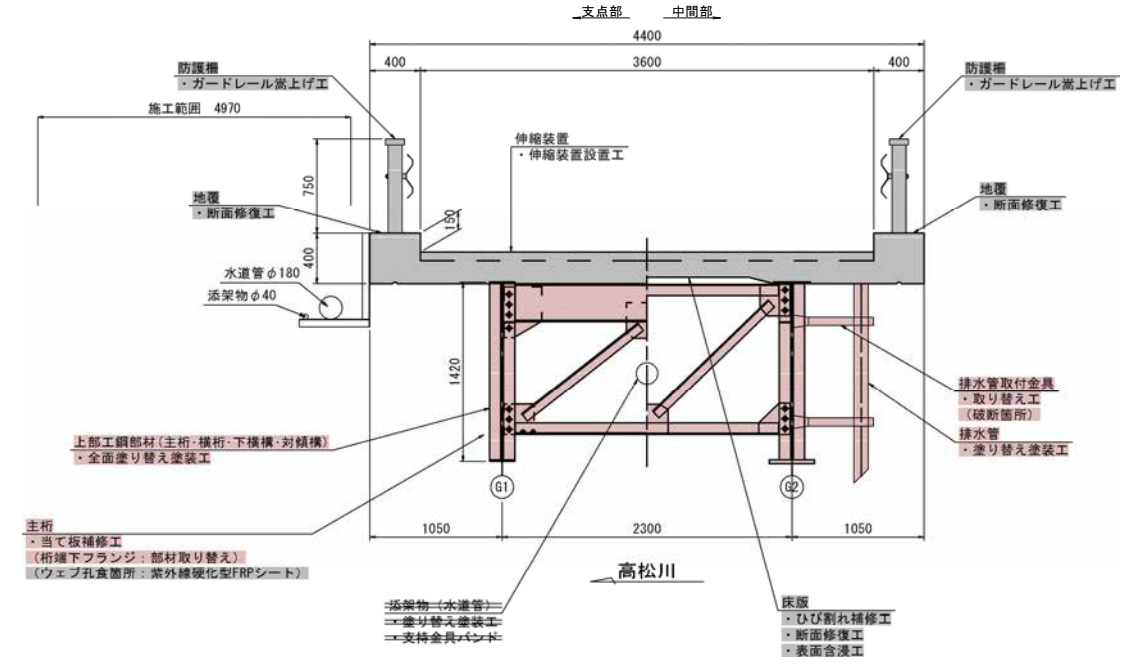
桁 下 図 S=1:200



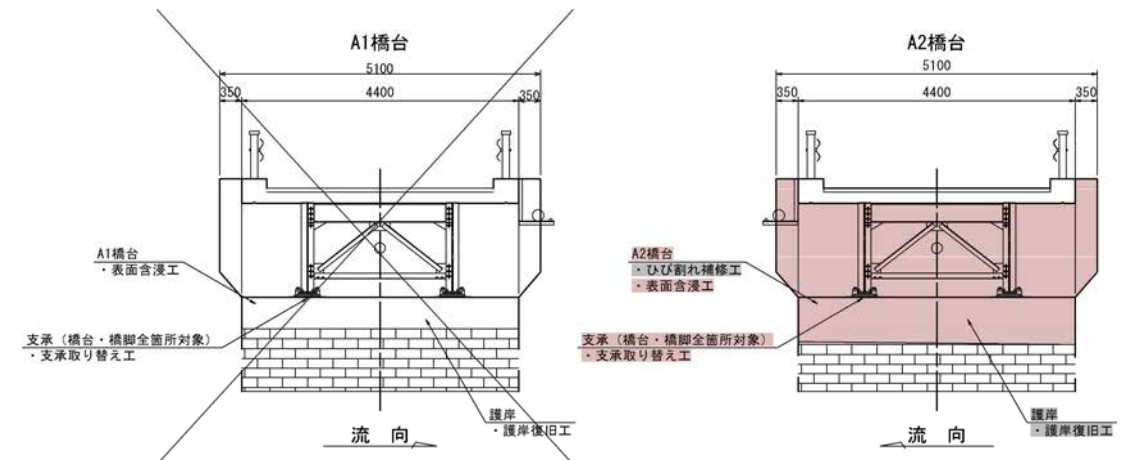
補修内容一覧

	部位	補修内容	備考
上部工	鋼部材（主桁・横桁・下横桁・対傾構） （全面塗装塗り替え）	塗り替え塗装工	塗膜剥離剤、2種ケレン 錆乾機型防食塗装
	主桁	当て板補修工	下フランジ取替え（SS400、SM材） ウェーブ孔金補修 ≪紫外線硬化型EPシート≫
		むび割れ補修工	エポキシ樹脂3種
	床版	断面修復工	ポリマーセメントモルタル
		表面含浸工	シラン系（吸水防止型）
下部工	橋台	断面修復工	ポリマーセメントモルタル
	橋台・橋脚	表面含浸工	シラン系（吸水防止型）
	護岸	護岸撤去・復旧	コンクリートブロック18N/mm ²
	支承工	支承取替え工	ゴム支承・アンカーバー
橋面工	地盤	断面修復工	ポリマーセメントモルタル
	舗装	舗装撤付け工	As舗装（A1～A2橋台背面部）
	防護柵	防護柵嵩上げ工	ガードレール嵩上げ
		防護柵設置	ガードパイプ
	排水施設	排水管塗り替え塗装工	上部工鋼部材と同対策
		排水管取り替え工	SS400
	添架物	水道管塗り替え塗装工	上部工鋼部材と同対策
		添架物支持金具バンド	SS400
	伸縮装置	伸縮装置設置	荷重支持型伸縮装置

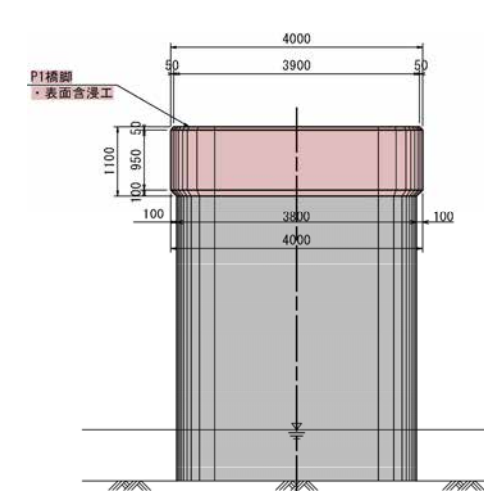
断面図 S=1:30



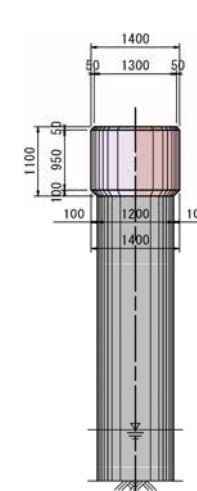
下部工正面図 S=1:6



P1橋脚正面



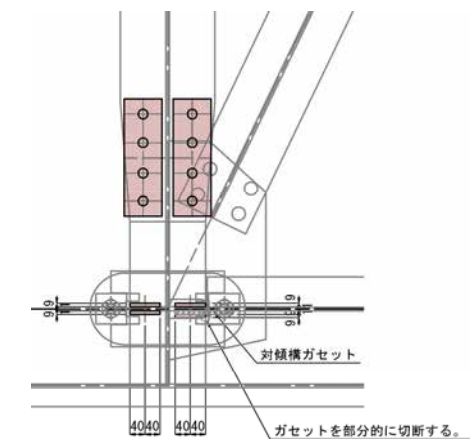
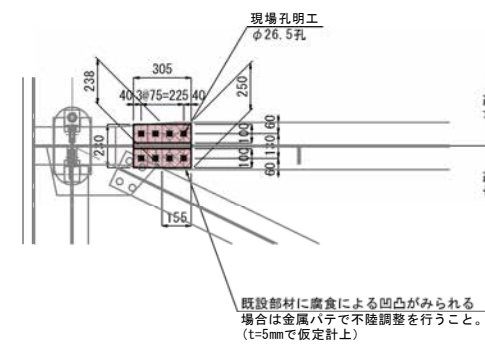
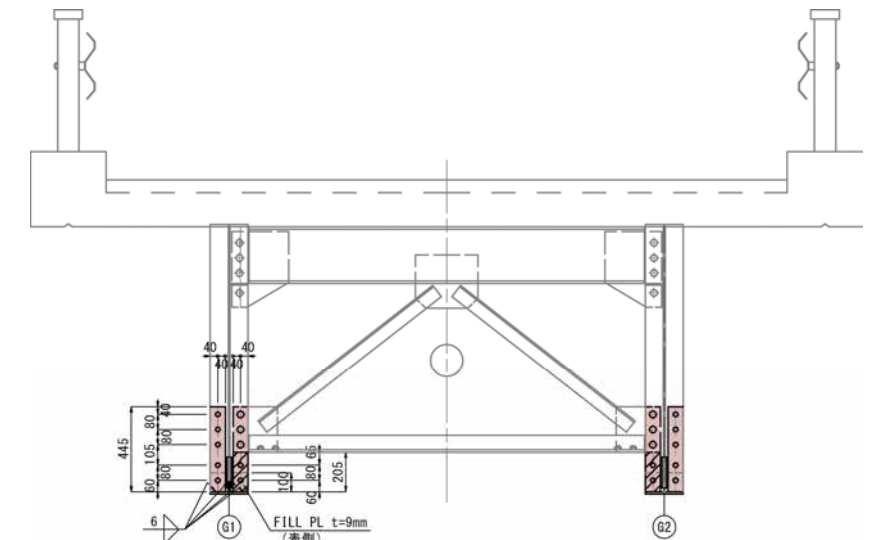
P1橋脚側面図



実施設計図

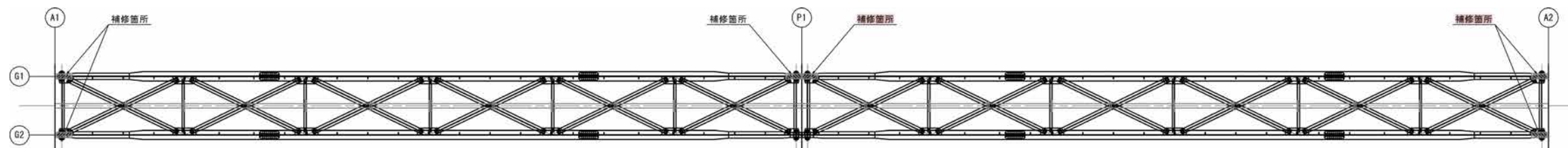
阿久根市	
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業 浜田橋補繕工事（2工区）
河川 路線名	市道 波留大曲線
工事箇所	阿久根 郡 畛 市 村 波留 地内
図面種類	浜田橋 補修計画一般図
縮尺	図示
図面番号	全 13 葉 第 1 号

断面図 S=1:20



- 注 記)
1. 特記無き材質は全てSM490Aとする。
 2. ④印はTCB (S10T) M22を示す。
 3. ⑤印はHTB (F10T) M22を示す。
 4. 本図は道路台帳、簡易測量を基に作成しているため、工事着手時に形状寸法を測定し、構造図の補正をおこなった後に作業を実施すること。
 5. 現地実測のうえ構造図の補正をおこない、部材の製作をすること。

実施設計図

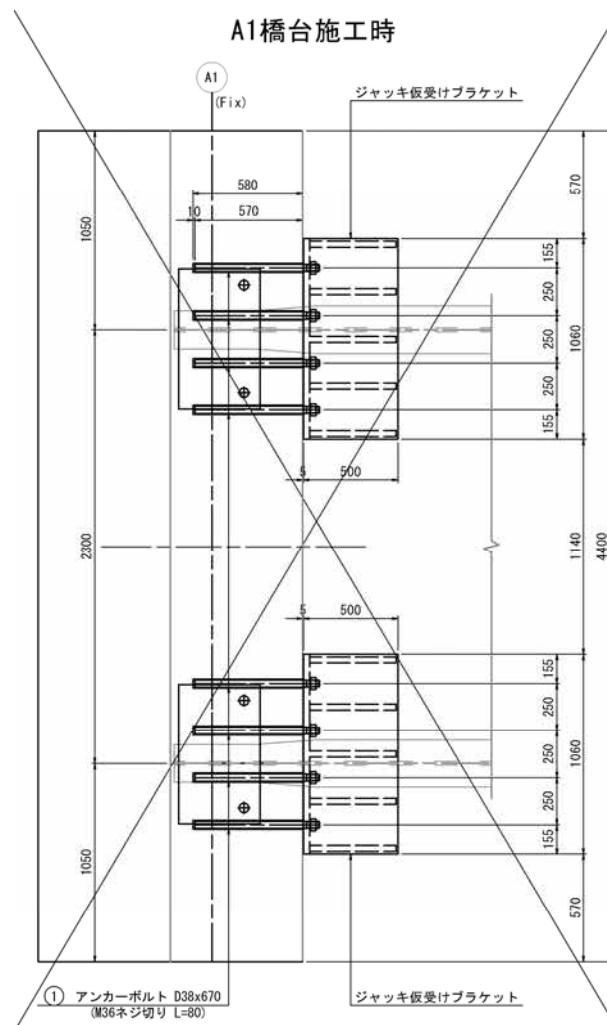


阿久根市	
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業 浜田橋修繕工事（2工区）
河川 路線名	市道 波留大曲線
工事箇所	阿久根 市 野 留 地内 村 村
図面種類	浜田橋 当て板補修図（その1）
縮尺	図 示
図面番号	全 13 葉 第 2 号

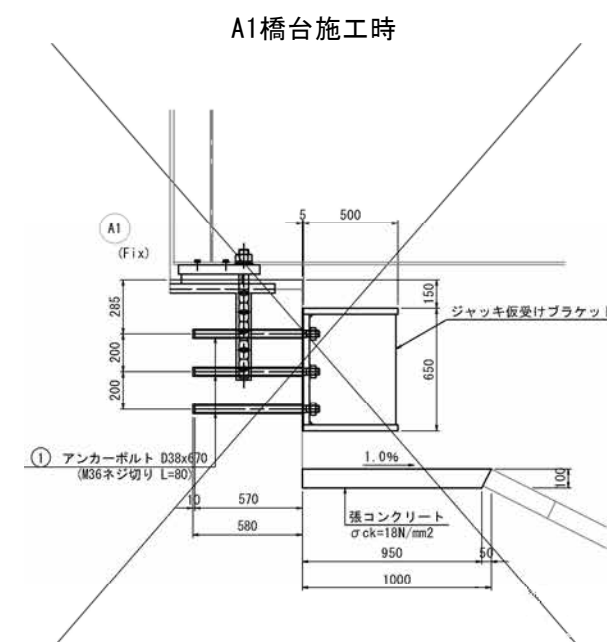
浜田橋 支承取り替え詳細図（その1）

仮受ブラケット詳細図（橋台部） S=1:20

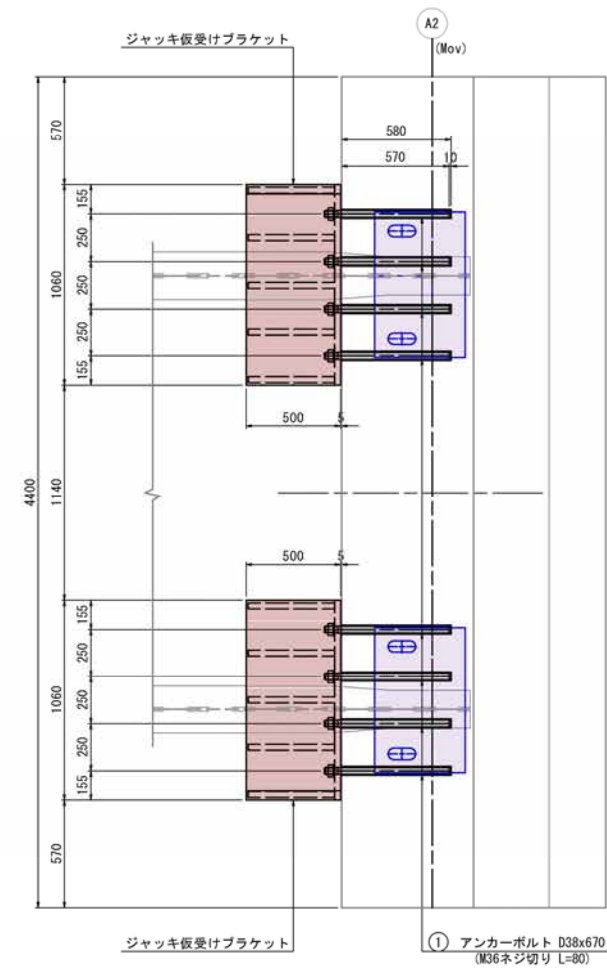
仮受ブラケット配置平面図



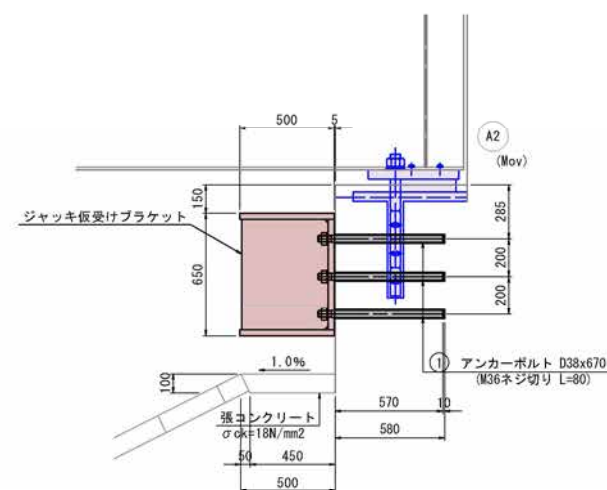
仮受ブラケット配置側面図



A2橋台施工時

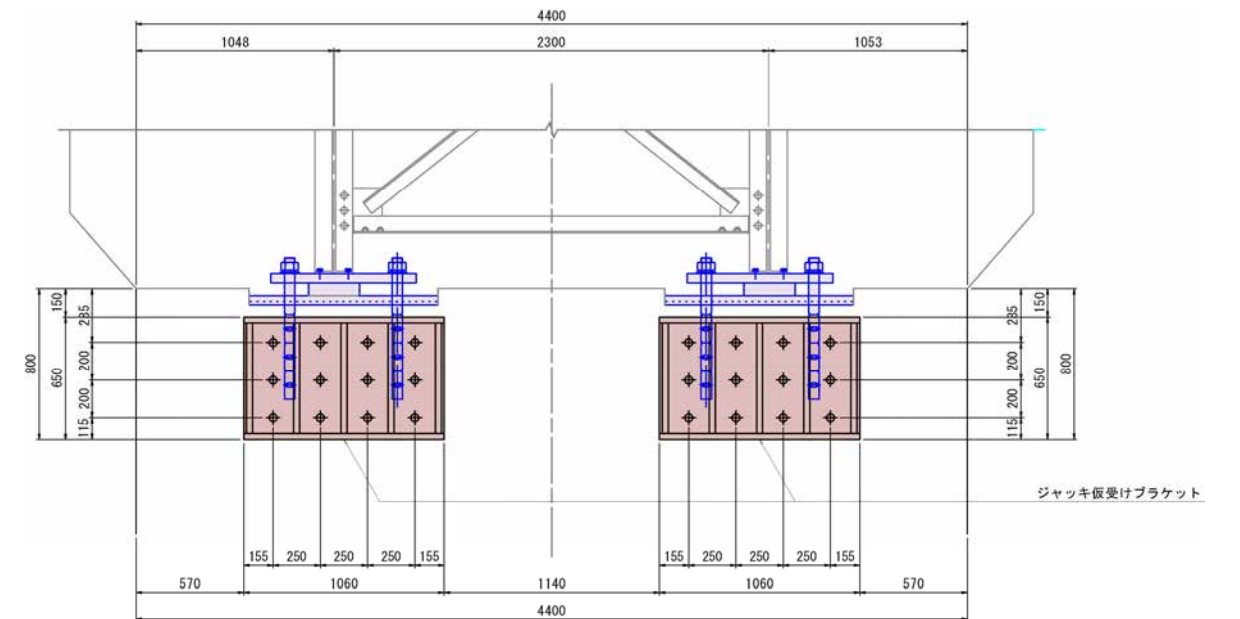


A2橋台施工時



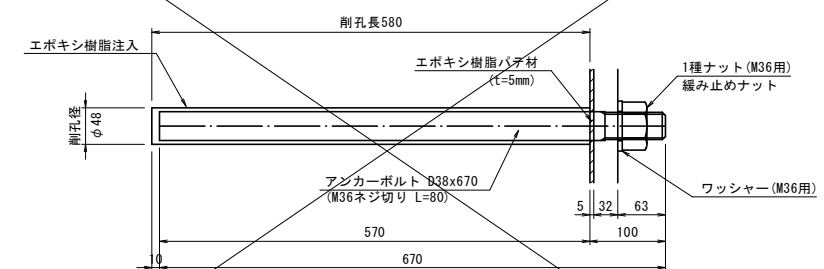
A2橋台

正面図



アンカーボルト詳細図 S=1:5

① 全 N=16ヶ所/橋台



1基当りのアンカー数量

12-Anc Bolt D38x670 (SD345)

12-NUT M36用(SS400)

12-Washer M36用 (SS400)

注記)

1. 橋台部に関しては設置完了しており、今回は撤去のみ。

2. アンカーボルト8本/ブラケット1基

実施設計図

阿久根市	
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業 浜田橋修繕工事（2工区）
河川 路線名	市道 波留大曲線
工事箇所	阿久根 郡 野村 波留 地内
図面種類	浜田橋 支取取り替え詳細図（その1）
縮尺	図示
図面番号	全 13 葉 第 3 号

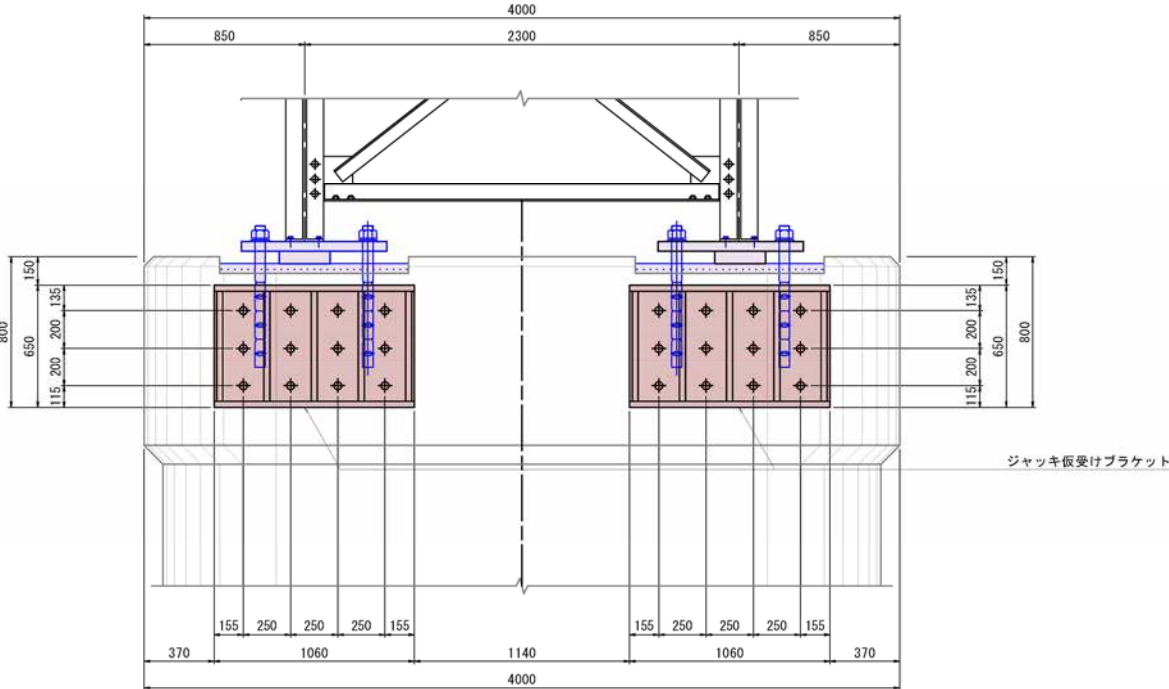
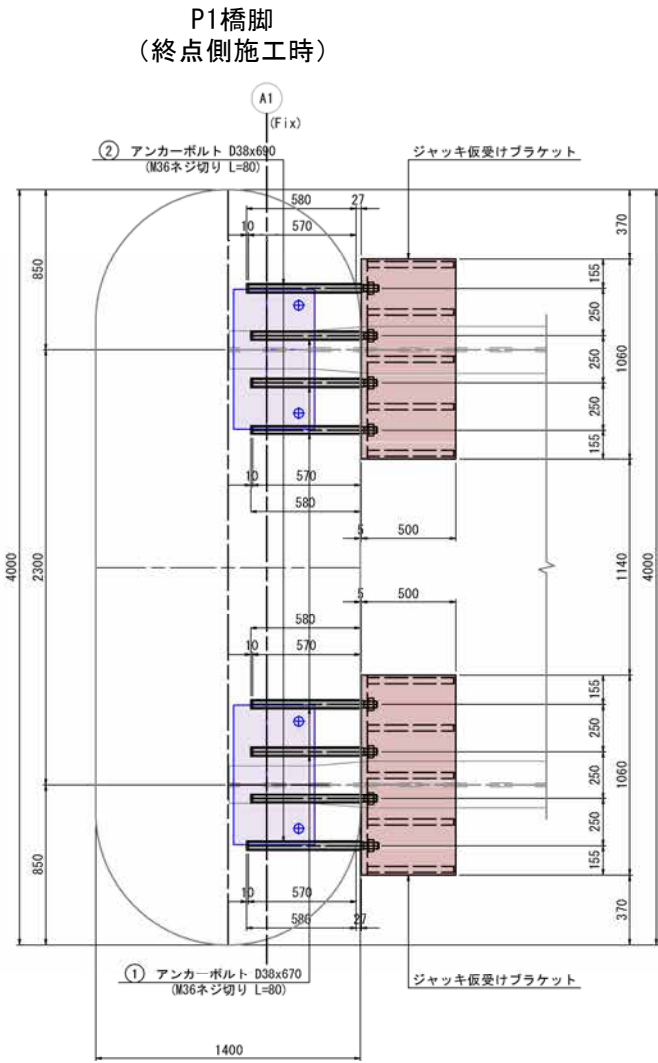
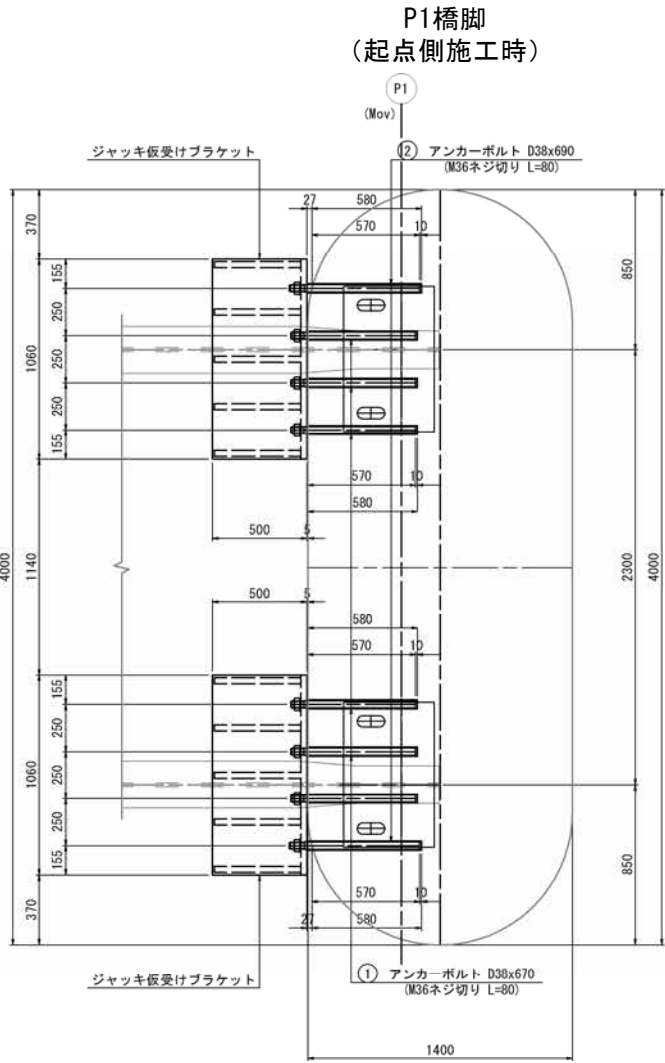
浜田橋 支承取り替え詳細図（その2）

仮受ブラケット配置平面図

仮受ブラケット詳細図（橋台部） S=1:20

P1橋脚
（起点側・終点側共通）

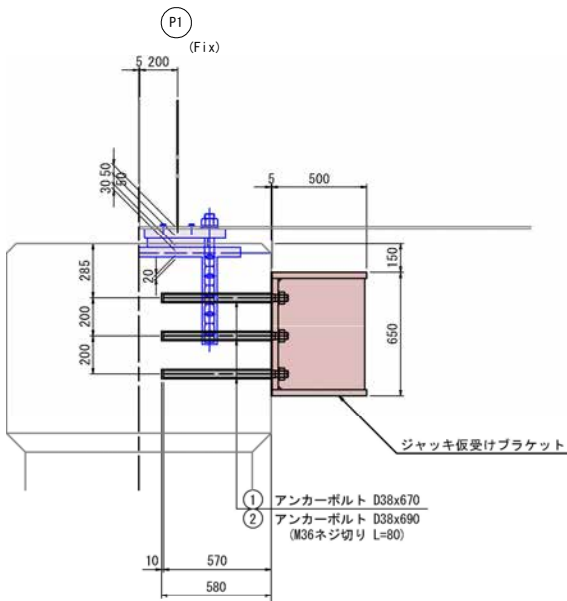
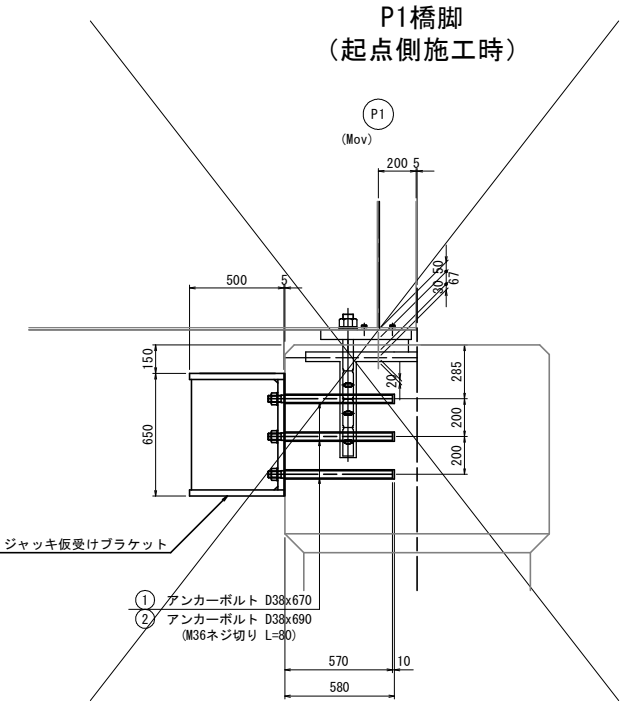
正面図



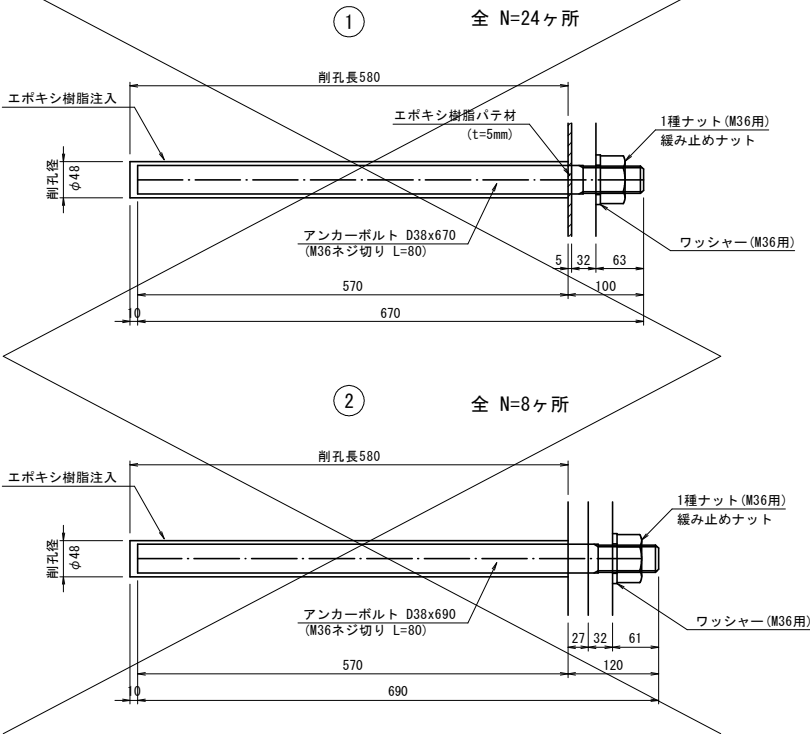
注）支承アンカー位置と干渉しないようブラケットアンカーを設置すること

仮受ブラケット配置側面図

P1橋脚
（終点側施工時）



アンカーボルト詳細図 S=1:5



- ① 1基当りのアンカー数量
12-Anc Bolt D38x670 (SD345)
12-NUT M36用 (SS400)
12-Washer M36用 (SS400)
- ② 1基当りのアンカー数量
12-Anc Bolt D38x690 (SD345)
12-NUT M36用 (SS400)
12-Washer M36用 (SS400)

注）鋼製ブラケットは既存品（流用品）を使用とする

- 注記）
1. 橋脚部に関して、A2側はブラケットまで設置完了し、A1側はアンカーボルトの設置のみ完了している。
2. 設置されているブラケットを撤去し、A1側へ流用し設置を行う。
3. アンカーボルト8本/ブラケット1基

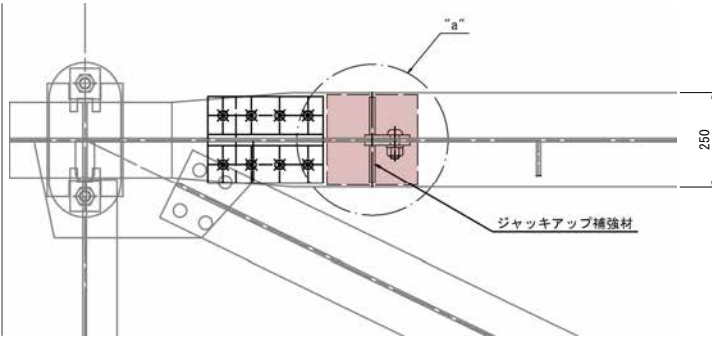
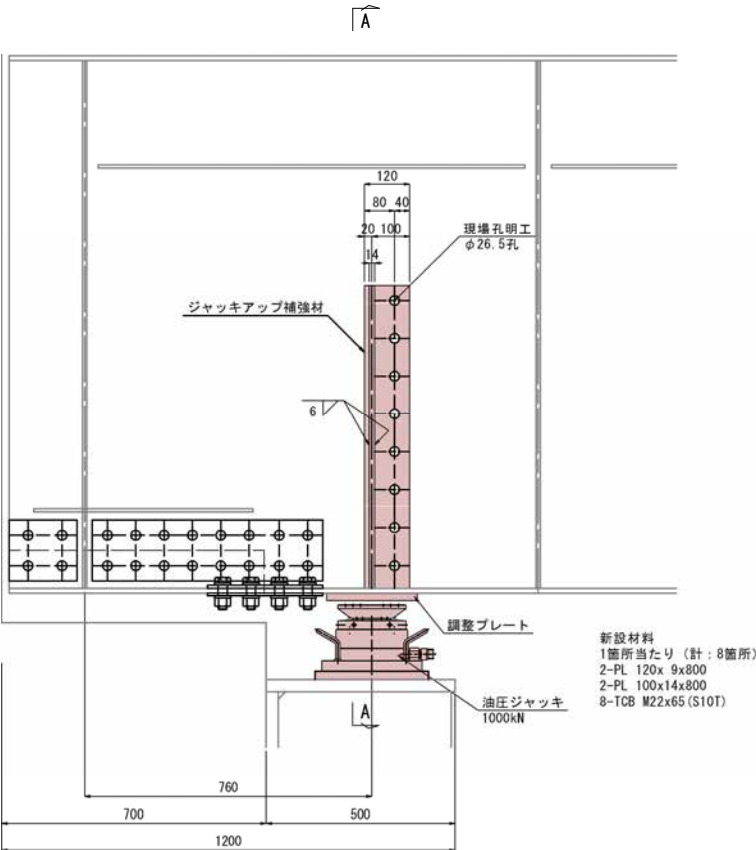
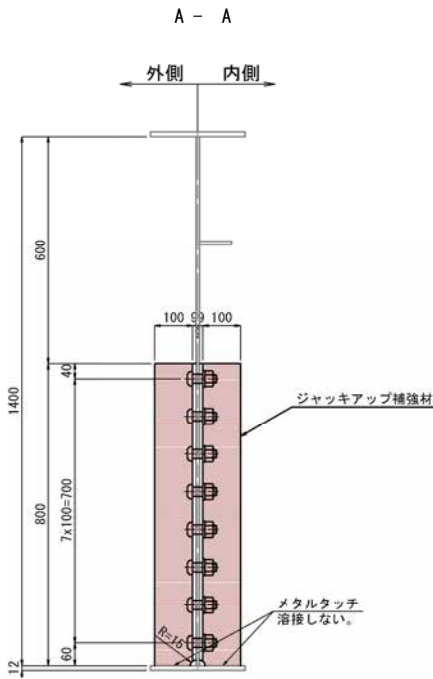
実施設計図

阿久根市	
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業 浜田橋修繕工事（2工区）
市道 路線	市道 波留大曲線
工事箇所	阿久根 郡 波留 地内 市 村
図面種類	浜田橋 支承取り替え詳細図（その2）
縮尺	図示
図面番号	全 13 葉 第 4 号

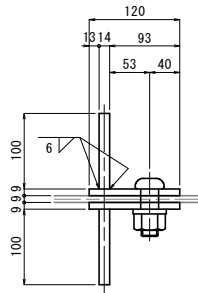
浜田橋 支承取り替え詳細図（その3）

ジャッキアップ補強材詳細図

ジャッキアップ補強材詳細 S=1:10

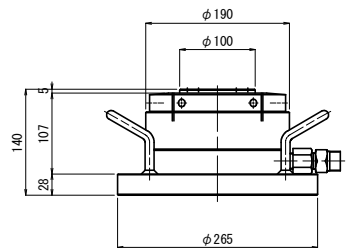
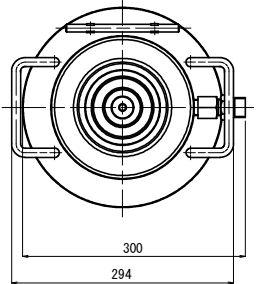


"a"部詳細図 S=1:5



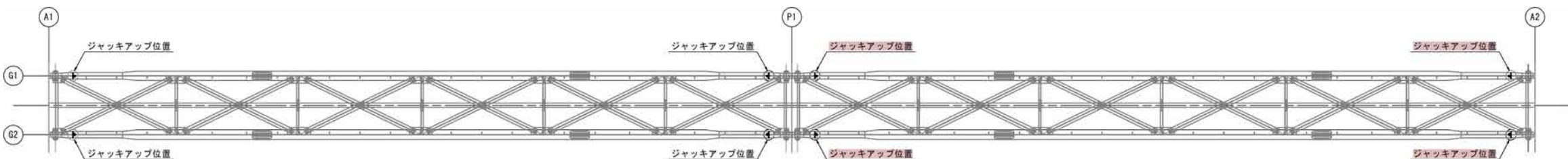
使用ジャッキ S=1:5

1000KN用
個数: 2基/1支承線上



- 注 記)
1. 特記無き材質は全てSM400Aとする。
 2. φ印はTCB (S10T) M22を示す。
 3. 本図は道路台帳、簡易測量を基に作成しているため、工事着手時に形状寸法を測定し、構造図の補正をおこなった後に作業を実施すること。
 4. 現地実測のうえ構造図の補正をおこない、部材の製作をすること。

位置図 S=1:100



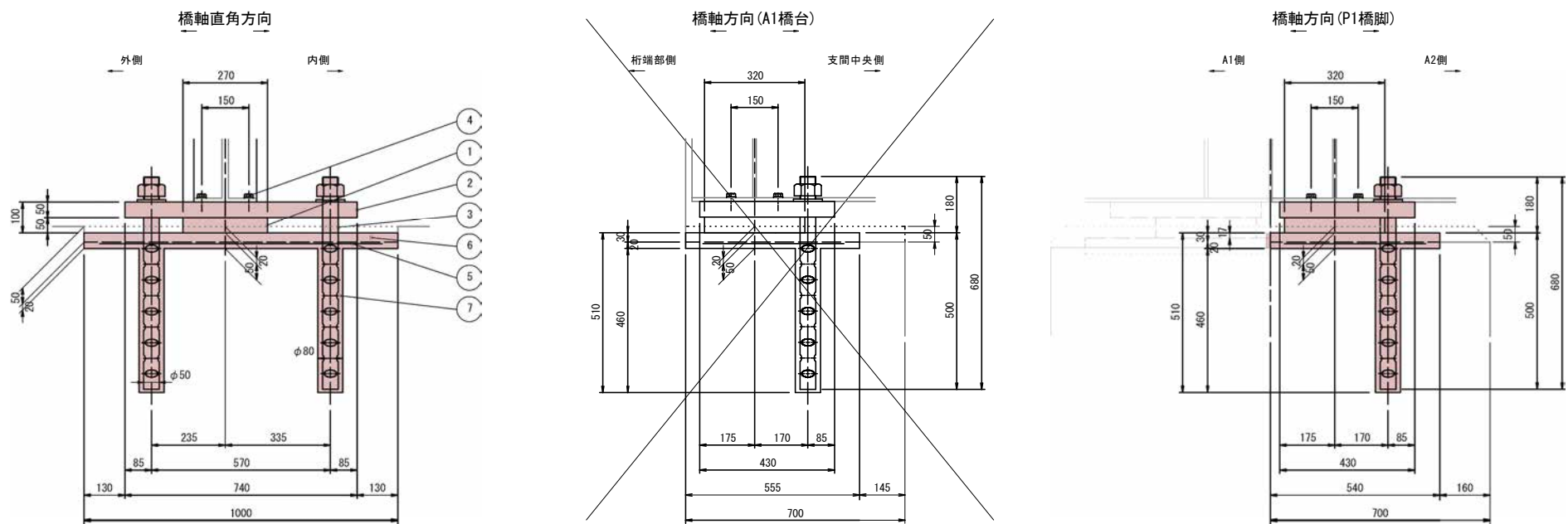
実施設計図

阿久根市	
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業 浜田橋修繕工事（2工区）
河川 路線名	市道 波留大曲線
工事箇所	阿久根 郡 波留 地内 市 村
図面種類	浜田橋 支承取り替え詳細図（その3）
縮尺	図示
図面番号	全 13 葉 第 5 号

浜田橋 支承取り替え詳細図（その4）

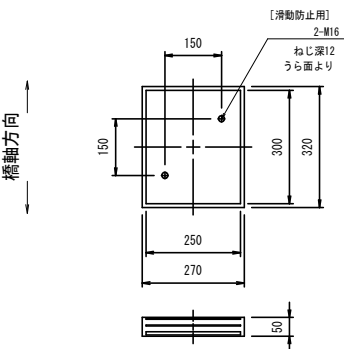
取り替え支承詳細図（固定側） S=1:10

組立図

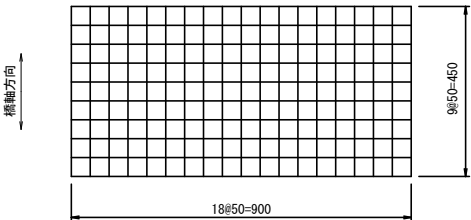


※詳細寸法は、現地実測の上決定すること。
※既設支承のソールプレートは撤去できるとして検討。
※設置勾配がある場合は別途テーパー材を設置すること。

① ゴム支承
(CR+SS400)

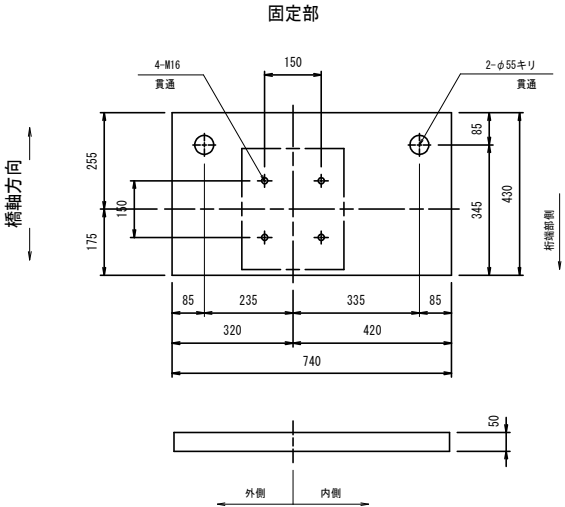


⑤ 補強格子鉄筋
(SD345)

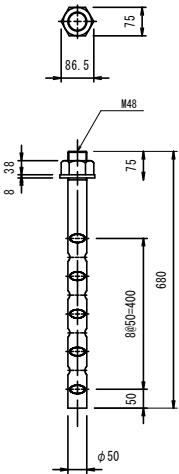


※滑動防止装置、アンカーボルトが干渉する箇所は、切断すること。

② ソールプレート
(SM490A)



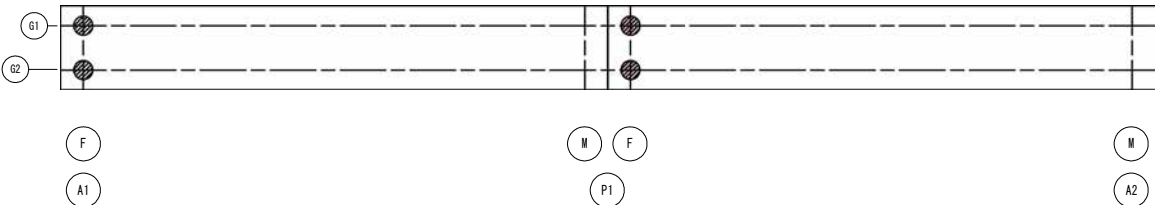
③ アンカーボルト・ナット・ワッシャー
(S35CN)



平座金 52x92x8.0 (10H)

④ セットボルト M16×L 強度区分8.8
平座金 16×30×3.2 (22H)

配置図



設計条件

		Fix	
反力	最大反力	Rmax	440 kN
	最大反力 (回転照査用)	Rmax2	410 kN
	死荷重反力	Rd	280 kN
	照査荷重	RL/2	85 kN
変位量	照査荷重時の変位量	δcl	0.24 mm
	回転変位量	δr	1.00 mm
	常時橋軸方向	ΔL1	0 mm
	地震時 橋軸方向	ΔLe1	— mm
水平変位量	橋軸直角方向	ΔLe2	— mm

材料表

(1ヶ所当たり)

部番	名称	材質	単位	数量	質量(kg)	備考
1	ゴム支承	図示	枚	1	12.9	Ge=1.0N/mm2
2	ソールプレート	SM490A	本	1	122.7	
3	アンカーボルト	S35CN	本	2	23.5	ナット・ワッシャー含む
4	セットボルト	—	本	4	—	
全質量				W:	159.1	

※O印は、ST-SGとする。
※質量は製作上の参考質量とする。

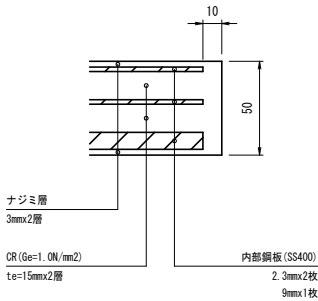
材料表

(1支承線当たり)

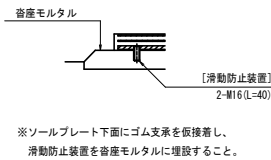
部番	名称	材質	単位	数量		備考
				A1 (F)	P1 (F)	
5	補強格子鉄筋	SD345	kg	19.66	19.66	1φ-D10x900 1φ-D10x450
6	寄座モルタル	無収縮モルタル	m3	0.056	0.054	
7	アンカー孔モルタル	無収縮モルタル	m3	0.006	0.006	

※数量は参考値とする。

積層詳細図 S = 1/2



滑動防止詳細図 S = 1/10



※ソールプレート下面にゴム支承を仮接着し、滑動防止装置を寄座モルタルに埋設すること。

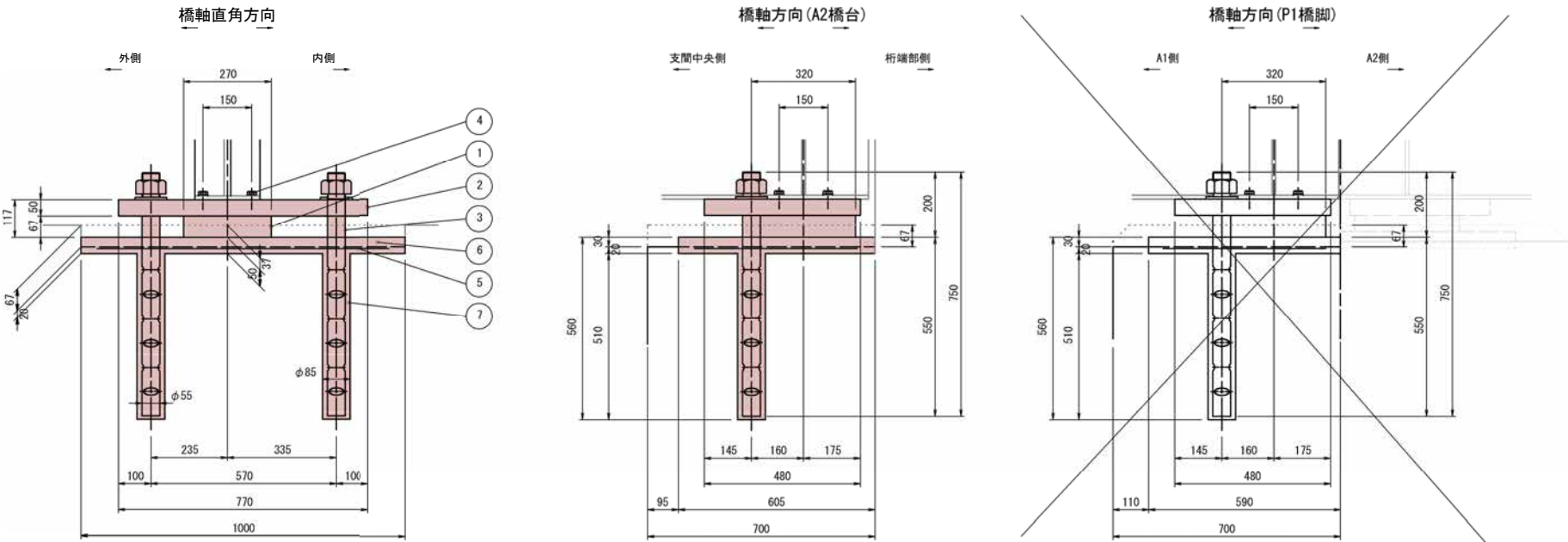
実施設計図

阿久根市	
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業 浜田橋修繕工事（2工区）
河川 路線名	市道 波留大曲線
工事箇所	阿久根 郡 波留 地内 市 村
図面種類	浜田橋 支承取り替え詳細図（その4）
縮尺	図示
図面番号	全 13 葉 第 6 号

浜田橋 支承取り替え詳細図（その5）

取り替え支承詳細図（可動側） S=1:10

組立図



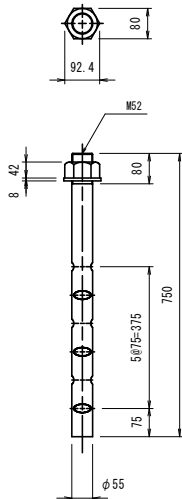
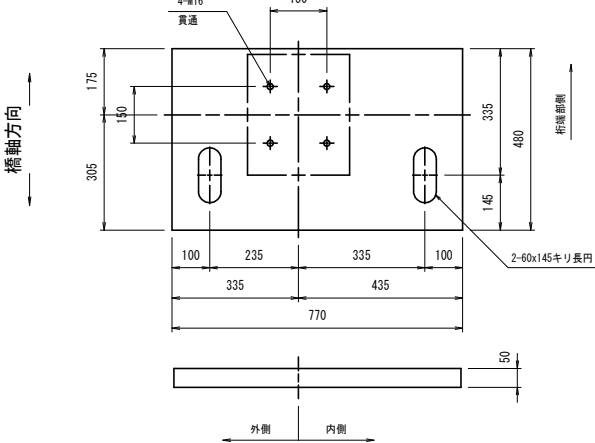
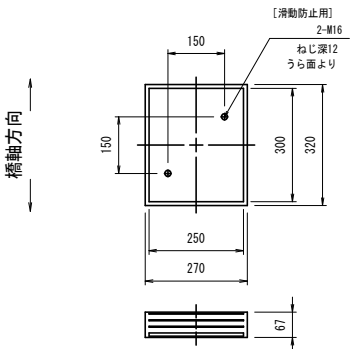
※詳細寸法は、現地実測の上決定すること。
※既設支承のソールプレートは撤去できるとして検討。
※設置勾配がある場合は別途テーパ材を設置すること。

① ゴム支承
(CR+SS400)

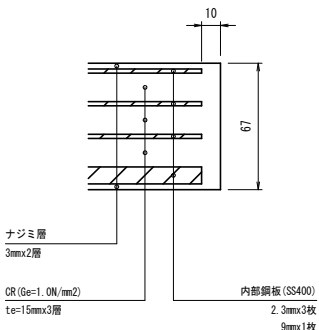
② ソールプレート
(SM490A)

③ アンカーボルト・ナット・ワッシャー
(S355CN)

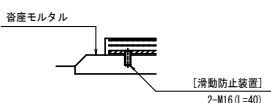
④ セットボルト M16×L 強度区分8.8
平座金 16×30×3.2 (22H)



積層詳細図 S=1/2

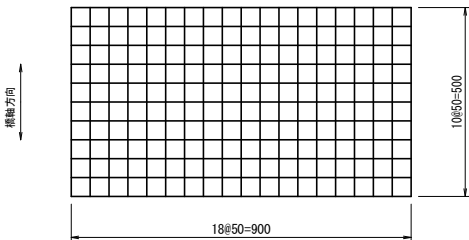


滑動防止詳細図 S= 1/10



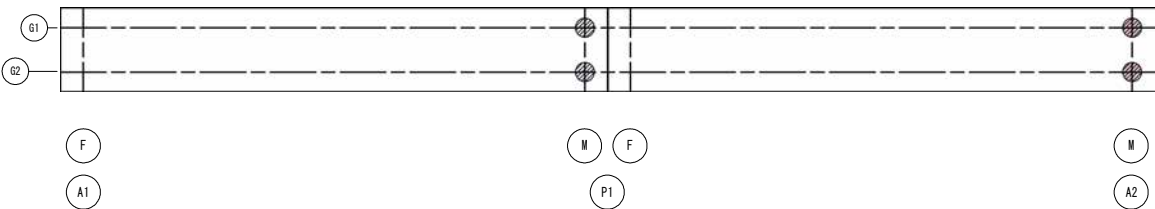
※ソールプレート下面にゴム支承を仮接着し、
滑動防止装置を資産モルタルに埋設すること。

⑤ 補強格子鉄筋
(SD345)



※滑動防止装置、アンカーボルトが干渉する箇所は、切断すること。

配置図



設計条件

		Mov	
反力	最大反力	Rmax	440 kN
	最大反力 (回転照査用)	Rmax2	410 kN
	死荷重反力	Rd	280 kN
	照査荷重	RL/2	85 kN
変位量	照査荷重時の変位量	δcl	0.37 mm
	回転変位量	δr	1.00 mm
	常時橋軸方向	$\Delta L1$	29.7 mm
	地震時橋軸方向	$\Delta Le1$	— mm
水平変位量	橋軸直角方向	$\Delta Le2$	— mm

材料表

(1ヶ所当り)

部番	名称	材質	単位	数量	質量(kg)	備考
1	ゴム支承	図示	枚	1	16.2	Ge=1.0N/mm2
2	ソールプレート	SM490A	本	1	138.5	
3	アンカーボルト	S355CN	本	2	31.1	ナット・ワッシャー含む
4	セットボルト	—	本	4	—	
全質量				W:	185.8	

※○印は、ST-SGとする。
※質量は製作上の参考質量とする。

材料表

(1支承線当り)

部番	名称	材質	単位	数量		備考
				P1 (M)	A2 (M)	
5	補強格子鉄筋	SD345	kg	21.73	21.73	11-φ10x900 12-φ10x500
6	資産モルタル	無収縮モルタル	m3	0.061	0.059	
7	アンカー孔モルタル	無収縮モルタル	m3	0.007	0.007	

※数量は参考値とする。

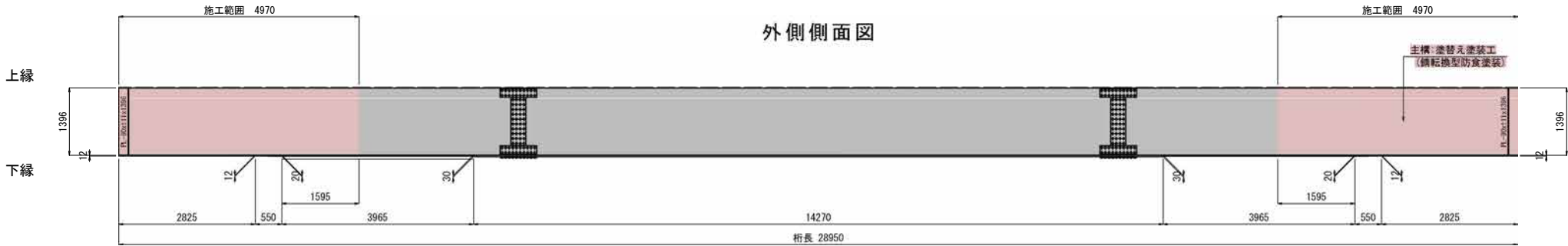
実施設計図

阿久根市	
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業 浜田橋修繕工事（2工区）
河川 路線名	市道 波留大曲線
工事箇所	阿久根 郡 波留 地内 市 村
図面種類	浜田橋 支承取り替え詳細図（その5）
縮尺	図示
図面番号	全 13 葉 第 7 号

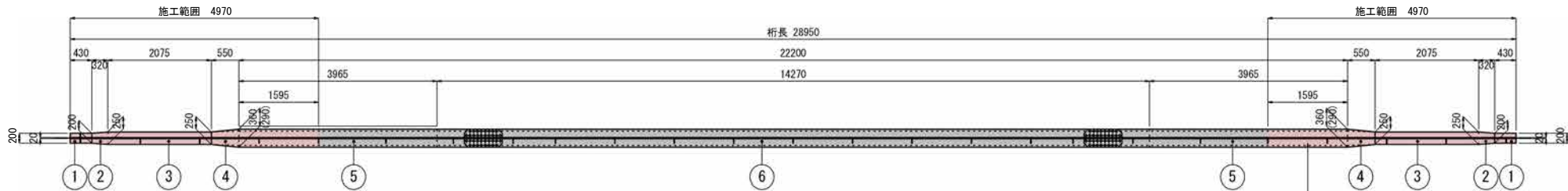
浜田橋 塗替え塗装工詳細図（その1）

主桁（主構） S=1:60

外側側面図

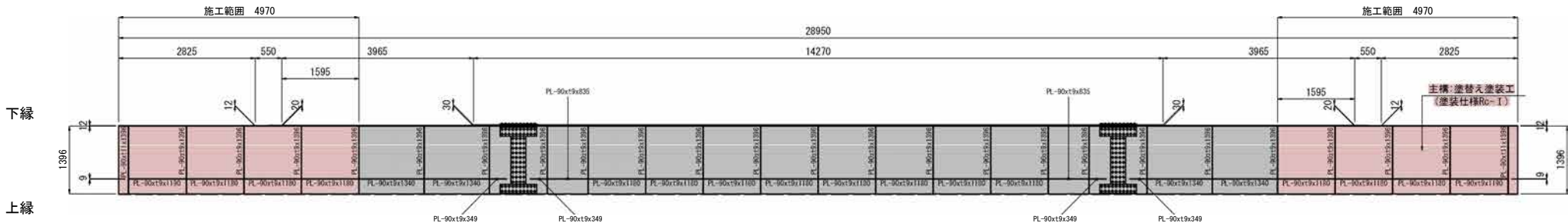


下縁平面図

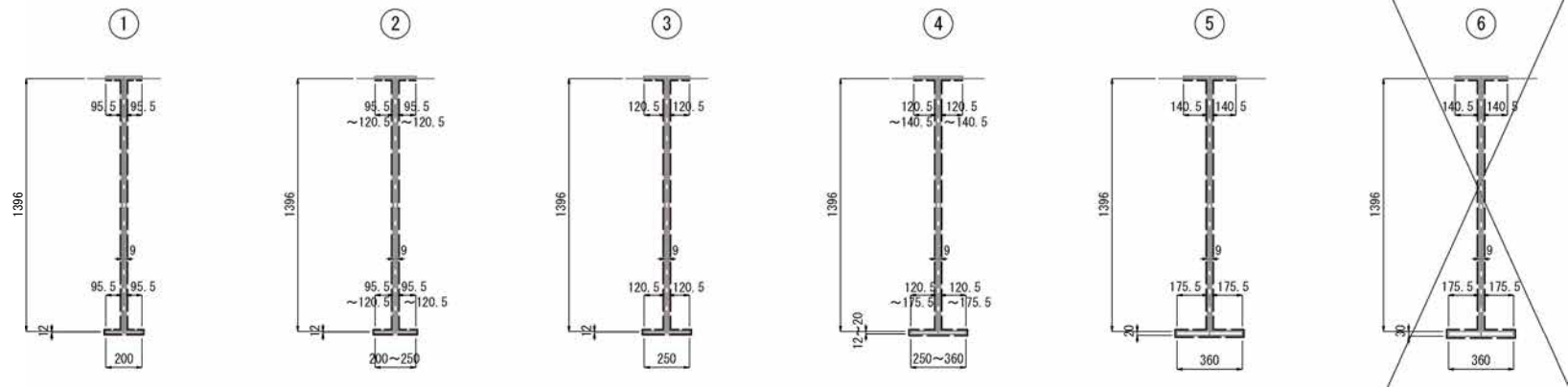


注）（ ）内数値は、上縁の主構幅を示す。

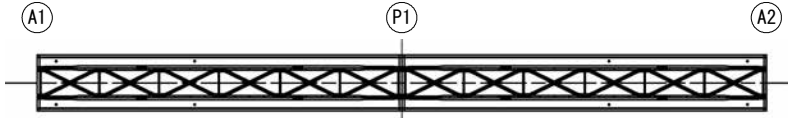
内側側面図



主構断面図 S=1:20



位置図



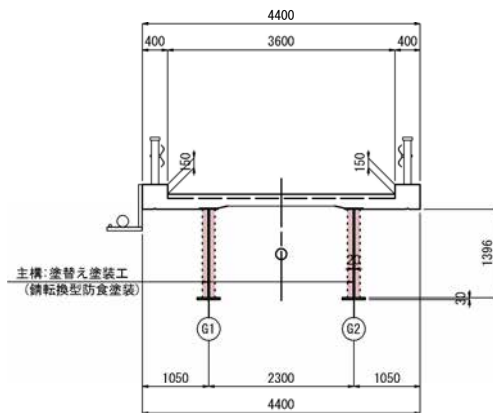
主構		(主構1本当り)	
	周長 (mm)	延長 (mm)	備 考
①	3398	860	430x2
②	3473 (平均)	640	320x2
③	3548	4150	2075x2
④	3686 (平均)	1100	550x2
⑤	3824	3190	1595x2
合計		9940	

リブプレート		(主構1本当り)	
リブプレート	枚 数	備 考	
PL-90xt11x1396	4		
PL-90xt9x1396	7	6枚+片面2枚	
PL-90xt9x1180	6		
PL-90xt9x1190	2		

注記)

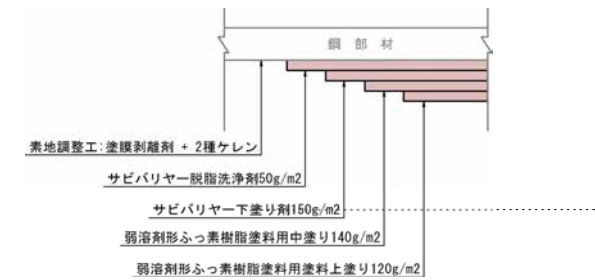
- 着工前には必ず現況寸法実測を行い、図面・数量照合等の確認の後、施工を行う事。
 - 塗膜剥離剤選定・除去回数については着工前に試験施工を実施して決定すること。
- それに伴い、数量精査も実施すること。

断面図（支間中央部） S=1:60



塗 装 仕 様

錆転換型防食塗装



工 程	塗料名	膜厚	使用量
素地調整工	塗膜剥離剤 + 2種ケレン	-	-
脱脂・洗浄工	サビバリヤー脱脂洗浄剤	-	50g/m2
下塗り	サビバリヤー下塗り剤	70 μ m	150g/m2
中塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗り	30 μ m	140g/m2
上塗り	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗り	25 μ m	120g/m2

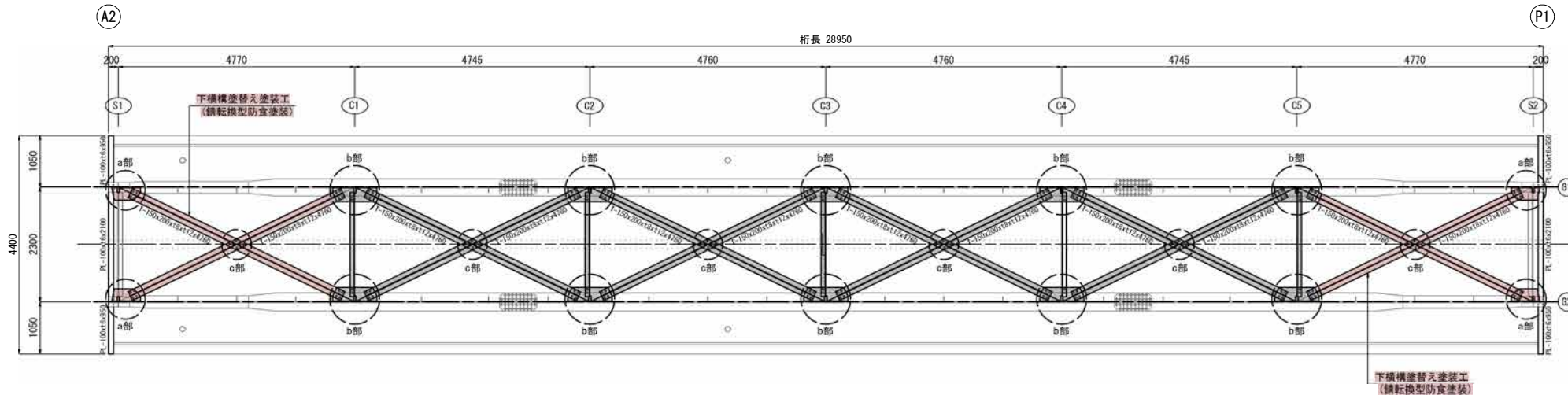
- 注） 1. 塗装作業は、「日本道路協会鋼道路橋防食便覧」に従って行うこと。
2. 施工時は再度塗装面積の確認を行い、数量を最終決定すること。
3. 製品・仕様については、材料確認のうえ施工を実施すること。
（参考仕様：（株）エコクリーン 錆転換型防食塗装錆バリヤーを示す）
4. 本橋は塗膜成分にPOB・鉛が含まれているため、塗膜剥離剤を使用する。
また、湿潤式塗膜除去による2回塗りを想定とする。
5. 塗膜剥離剤選定・除去回数については着工前に試験施工を実施して決定すること。
それに伴い、数量精査も実施すること。

実施設計図

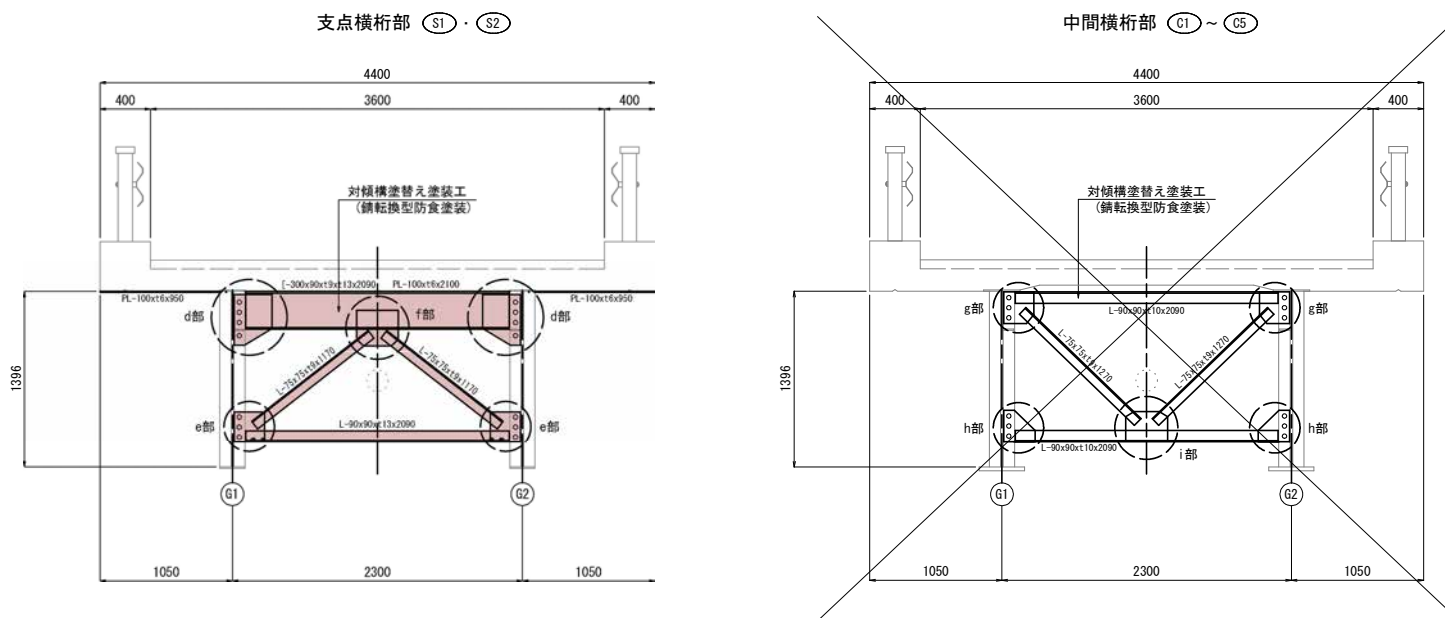
阿 久 根 市	
工 事 名	令和7年度 道路メンテナンス事業 浜田橋修繕工事（2工区）
河川 路 線	市道 波留大曲線
工事箇所	阿久根 郡 波留 地内 市 村
図面種類	浜田橋 塗替え塗装工詳細図（その1）
縮 尺	図 示
図面番号	全 13 葉 第 8 号

浜田橋 塗替え塗装工詳細図 (その2)

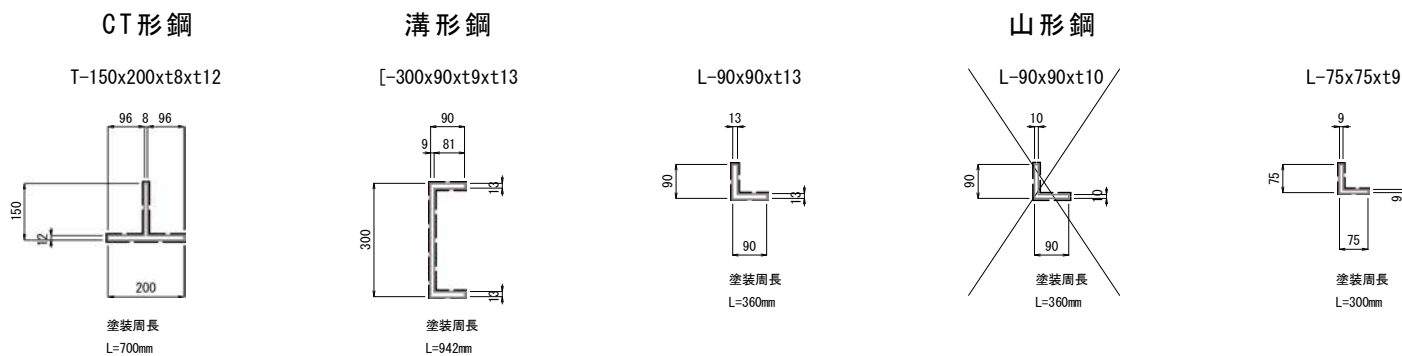
下横構平面図 S=1:60



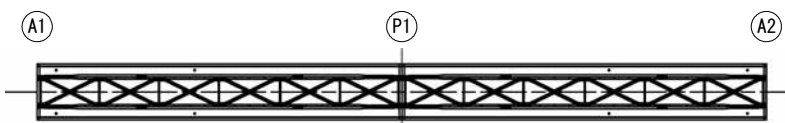
対傾構断面図 S=1:30



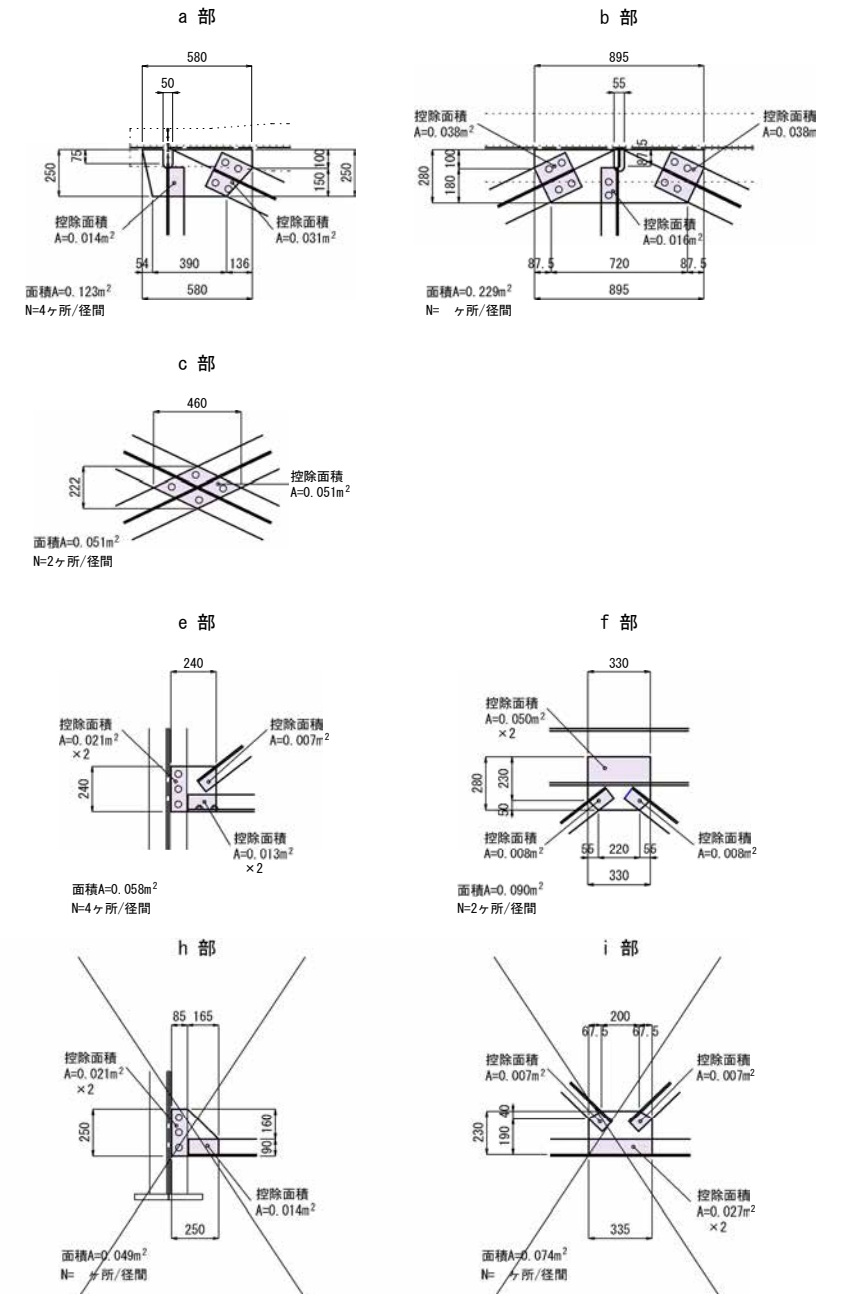
各部材詳細図 S=1:10



位置図



各部詳細図 S=1:20



部材		(1径間当り)			
部	材	延長 (mm)	周長 (mm)	本数	備考
CT形鋼	T-150x200x8x12	4760	700	4	
溝形鋼	L-300x90x9x13	2090	942	2	支点横桁部
山形鋼	L-90x90x13	2090	360	2	支点横桁部
	L-75x75x9	1170	300	4	支点横桁部
平鋼	PL-100x6	2100		2	床版桁端部
		950		4	

注記)

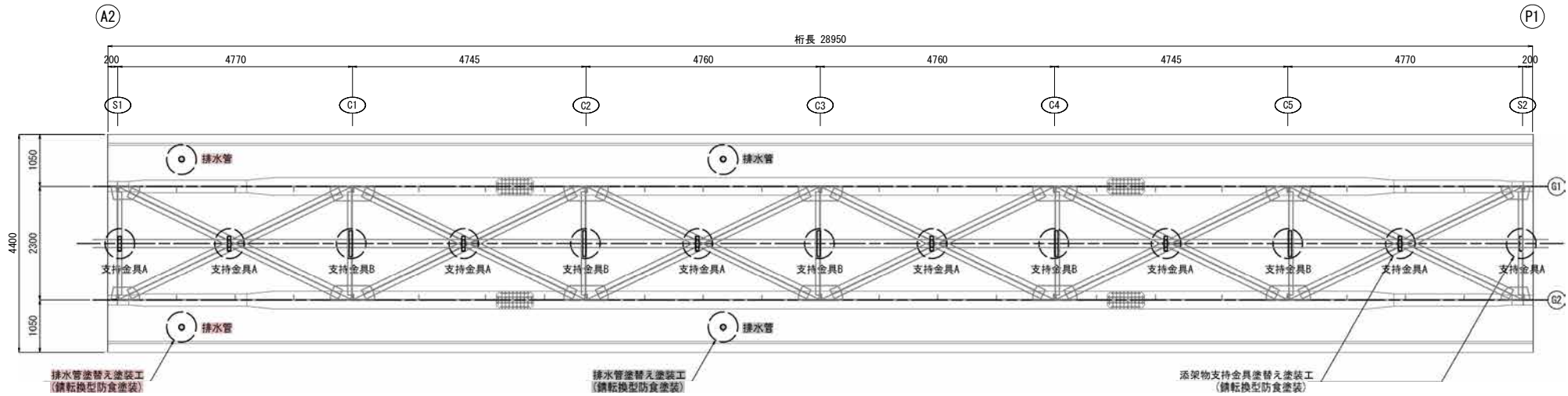
- 着工前には必ず現況寸法実測を行い、図面・数量照合等の確認の後、施工を行う事。
 - 塗膜剥離剤選定・除去回数については着工前に試験施工を実施して決定すること。
- それに伴い、数量精査も実施すること。

実施設計図

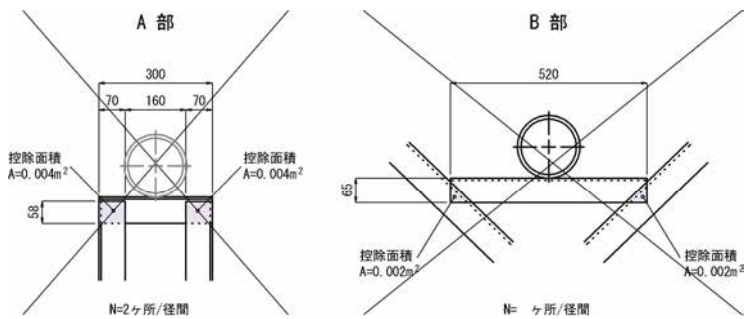
阿久根市	
工事名	令和7年度 道路メンテナンス事業 浜田橋修繕工事 (2工区)
河川 路線名	市道 波留大曲線
工事箇所	阿久根 郡 波留 町 地内 市 村
図面種類	浜田橋 塗替え塗装工詳細図 (その2)
縮尺	図示
図面番号	全 13 葉 第 9 号

浜田橋 塗替え塗装工詳細図 (その3)

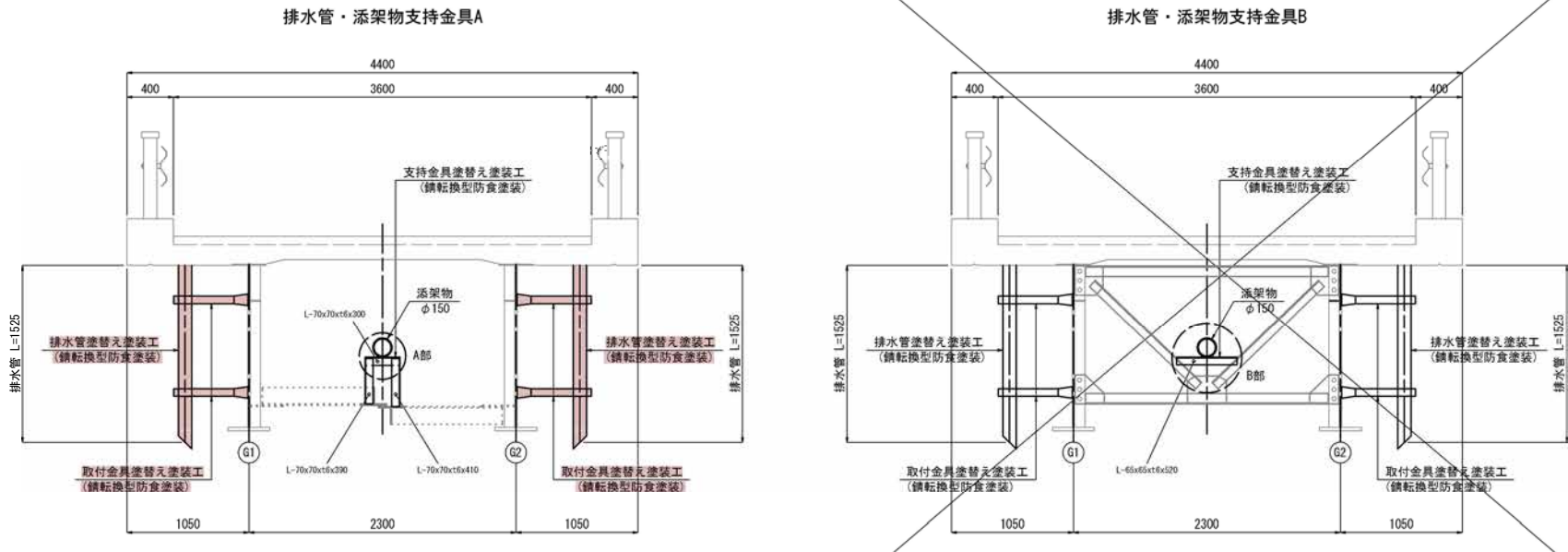
排水管・添架物支持金具平面図 S=1:60



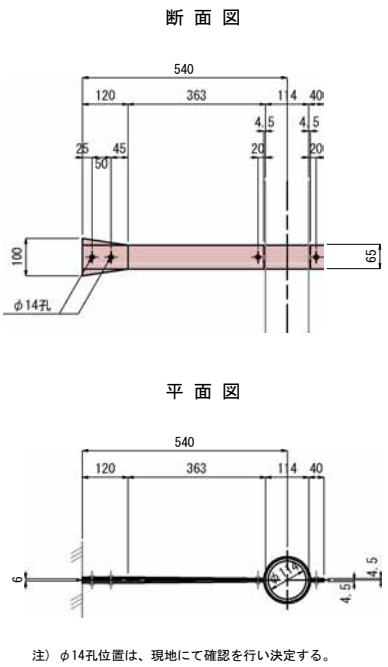
各部詳細図 S=1:10



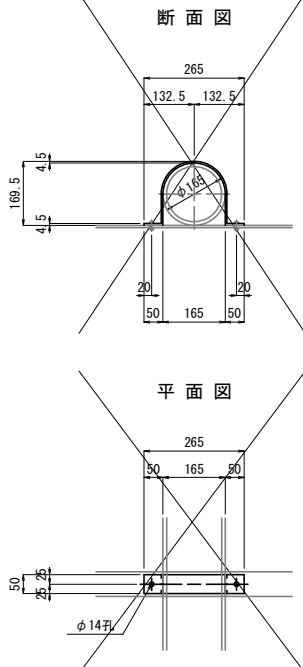
排水管・添架物支持金具断面図 S=1:30



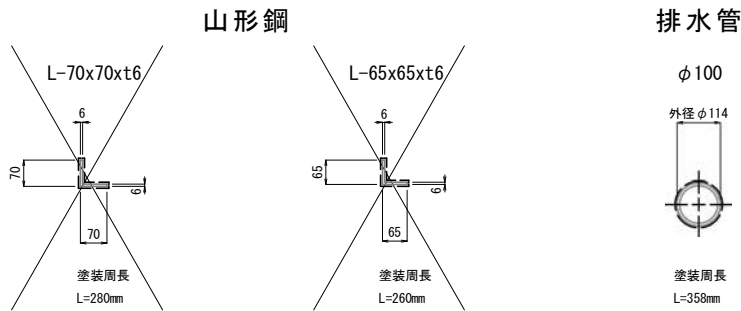
排水管取付金具 S=1:10



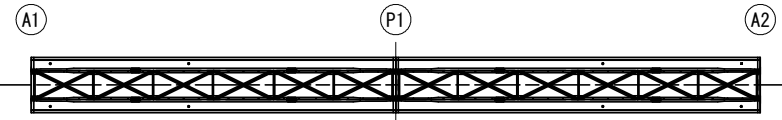
添架物支持金具バンド S=1:10



各部材詳細図 S=1:10



位置図



部材		(1径間当り)			
部 材	延長 (mm)	周長 (mm)	本 数	備 考	
排水管	φ 100	1525	358	2	

塗替え塗装 N=4組/径間(全8組)

取付け金具取替え工 全N=2組
W=3.2kg/組
2 PL 65 x 4.5 x 700
4 BN M12 x 40 (SUS304)

※ 排水施設(取付金具)の取替えヶ所は、A2橋台側のG1側。

塗替え塗装 N= 組/径間

支持金具取替え工 全N= 組
W=0.9kg/組
1 PL 50 x 4.5 x 522
2 BN M12 x 40 (SUS304)

実施設計図

阿 久 根 市	
工 事 名	令和7年度 道路メンテナンス事業 浜田橋修繕工事(2工区)
河川 路 線 名	市道 波留大曲線
工事箇所	阿久根 郡 波留 地内 市 村
図面種類	浜田橋 塗替え塗装工詳細図 (その3)
縮 尺	図 示
図面番号	全 13 葉 第 10 号

注記)
1. 着工前には必ず現況寸法実測を行い、図面・数量照合等の確認の後、施工を行う事。
2. 塗膜剥離剤選定・除去回数については着工前に試験施工を実施して決定すること。
それに伴い、数量精査も実施すること。

浜田橋 表面含浸工詳細図（その3）

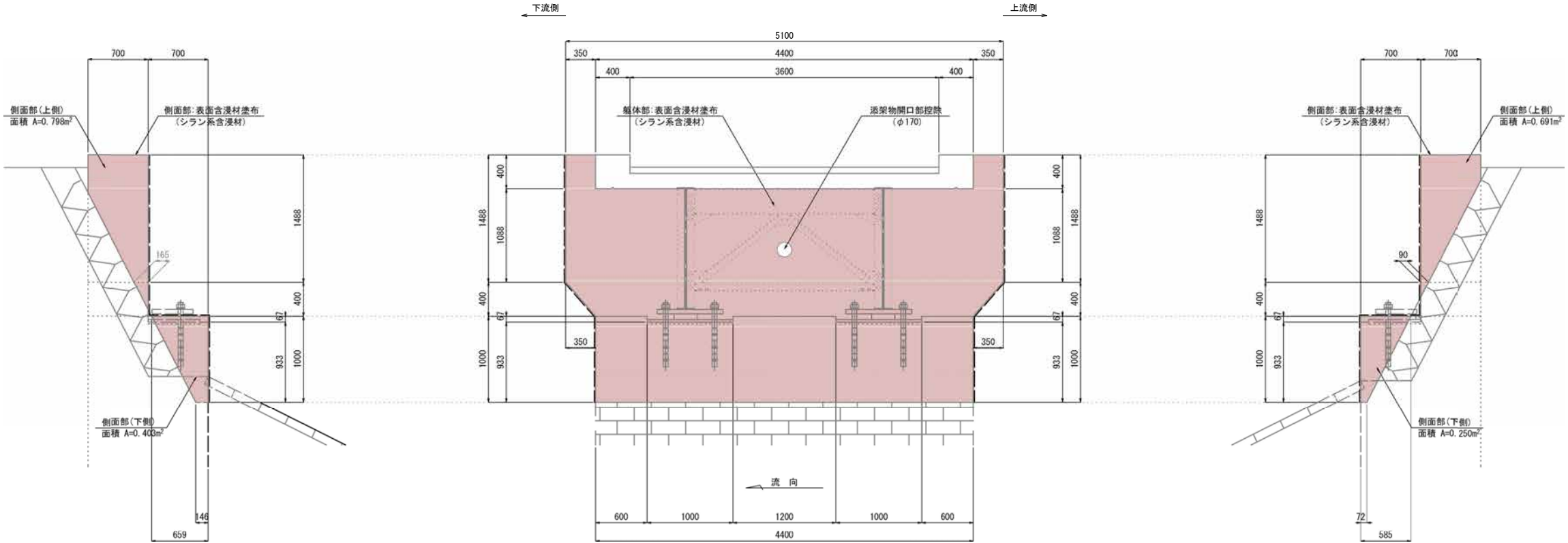
（下部工）

A2橋台 S=1:30

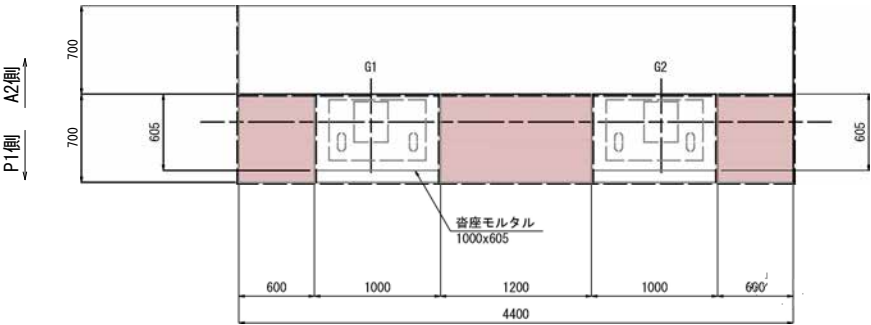
正面図

上流側側面図

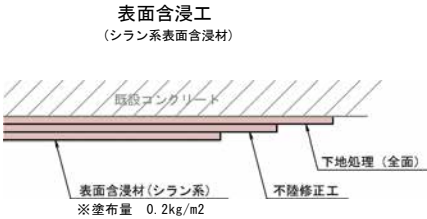
下流側側面図



平面図



補修図



下地処理工
清掃工
含浸材塗布工
養生

参考仕様例（シラン系吸水防止型）

工 程	標準使用量 (kg/m ²)	施工方法	塗重ね 工程間隔
素地調整・下地処理	別 途	—	
下地の確認および清掃	別 途	—	
1 シラン系 表面含浸材含浸	0.21 (ロス率込み)	ローラー 刷毛塗り	

注1. 材料基準・仕様・施工等は、(社)土木学会 表面保護工法設計施工指針(案)に準拠す
使用量・施工方法については、製品確認を行い決定すること。

- ※1. 表面含浸工は中性化対策を目的とし、仕様材料は(社)土木学会 表面保護工法設計施工指針(案)の
グレードAを満足する製品とすること。
※2. 前処理として、断面修復工・ひびわれ補修工・塗布面全面の下地処理・不陸修正を行うこと。
※3. 下地処理とはコンクリート表面全体にわたリサンダーケレンを実施し、脆弱部を除去するものとする。
※4. 施工にあたっては、施工範囲を決定したうえで、材料製造業者の指定する施工手順に従って行うこと。
※5. 表面含浸材を数回に分けて含浸する場合、塗重ね工程間隔などは製造業者の指定する方法に従うこと。
※6. 材料基準・仕様・施工等は、(社)土木学会 表面保護工法設計施工指針(案)に準拠すること。
※7. 表面含浸材はシラン系（吸水防止材）とすること。

注記)

1. 着工前には必ず現況寸法実測を行い、図面・数量照合等の確認の後、施工を行う事。

実施設計図

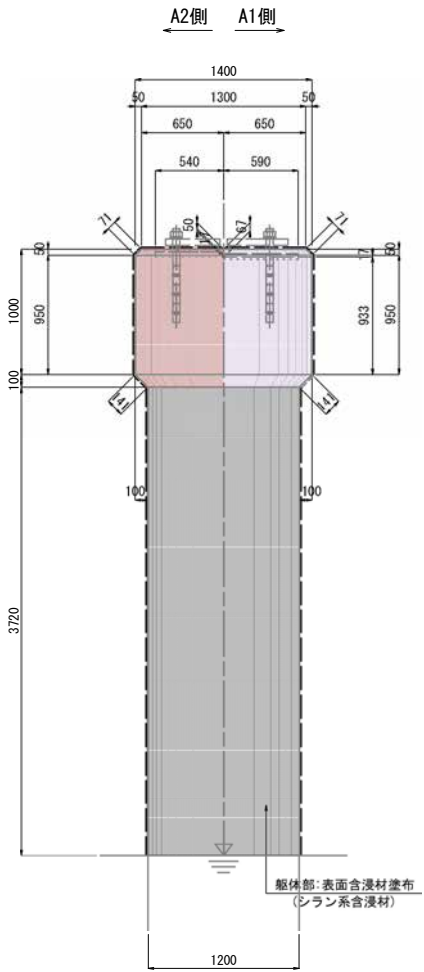
阿 久 根 市	
工 事 名	令和7年度 道路メンテナンス事業 浜田橋修繕工事（2工区）
河川 路 線 名	市道 波留大曲線
工事箇所	阿久根 郡 波留 地内 市 市 村
図面種類	浜田橋 表面含浸工詳細図（その3）
縮 尺	図 示
図面番号	全 13 葉 第 11 号

浜田橋 表面含浸工詳細図（その4）

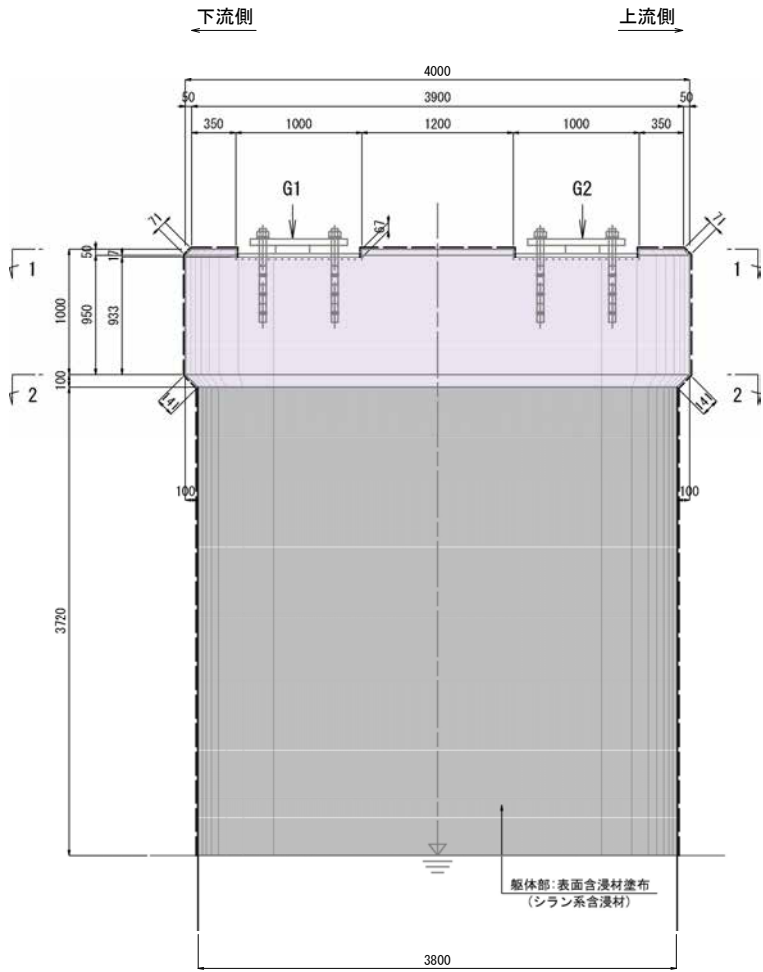
（下部工）

P1橋脚 S=1:30

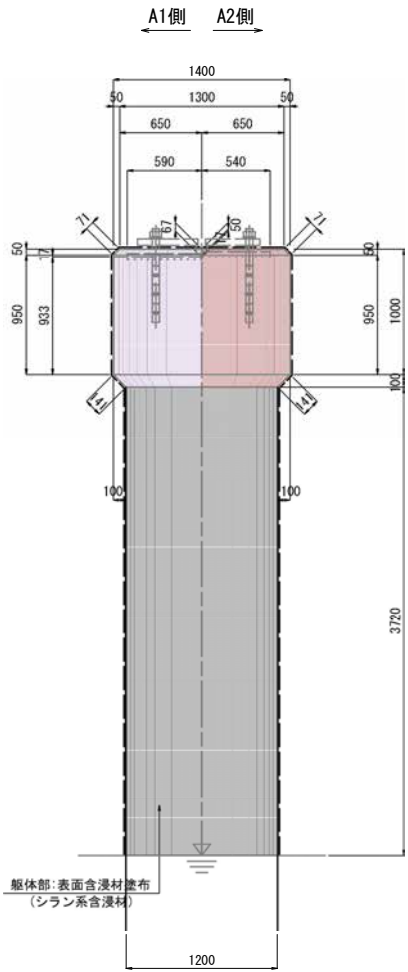
下流側側面図



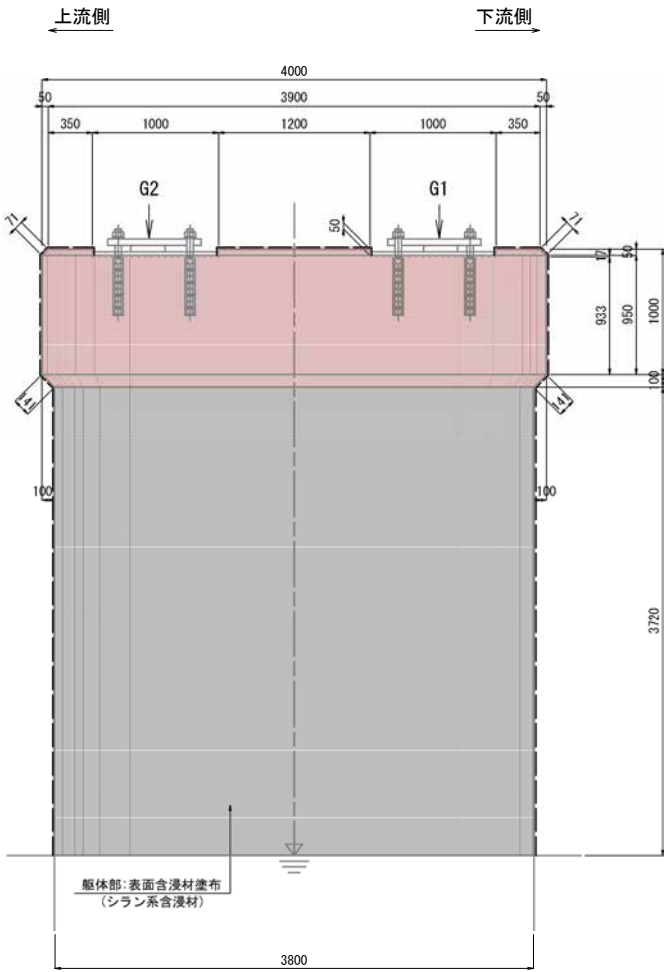
正面図 (A1側)



上流側側面図



正面図 (A2側)

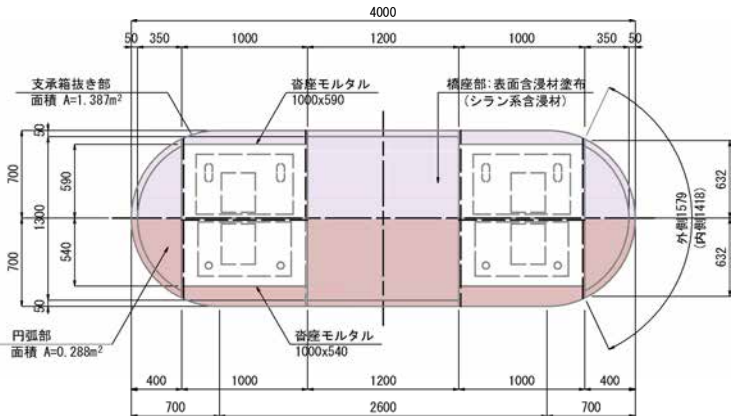


流 向

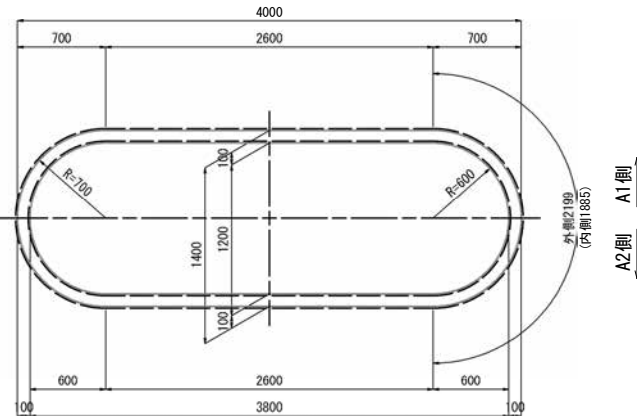
流 向

平面図

1 - 1

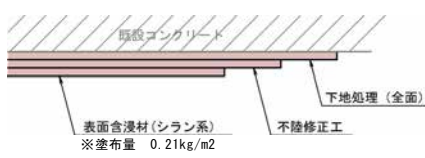


2 - 2



補修図

表面含浸工
(シラン系表面含浸材)



- ※1. 表面含浸工は中性化対策を目的とし、仕様材料は(社)土木学会 表面保護工法設計施工指針(案)のグレードAを満足する製品とすること。
- ※2. 前処理として、断面修復工・ひびわれ補修工・塗布面全面の下地処理・不陸修正を行うこと。
- ※3. 下地処理とはコンクリート表面全体にわたりサンダーケレンを実施し、脆弱部を除去するものとする。
- ※4. 施工にあたっては、施工範囲を決定したうえで、材料製造業者の指定する施工手順に従って行うこと。
- ※5. 表面含浸材を数回に分けて含浸する場合、塗重ね工程間隔などは製造業者の指定する方法に従うこと。
- ※6. 材料基準・仕様・施工等は、(社)土木学会 表面保護工法設計施工指針(案)に準拠すること。
- ※7. 表面含浸材はシラン系（吸水防止材）とすること。

参考仕様例（シラン系吸水防止型）

工 程	標準使用量 (kg/m ²)	施工方法	塗重ね 工程間隔
素地調整・下地処理	別 途	—	—
下地の確認および清掃	別 途	—	—
1 シラン系 表面含浸材含浸	0.21 (ロス率込み)	ローラー 刷毛塗り	

注1. 材料基準・仕様・施工等は、(社)土木学会 表面保護工法設計施工指針(案)に準拠す
使用量・施工方法については、製品確認を行い決定すること。

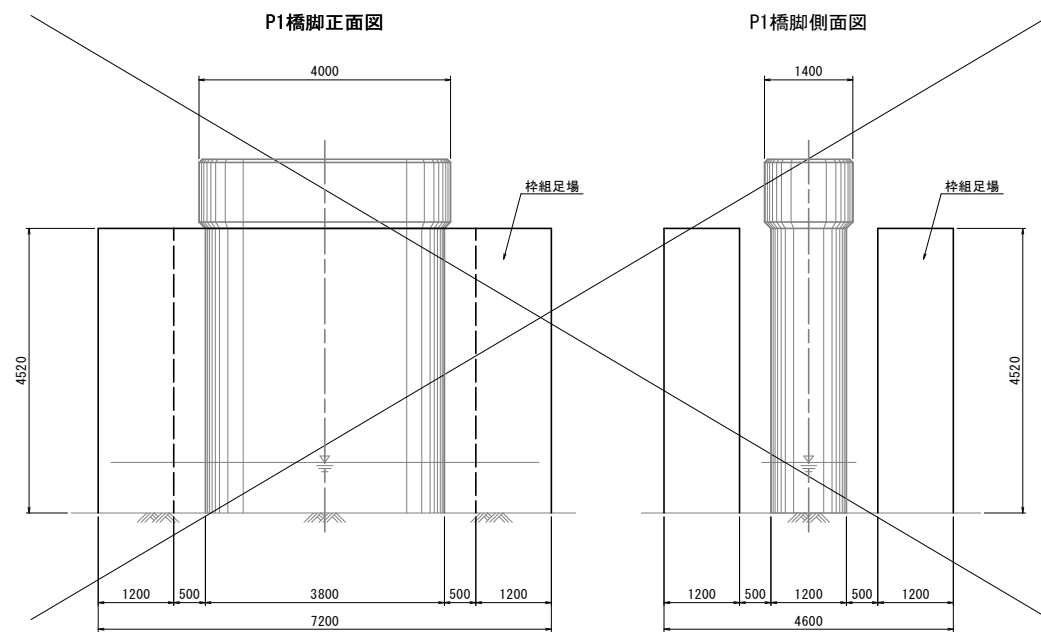
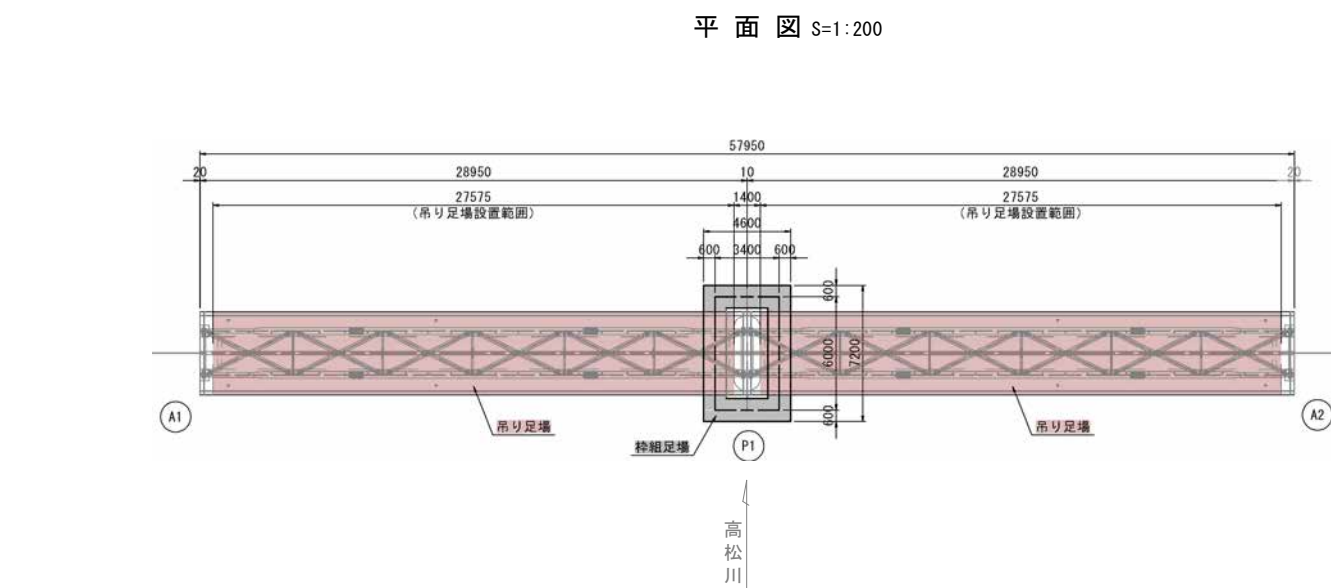
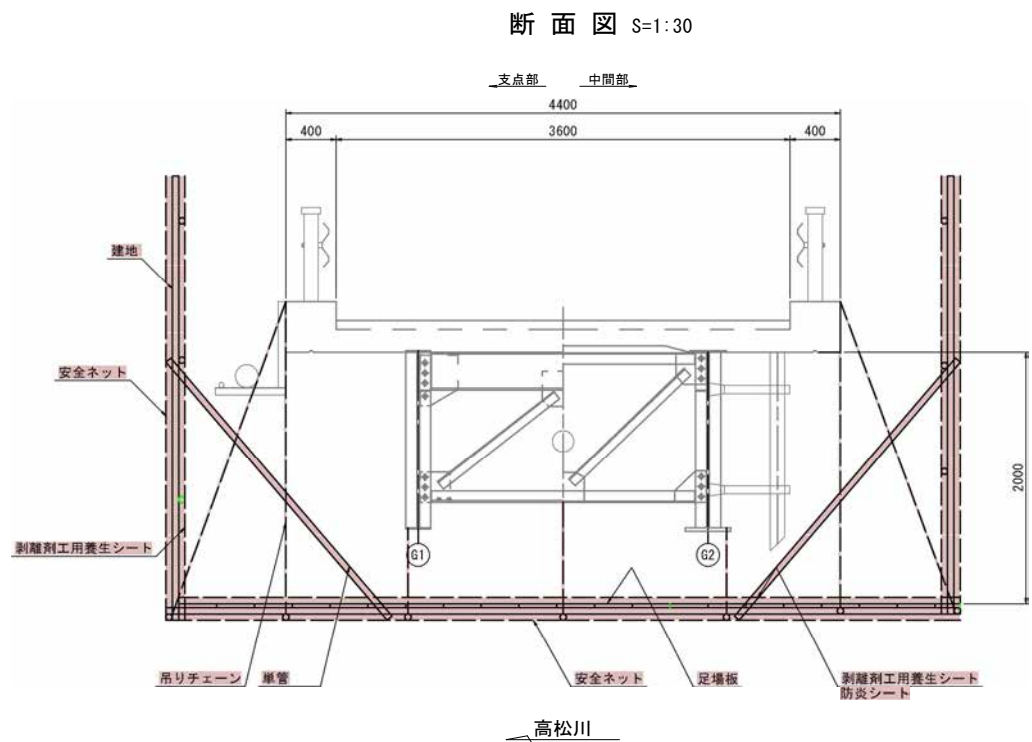
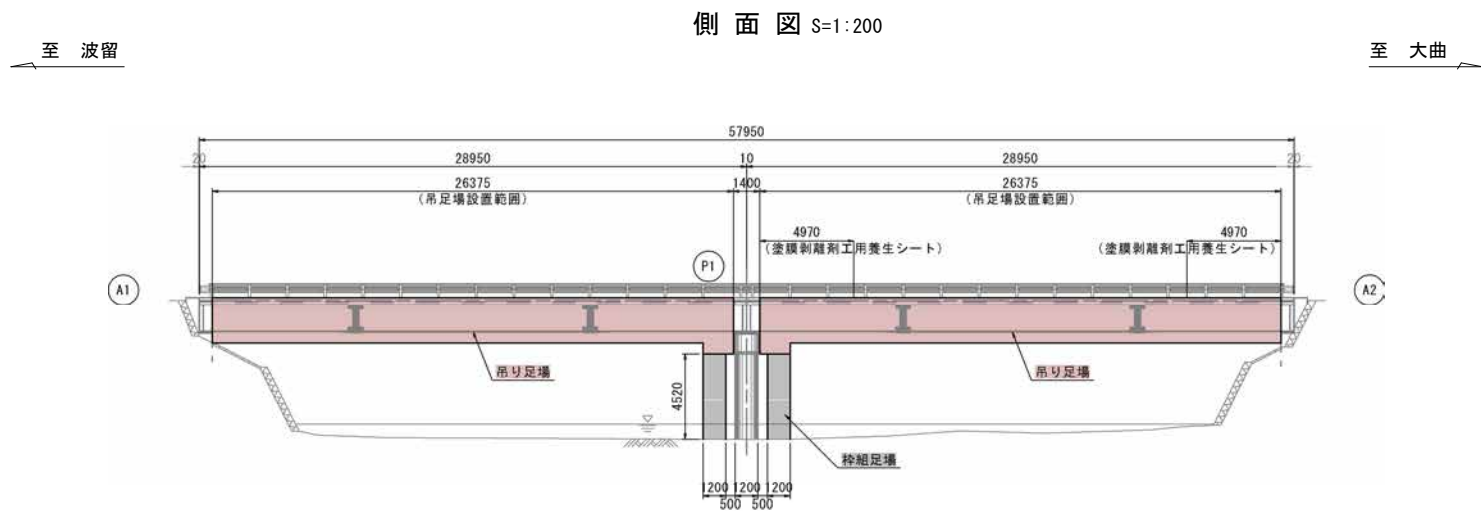
注記

1. 着工前には必ず現況寸法実測を行い、図面・数量照合等の確認の後、施工を行う事。

実施設計図

阿 久 根 市	
工 事 名	令和7年度 道路メンテナンス事業 浜田橋修繕工事（2工区）
河川 路 線 名	市道 波留大曲線
工事箇所	阿久根 郡 波留 地内 市 村
図面種類	浜田橋 表面含浸工詳細図（その4）
縮 尺	図 示
図面番号	全 13 葉 第 12 号

浜田橋 足場参考図



実施設計図

阿 久 根 市	
工 事 名	令和 7 年度 道路メンテナンス事業 浜田橋修繕工事（2 工区）
河 川 路 線 名	市道 波留大曲線
工事箇所	阿久根 郡 波留 地内 市 村
図面種類	浜田橋 足場参考図
縮 尺	図 示
図面番号	全 13 葉 第 13 号

- 注記）
- 着工前には必ず現況寸法実測を行い、図面・数量照合等の確認の後、施工を行う事。
 - 本図面は、参考図扱いであることから、施工の際は現地調査・状況を
確認後に適宜検討の上で施工を実施すること。
 - 上部工に削孔・アンカーを打ち込む際は、鋼材を損傷しないよう鉄筋探査を行い、
適宜検討の上で施工を実施すること。
 - 塗膜除去・素地調整・塗装の際は、養生・飛散防止・安全管理を十分に行うこと。